

令和5年度
外部評価報告書

九州産業大学
九州産業大学造形短期大学部

目 次

I	外部評価委員会の実施概要	1
II	外部評価委員による評価までの経緯等	1
III	外部評価委員名簿	2
IV	外部評価委員による外部評価結果	3
	設問1 : 第4章 教育課程・学習成果について【九州産業大学】	3
	同 【九州産業大学造形短期大学部】	5
	設問2 : 第5章 学生の受け入れについて【九州産業大学】	6
	同 【九州産業大学造形短期大学部】	6
	設問3 : 第7章 学生支援について【九州産業大学】	7
	同 【九州産業大学造形短期大学部】	7
	設問4 : その他	8

V 委員会資料

- 参考資料1 : 外部評価委員会 名簿一覧
- 参考資料2 : 外部評価委員会における検証項目
- 資料1-1 : 主体的な学修の支援と教育質保証の仕組み
- 資料1-2 : Stanford e-KyuSanU 2023
- 資料2-1 : 近年の入試実績と令和6年度学生募集 (学内限定)
- 資料2-2 : 大学院入試実績と学生募集の取り組み (学内限定)
- 資料2-3 : 短大の状況と対応について (学内限定)
- 資料3-1 : 学生数及び除退率等の推移【H24(2012)年度～R4(2022)年度】 (学内限定)
- 資料3-2 : 就職決定状況について (学内限定)

VI 別添資料

- ① 1年間の取り組み2022 KSU Annual Report 2022
- ② KSU GLOBAL LEADERSHIP PROGRAM
- ③ KSU プロジェクト型教育 2022年度 学部間・学外との取り組み事例
- ④ 『九産大 この10年の変遷!』

VII 参考資料

- ① 外部評価委員会規程
- ② 内部質保証システム (イメージ図)

令和5年度 外部評価報告書

I 外部評価委員会の実施概要

1. 日 時 : 令和5年11月9日(木) 13時23分～17時00分
2. 場 所 : 学校法人中村産業学園 本館3階大会議室
3. 評価項目 :
 1. 「第4章 教育課程・学習成果」
 2. 「第5章 学生の受け入れ」
 3. 「第7章 学生支援」
 4. その他の自己点検・評価項目及び学園業務等全般

(参 考)

※ 令和5年度外部評価委員会の評価について(九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部)

- 設問1 : 第4章 教育課程・学習成果について
設問2 : 第5章 学生の受け入れについて
設問3 : 第7章 学生支援について
設問4 : その他、ご意見等があればご記入ください。

- ◆ 評価項目である3点(設問1～3)については、各々について4段階(4 大変適切である
3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない)で評点を付していただくとともに、全4項目について意見を聴取した。

II 外部評価委員による評価までの経緯等

- ・ 9月11日(月) 外部評価に係る資料の送付
(九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部 自己点検・評価報告書、
令和5年度の外部評価委員会について等)
- ・ 10月 3日(火)・5日(木)・6日(金)
外部評価委員を訪問し、委員会当日の流れ及び事前ヒアリング
- ・ 11月 9日(木) 令和5年度 外部評価委員会
- ・ 11月16日(木) 外部評価委員会 評価票提出期限

Ⅲ 外部評価委員名簿

(順不同・敬称略)

		氏 名	所 属 等 (令和5年11月9日現在)
1	委員長	津 上 賢 治	学校法人中村産業学園 理事長 (九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部)
2	委員	入 江 浩 幸	株式会社西日本シティ銀行 代表取締役 副頭取
3	委員	津 野 喜久代	九州電力株式会社 執行役員 ビジネスソリューション統括本部 人材活性化本部長
4	委員	星 野 裕 志	九州大学 大学院 経済学研究院 教授 産業マネジメント専攻 ユヌス・椎木ソーシャルビジネス研究センター長
5	委員	深 堀 聰 子	九州大学 未来人材育成機構 教授 評価・改善支援部門 部門長
6	委員	縣 博 夫	福岡県 人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局長
7	委員	三 宅 竜 哉	福岡県立福岡高等学校 校長

※ 委員長の津上賢治（学校法人中村産業学理事長）は、外部評価委員会の議事進行に務め、評価は行わない。

IV 外部評価委員による外部評価結果

設問1 : 第4章 教育課程・学習成果について

- 九州産業大学及び九州産業大学造形短期大学部自己点検・評価報告書等に基づき外部評価を行い、以下の評価（評点）結果及び主な意見等について記載する。

【九州産業大学】

（評点）[評点…4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない]

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	3	3	3	3	4	3.2

（主な意見等）

- 「KSU基盤教育」、「専門教育」、「KSUプロジェクト型教育」により、基礎力向上、専門性の深化、実践力・共創力の養成と、学生が段階的に自己の成長を実感しながら学びと実践力を高めていけるよう、効果的に体系化された教育課程であると思います。
 - 社会の動きを捉え、「基盤教育」としてAI、データサイエンスの関連科目を設定されたことも、高く評価いたします。
 - グローバル・リーダーシップ・プログラムやスタンフォード大学との連携教育プログラムは、他大学にはない特色ある取り組みであり、学生の学びの意欲の喚起、グローバルな人材の養成はもとより、九州産業大学の社会的認知の向上にもつながっていくものと期待しています。
 - 主体的な学習支援のための「ルーブリック」、「コンピテンシー」は、精緻に体系化されていますが、今後、運用者の声を拾い上げながら運用実態を把握・評価しながら、実効性あるものとなるよう、継続的にモニタリング・改善に取り組んでいくことが肝要と思います。
 - コンピテンシーとルーブリックの設定により、学生に求められる目標や到達度が、詳細に示されていることがわかります。しかしながら、これらの詳細な記述の内容が、実際に学生自身の確認と教員による評価に、どのように活かされているのかが不明です。
 - 教員が受講する学生一人一人について、ルーブリックに基づいて達成度の評価が行われ、コメントとしてカルテが渡されるのならば、大変有効なフィードバックと考えられます。一方でそこまでのルーブリックによるフィードバックを行うならば、各科目について膨大な時間と負担が教員に求められることになるかと思えます。このような取り組みには、目的とするところと具体的な活用法までを明確に示されることが必要と感じます。また、それは設問4に記述する非常勤講師に対しても同様です。
 - それぞれの学部において、学部間と外部との連携に基づくKSUプロジェクトが行われており、優れた実践的な学習と社会的な影響が見られます。106件のリストに含まれないプロジェクトも多数あるようであり、改めてKSUプロジェクトのクライテリアの確認と学内の共有から、良い成果を網羅いただければと思います。
 - 九州産業大学の学生のニーズや進路先、人材育成のミッションや教育リソースに鑑みて、意欲的な教育が計画・実践されていると拝察いたしました。また、社会の質保証要請に誠実に応えようとする姿勢も、大変素晴らしいと感じました。
 - 取組の全体像が出そろった段階だと思えます。今後は、人材育成の目的達成にむけて、各取組がどのような役割を担うのか、各取組同士がどのような相補的役割を担うのか、それぞれの要素の関係性を明確化し、整合性のとれたシステムとして稼働させていくことが課題だと感じます。
 - 教育の質向上は、不断に取り組まなければならない、終わりのない取組です。学生に直接働きかける教育の最前線である教育現場が疲弊しないように、取組を厳選し、優先順位を立てて推進すること、各取組を必要なリソースで支えること、現場に裁量権を委譲することも重要だと考えます。
- さらに、各取組の成果を厳選された的確な指標で捉えることで、質向上に結びつけるとともに、

大学の評価に活かせるように、スマートに設計することが肝要です。

- システムは密結合・運用は疎結合、難しい課題ですが、目指していくことが大切だと思います。
- シラバスの記載方法を統一化して、評価手法ルーブリック、コンピテンシーの明示をしており、学生のモチベーションを上げ、教育課程の方針との整合性を持たせるうえで、有効だと評価します。大学全体として、九産大生のコンピテンシーは掲げられていますが、学部や学科ごとにどのようなコンピテンシーを持った人材を育成するのか不明で、シラバスを見ても、教育課程や科目との対応関係に分かりにくさを感じました。これらを明確にしたうえで、学修ポートフォリオの仕組と連動すると、素晴らしいことになると思います。
- 「KSUプロジェクト型教育」は、外部の連携主体が増え、文理芸学生がチームで行うなど、各学部・学科の枠を超えて専門性を生かした多種多様なプロジェクトを展開していて、素晴らしいと思います。起業につながるようなプロジェクトがどんどん出てくると、もっと迫力が出てくると考えます。
- 教育改革の取組により、除籍・退学者の削減につながっている点は、素晴らしいと思います。そのうえで、「グローバル・リーダーシップ・プログラム」、「アドバンスト・プログラム」を開設するなど、副専攻にも意欲的な取組をしていて評価できます。文理芸を融合した九産大ならではの副専攻プログラムがより多く誕生することを期待しています。
- 自己点検・評価では、全般的に「A」評価が目立ちますが、「学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか」のみが「B」が大半を占めます。これが一番難しいのだと思います。新入生・在学生・卒業生などに対する調査や学生ポートフォリオなどのデータを活かして、教育の質向上にチャレンジしていただきたいと思います。
- 今後改革の成果が次々に生まれてくると思います。今回はそれを踏まえて「おおむね適切である」という評価にしています。
- プロジェクト型教育は、毎年100件を超える事業が実施されており、地域や行政との連携も充実してきている。大学の特色ある取組として積極的に公表することで、取組に参加する学生の意欲向上や大学の魅力向上につながっていると感じる。
- 新たな教育システムの導入により、除籍・退学者の減少など目に見える成果が出ていることは評価できる。また、今後の学生人口の減少に伴い、新入生の学力低下への対応の重要性は増してくると思われる。今後も状況を分析しながら、取組の改善を進めてほしい。
- カリキュラムポリシーの中に、「3. KSU プロジェクト型教育及びその他の正課外活動において、様々な経験をすることにより、他者をいたわることや地域の課題解決など地域に貢献する人材を育成する。」とあるが、これは、九州産業大学が正課外活動の教育も含めて全人教育を行っていくというカリキュラムの思想がここに書かれていると推測する。これは、ディプロマポリシーを実現するためのカリキュラムポリシーであるはずである。
そうすると、九産大で掲げている共創力、実践力、統率力がディプロマポリシーに紐づけられていないと、教員が一生懸命取り組んでいる106のプロジェクトがディプロマポリシーの達成に直接結びつかないという建付けになってしまう。
そうではなく、例えば想像力、実践力を共創力、実践力に合わせたり、例えば協力ではなくて統率にしたり、言葉をシンプルにし、同じことを全員が追求していけるようにすればよい。また、それをルーブリックにも落とし込んでいくことによって、九州産業大学で取り組んでいることがしっかりと大学のアセスメントに繋がるような道筋としてデータを残していかなければ、さらに追加で評価やアンケートを行う必要が出てくるため、それらも考慮してデザインすることによって、現場で大事だと思って取り組んでいることを、大学全体に活かしていく上で非常に大事になってくる。
「情報技術を活用する」ところは、DX等が加わってくると思う。もう少しディプロマポリシーを大切に、一生懸命取り組んでいることがしっかりとここに落とし込まれるような構造にしていけることが現場を助けることに繋がると思う。
- 「地域共創学部」が実施している地域連携プロジェクトは、積極的に掲載したほうがよい。先日のKSU VISION DAYでは宗像の離島の交通を改善するプロジェクトが一番素晴らしいと思い投票した。このような地域共創学部の素晴らしいプロジェクトもこの冊子に掲載されていなかったため、基準等を見直したほうがよいのではないかと。

【九州産業大学造形短期大学部】

(評点) [評点…4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない]

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	3	2	2	3	4	2.8

(主な意見等)

- 「造形芸術領域の融合と多様化」というコンセプトの下、特色あるカリキュラム構成となっていると思います。
- 就職活動の早期化が社会的に進む中、1年次からキャリア教育を体系的に組み込み、早い段階から就労観の醸成に取り組んでおられることも、高く評価いたします。
- 短期大学部では、入学時から学生の積極的な就職活動への取り組みが求められ、適切な就職先の選定にはインターンシップが有効と考えられることから、インターンシップ演習のプログラムが設定されています。しかしながら、2022年のインターンシップ参加者は、全体の1割程度の12名に留まるとの記述があります。学生の就職先とのミスマッチを防ぐためには、外部の1/2日程度の体験を目的とするプログラムではなく、このような正規プログラムの参加をより促進することが必要ではないでしょうか。
- 短期大学部全体、及び短大を構成する造形芸術学科10系列における教育の目的・人材育成目標を整理し、整合性のある形で再構成する作業が急務だと感じました。
- 4年制総合大学との関係性も整理し、3年次編入というキャリアパスの選択肢について、連続性のある人材育成目標をデザインすることで具体的に提示できると素晴らしいと考えます。
- シラバスの記載方法を統一化して、評価手法ルーブリック、コンピテンシーの明示をしており、学生のモチベーションを上げ、教育課程の方針との整合性を持たせるうえで、有効だと評価します。一方で、学位授与における育成人材像や3領域系列の到達目標における知識・技能・能力とコンピテンシーとの関係が不明で、そういう意味では分かりにくさも抱えていると感じます。
- 学修成果を測定する独自のアセスメントテストの導入の結果と反映について期待しております。
- 教養教育の重視、就職先へのアンケート調査結果のフィードバックなどの継続的な取組は評価できます。また、学外と連携したプロジェクトベースの教育も素晴らしいと思いますが、大学の他学部との連携などにより、多様な人との交流、学際的な取組が生まれると、人材育成の目標に近い能力が身につけられるのでは、と思います。
- プロジェクト型教育は、九州産業大学と合わせて毎年多くの事業が実施されており、地域や行政との連携も充実してきている。短大の特色を生かした取組として積極的に公表することで、取組に参加する学生の意欲向上や大学の魅力向上につながっていると感じる。
- オフィスアワーなど、学生に対する丁寧な対応が行われている。

設問2 : 第5章 学生の受け入れについて

- 九州産業大学及び九州産業大学造形短期大学部自己点検・評価報告書等に基づき外部評価を行い、以下の評価（評点）結果及び主な意見等について記載する。

【九州産業大学】

(評点) [評点…4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない]

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	4	3	3	3	4	3.3

(主な意見等)

- 大学院の修士課程については、内部進学を含めて進学者の増加に向けた様々な努力がされていることがわかります。一方で、過去5年間の定員充足率を見ると、平均して修士課程において約2分の1、博士課程では4分の1程度であり、抜本的な改革もしくは定員の縮小も検討すべきではないでしょうか。
- 地域共創学部の卒業生がさらに専門的な知識を学ぶことを意図した際に、観光分野などでは経済ビジネス研究科への進学が考えられるものの、地域マネジメント、地域行政、産官学連携などには大学院レベルのカリキュラムが設定されていないようです。今後行政関係者やNPOの運営などの社会人入学者の受け入れを含めて、拡大が期待できる分野であり、大学院教育の充実も検討可能な分野ではないでしょうか。
- 高大接続（学生の受け入れ）は、点としての接続（入試）から、面としての接続（高大連携）へと移行してきています。高校→大学→職場における人材育成の在り方を、最高学府である大学が関係機関と連携しながら包括的にリードしていくことが大切です。定員充足という動機に留まらない、さらに意欲的・独創的な取組を展開して行かれることに期待しています。
- 2019年度の大学基準協会による認証評価においても、大学院の収容定員に対する在籍学生数比率について、改善が求められています。残念ながら、この比率に関して大きな改善がみられていません。福岡県の県立三大学でも同様の傾向があり、苦慮していますが、ターゲットが魅力を感じる、「職業実践力育成プログラム（BP）」だったり、企業さんと連携したプログラムの開発など、様々なアイデアとチャレンジが必要になると考えています。
- 外国人留学生の直接募集など、意欲的な取組については評価します。
- 様々なタイプの入学者選抜によって、適正に学生確保が行われている。
- ホームページのリニューアルやテレビ等を利用した広報活動は、大学のイメージアップと学生募集につながっているように感じる。

【九州産業大学造形短期大学部】

(評点) [評点…4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない]

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	4	3	3	3	4	3.3

(主な意見等)

- 昨年の評価委員会でも、専門学校との競合や短期大学のおかれた厳しい状況のご説明がありました。入学時に、卒業後の就職などと共に、さらに専門教育に進むべく芸術学部3年次編入の選択など幅広い可能性があることを示すことや、編入を前提としたコース設定などについて、より明確に提示されたらと感じました。
- 大変難しい課題だと思われませんが、3つのポリシーの整合性を確保しながら、不断に改善に務めてください。
- 学生の充足率が100%となったのは望ましいことなので、今後も広報活動などの充実により充足率の維持が望まれる。

設問3 : 第7章 学生支援について

- 九州産業大学及び九州産業大学造形短期大学部自己点検・評価報告書等に基づき外部評価を行い、以下の評価（評点）結果及び主な意見等について記載する。

【九州産業大学】

(評点) [評点…4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない]

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	4	4	4	4	4	3.8

(主な意見等)

- 学生支援が多岐にわたり、また、きめ細かくなされており、学生が安心して学ぶ環境づくりが適切に実施されていると思います。
- 1年次から4年次までのキャリアサポートフローチャートが体系的に整備されており、学生が先を見通しながら学びと進路選択ができるサポートも効果的であると評価します。
- 100パーセントに極めて近い就職決定率の高さを見ると、優れた就職支援のプログラムを設定されている成果と理解できます。今後の取り組みの方向性として、どのような目標が設定されるのでしょうか。一部上場企業などの大企業への就職先を目指すこともひとつですが、九州の成長を支える中小企業への人材の輩出も求められているかと思います。そのように考える時に、就職活動の質の追求として、卒業生の就職活動の成果としての満足度を就職時とその後のトレースで明らかにすることも有効かもしれません。
- 手厚い学生支援が提供されていると感じました。
- 学生支援に関する方針として、アクションプランを明確にしていることは評価できます。
- AIチャットボットによる相談体制の整備、留学生のモチベーションアップにつながる経済的支援の導入、成績不振者に対する取組の継続、大楠アリーナでの充実したサービス提供など、意欲的な取組に対して評価します。
- 障がい者に対する合理的配慮の義務化に向けて、さらなる取組の充実に期待しています。
- 施設設備や組織など、学生支援体制はしっかりと充実できていると感じる。
- 配慮を要する学生の増加傾向は今後も続くと思われるため、基礎教育センターにおける学生カウンセラー等による対応の充実をお願いしたい。

【九州産業大学造形短期大学部】

(評点) [評点…4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない]

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	4	4	4	3	4	3.7

(主な意見等)

- 「学習成果の獲得に向けた組織的学習支援」の記述から、きめの細かい指導が行われていることがわかります。
- 手厚い学生支援が提供されていると感じました。
- 就職活動の際に活用するポートフォリオ学修成果を表す作品集の制作はユニークです。ぜひ就職活動前に完成できるよう、取り組んでいただければ、と思います。
- 留学生や障害がある学生への配慮がしっかりできていると感じる。
- 配慮を要する学生の増加傾向は今後も続くと思われるため、基礎教育センターにおける学生カウンセラー等による対応の充実をお願いしたい。
- 大学と比較して短大の就職率が少し低いことは課題だと思う。「就職先企業における教育評価」によると、専門性やコミュニケーションの能力の不足を伺わせる回答が見受けられるため、そちらをクリアしていくことが一つの課題ではないか。

設問4 : その他、ご意見等があればご記入ください。

(主な意見等)

【九州産業大学】

- 「ファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動の組織的・多面的な実施により、教員の資質向上と教員組織の改善と向上」が、記述されています。一方で、各学部で多くの科目が外部の非常勤講師に委ねられており、FD が学外にも十分に共有、浸透しているとはいえないと考えられます。教育の質保障のためには、外部の非常勤講師に対する効果的な FD の実施に向けた工夫が必要ではないでしょうか。特に、前述の学修支援プログラムの導入、コロナ禍でのオンライン教育の実施、新しいシステムの導入の際には、非常勤講師にも同様のレベルでの FD が必要と考えます。
- 社会人をターゲットにした学び直し・リスキリングについては、政府や企業も声を挙げている。まずは本学の強みを活かしたリカレントプログラムを実施し、そこから少しずつニーズを拾いながら、本学が提供出来るプログラムを推進していく必要がある。

【九州産業大学造形短期大学部】

- 造形短期大学部は、九州産業大学の自己点検・評価報告書とは、異なる分類でまとめられていることから、同一項目での評価の難しさを感じます。

V 委 員 会 資 料

外部評価委員会 名簿一覧

【外部委員】

	氏 名	所 属 等
1	入 江 浩 幸	株式会社西日本シティ銀行 代表取締役 副頭取
2	津 野 喜久代	九州電力株式会社 執行役員 ビジネスソリューション統括本部 人材活性化本部長
3	星 野 裕 志	九州大学 大学院 経済学研究院 教授 産業マネジメント専攻 ユヌス・椎木ソーシャルビジネス研究センター長
4	深 堀 聰 子	九州大学 未来人材育成機構 教授 評価・改善支援部門 部門長
5	縣 博 夫	福岡県 人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局長
6	三 宅 竜 哉	福岡県立福岡高等学校 校長

【大学側出席者】

	氏 名	所 属 等
1	津 上 賢 治	学校法人中村産業学園 理事長 (九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部)
2	北 島 己佐吉	九州産業大学 学長
3	小田部 黄 太	九州産業大学造形短期大学部 学長
4	千 相 哲	九州産業大学 副学長
5	磯 村 昌 輝	学校法人中村産業学園 常務理事
6	藤 原 敦	学校法人中村産業学園 常務理事
7	柗 田 勝 司	学校法人中村産業学園 常務理事 (兼) 事務局長
8	牛 見 宣 博	九州産業大学 理工学部長 (内部質保証委員会 委員)
9	栗 田 融	九州産業大学 芸術学部長 (内部質保証委員会 委員)
10	三 浦 香 織	九州産業大学 国際文化学部長 (内部質保証委員会 委員)
11	鐘ヶ江 淳 一	九州産業大学 人間科学部長 (内部質保証委員会 委員)
12	松 原 岳 行	九州産業大学 教務部長
13	黄 禧 晶	九州産業大学造形短期大学部 造形芸術学科主任

実施年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
自己点検・評価対象年度		対象年度 (令和3年度)	対象年度 (令和4年度)	対象年度 (令和5年度)	対象年度 (令和6年度)
1	理念・目的				
2	内部質保証				●
3	教育研究組織	●			
4	教育課程・学習成果	●	●	●	●
5	学生の受け入れ		●		
6	教員・教員組織			●	
7	学生支援		●		
8	教育研究等環境			●	
9	社会連携・社会貢献	●			
10-(1)	大学運営・財務 (大学運営)				●
10-(2)	大学運営・財務 (財務)				

※●印が付いている項目は、外部評価委員会において外部評価を受ける項目。

主体的な学修の支援と教育質保証の仕組み

学修

卒業後
4年
3年
2年
1年
入学前

ナンバリング

↓

カリキュラムマップ

学部・学科等ごとの教育課程を体系的に、ビジュアルに示したもの。

(学生)学修内容の順次性や科目間の関連性を一目でわかるようになる→履修計画を立てやすくなる。

(教員)カリキュラムの全容を把握し、開講科目の順次性と授業レベルを確認することができる。

*履修モデル:各教員が様々なテーマの学び方について紹介し、合わせてテーマに関連した推奨科目を提示したもの(JABEEモデル、公務員モデル、まちづくり実学モデルなど)

R5年度4月から導入

科目履修による学びの成果及び正課外活動(ボランティア活動、学内委員活動、サークル活動、地域貢献活動、資格取得、その他学内外での自主的活動)をコンピテンシー測定し、可視化

ルーブリック コンピテンシー

コンピテンシーとは、社会的に必要とされる個人が身につける力、単なる知識や技能を越えた、態度・価値観などを結集して、対象世界や他者と関わり行なう能力。

R5年度4月から導入

eポートフォリオ

- ・学習の証拠としての役割
- ・学習管理(リフレクションの誘発、自律的な学習)

教員⇄学生

導入目的と必要性

- ①学修成果の統合化
- ②学生によるPDCA サイクルの確立
- ③学びと教育の「見える化」
- ④形成的評価(学習指導の過程において実施する評価)のツール
- ⑤教育プログラムの評価ツール
- ⑥相互作業の促進(普段からのコミュニケーション)

↓

[課題]継続的な適用と運用の工夫

- 学生の定期的な入力(履修登録前(4月、9月))
 - * 随時、頑張ったこと、課外活動、教員との面談結果等を入力
- ゼミ選考時に確認(学習者のパフォーマンスを評価)
- 計画的な教育指導(オフィスアワーの活用など)の実施

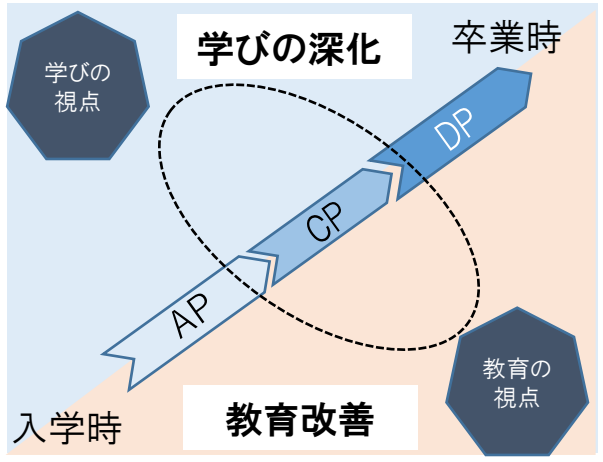
R5年度9月から導入

教育アセスメント

最終達成度評価

学部⇄教員⇄学生

R5年度4月から導入



教員評価シートの 関連項目の見直し

①授業評価 ②オフィスアワー
* 学部内活動(貢献度)

三者面談の見直し

*「学習」は授業によって学問を習うこと。「学修」は授業だけでなく事前の準備、事後などを自ら行うことにより、深く学問を理解し身につけること。

「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバーを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とする。

学習成果のレベルの目安を数段階に分けて記述して、達成度を判断する基準を示すものである。

成績、レポート・課題等、学生の学びのアウトプットを蓄積したもの。授業外の課外活動、インターンシップなどの記録を包括的に保管することで就職活動等でも役立つ。

教育アセスメントは、授業のみならず、カリキュラムなど広く教育活動を把握・評価することも含まれる。

九産大生コンピテンシー

九産大の建学の理想「産学一如」と理念とビジョンを基にキーコンピテンシーを6つのカテゴリーに分け、さらに16つの能力に分類している。

* キーコンピテンシーは、学部を超えて共通する九産大生の基本的能力。

コンピテンシーのカテゴリーと能力

キーコンピテンシー	能力
知性・実践力	教養と専門的知識を適切に活用する能力 1. 得た知識や技能を基に自分の考えを組み立て、問題を正しく捉え、課題を考えることができる（問題発見力） 2. 課題の解決策を目指し困難に向き合うことができる（チャレンジ力）
行動力（熱意）	論理的に思考し判断・行動する能力 3. 課題や目的に沿って、必要な情報を収集・整理できる（情報収集力） 4. 論理的思考に基づき分析・解析し、適切に表現（記述・口述）できる（論理的思考力） 5. 客観的根拠に基づき判断し、目的のために意欲的に行動することができる（規範的判断力）
人間力（豊かな人間性）	主体的に他者と協力する能力、多様性を認めて変化し続ける力 6. 時代の変化に主体的に向き合っており関わり合うことができる（主体的行動力） 7. 自分の役割を理解し他者との関わりや共存に欠かせない対人関係を築くことができる（対人関係力）
共創力	修得した知識・技能を活かし、他者と協働し創造力を発揮する能力 8. 未知の課題に対し、自分なりの答えや解決策を見つけ出すことができる（問題分析力） 9. 自分なりの解決策を実行し、価値を生み出していくことができる（課題解決力）
情報社会への適応力	情報技術を活用する能力 10. 溢れる情報から、必要な情報を検索し、取捨選択することができる（情報判断力） 11. 数値・図表等の数量情報を解析・表現することができる（データ分析力） 12. 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーションとコミュニケーションを行うことができる（情報処理力） 13. 多様な情報ツールの機能を理解し、情報端末上で情報技術を活用することができる（ICTスキル）
グローバル対応力	多様な人々とコミュニケーションする能力 14. 自分の考え方をしっかり相手に伝えることができる（意思伝達力） 15. 異文化を理解して思考し、柔軟に行動することができる（異文化理解力） 16. 他者と情報共有して課題を解決するための対話ができる（コミュニケーション力）

コモンルーブリック

複数の授業科目で共通して用いられるルーブリックのことである。
 本学では授業形態に合わせて、シラバスに入力できるように用意している。

① 授業形態：講義（知識伝達型の授業）

評価項目	評価基準				
	期待を大きく上回る	期待以上である（履修目標）	やや努力を要する	努力を要する（到達目標）	相当の努力を要する
理解度	授業内容を超えた自主的な学修が認められる	授業内容をほぼ100%理解している	到達目標を理解しているが、授業内容の理解に不足がある	到達目標に達していることが認められる	到達目標に達していない
論理的思考力	授業内容に関連する事象・情報を整理して理論的に構造化でき、他者を納得させることができる意見や手順を論理的に展開できる	授業内容に関連する事象・情報を整理して理論的に構造化でき、意見や手順を論理的に展開できる	授業内容に関連する事象・情報を整理して理論的に構造化でき、自分の意見や手順を論理的に展開できる	授業内容に関連する事象・情報を整理し、構造化ができる	授業内容に関連する事象・情報を整理し、構造化ができない
課題解決能力	専門的な知識を実社会での実践に役立てることができる	応用的な課題について専門的な知識を用いて説明できる	専門的な知識について、基本は理解しており、説明できる	専門的な知識の獲得・修得に取り組んでいるが、説明できるレベルではない	専門的な知識に関心がない、またはその獲得・修得に取り組んでいない
調査能力（予習）	自ら進んで予習範囲を超えて調べている	予習範囲を十分に理解し、他人に説明できる	提示した予習範囲の理解にあいまいな点がある	提示された範囲は予習するが、理解が不十分である	指示された範囲の予習が不十分である

② 授業形態：演習（与えられた問題を解き、プレゼンやレポートで説明する授業）

評価項目	評価基準				
	期待を大きく上回る	期待以上である（履修目標）	やや努力を要する	努力を要する（到達目標）	相当の努力を要する
課題発見・設定力（研究テーマ（発表のための目標）の設定）	与えられた研究テーマに対し、意義や背景を他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる	与えられた研究テーマに対し、意義や背景を他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる	与えられた研究テーマに対し、意義や背景を他者に説明できるが質問に対しての回答ができる	与えられた研究テーマに対し、意義や背景を他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない	与えられた研究テーマに対し、意義や背景を他者に説明できない、または不十分である
課題分析力	課題の関連情報の因果関係を理解し、かつ、本質を見出した上で、課題を解決できる	課題の関連情報の因果関係を理解し、かつ、本質を見出した上で、解決の方向性を認識できる	課題の本質や関連情報の因果関係を理解し、本質を見出せる	課題の本質や関連情報の因果関係を理解し、そこから本質を見出そうと努力している	課題の本質や関連情報の因果関係を理解できない、または見出せない
論理的思考（複雑な事象の本質を整理し、自分の意見や手順の構造化や論理的な展開ができる）	課題に関連する事象・情報を整理して理論的に構造化でき、他者を納得させることができる意見や手順を論理的に展開できる	課題に関連する事象・情報を整理して理論的に構造化でき、意見や手順を論理的に展開できる	課題に関連する事象・情報を整理して理論的に構造化でき、自分の意見や手順を論理的に展開できる	課題に関連する事象・情報を整理し、構造化ができる	課題に関連する事象・情報を整理し、構造化ができない。



Stanford e-KyuSanU 2023

国際文化学部 三浦香織
2023/11/9 @R5外部質保証委員会

1. はじまり: 2023年2月21日

本学とStanford大学SPICEとの教育連携締結 & 共同記者会見



2023/11/7

本学HPより 2

2. 概要

科目名	GLPIIIA Global Leadership Program (GLP)	3年次配当科目 定員20名
科目の狙い	「多様性」と「持続可能性」を重んじる「社会起業家」の精神を身につける	
担当者	玉川麻衣子(SPICE)	補佐:三浦香織(KSU)
受講生	GLP生16名, 一般選抜学生4名	今年3月に選抜

2023/11/7

3

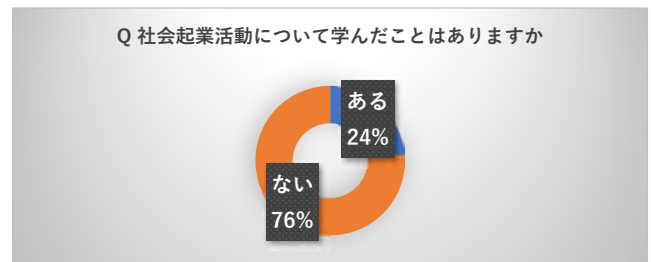
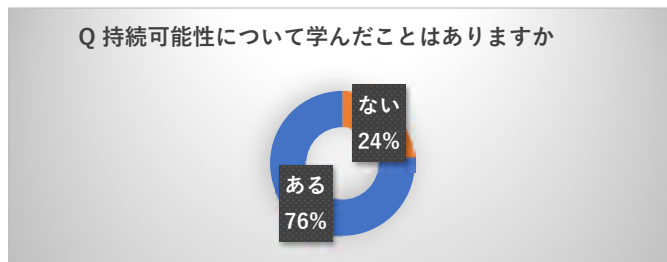
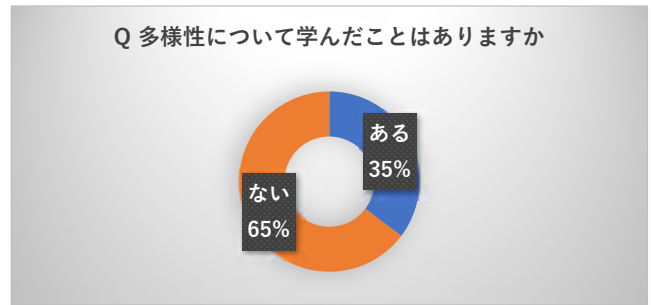
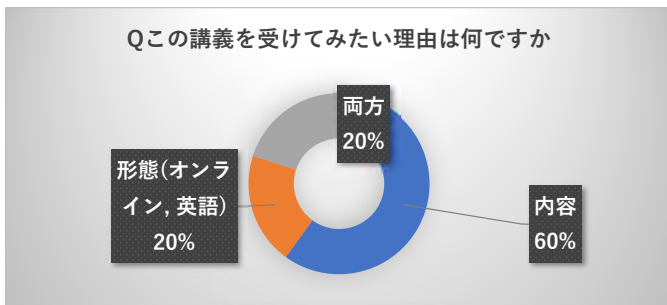
2. 概要: シラバス

テーマ	多様性(3 lessons)	持続可能性 (3 lessons)	社会起業活動 (3 lessons)
ゲスト スピーカー	(1)Dr. Gary Mukai (2)Dr. Stephen Murphy-Shigematsu	(1) Ms. Eri Simakura (SDG Partners) (2) Dr. Janet Nagamine (Hikari Farm)	(1) Dr. Rie Kijima + Dr. Mariko Yoshihara Yang (SKY Labo) (2) Ms. Miwa Seki (MPower Partners) (3) Ms. Sayuri Matsuno (LS Partners)
ディベート トピック	(1) Affirmative action in college admissions (積極的格差是正措置) (2) LGBTQ education for young students	(1) Japan should abandon nuclear power (2) Food waste - Restaurant in Japan should provide take-out boxes	最終グループプレゼン ・社会起業家として社会問題解決

2023/11/7

4

3. 事前アンケート(4月実施)



2023/11/7

5

4. TOEFL ITP(6月上旬実施)

受験者数	18	
形態	オンライン	約2時間
内容	中級から上級用テスト リスニング, リーディング +スピーキング	ITP: 過去問 利用のテスト
平均点	466点	満点677点
最高点	547点 (リスニング: 60, リーディング: 51, スピーキング: 63)	CEFR* B2

*CEFR(Common European Framework of Reference for Languages)ヨーロッパ言語共通参照枠の略

2023/11/7

6

5. 開講式: 2023年4月11日



2023/11/7



本学HPより 7

6. 講義について: 5月2日開始

使用言語	英語	
形態	遠隔リアルタイム, オンデマンド	但し, 学生は対面
毎回の講義の流れ	事前課題: Canvasで配信 VC: Zoomで講義 事後課題: Canvasの掲示板で 意見交換	Canvasは主に米国で利用されている学修管理システム. 日本でも一部の大学で使用されている.

2023/11/7

8

6. 講義について: 毎回の流れ

事前課題	オンライン学習プラットフォーム Canvasで配信される関連資料の読 解, 動画の視聴, 内容の要約, 質問 作成	評価対象
オンライン講義 (Virtual Class; VC)	<ul style="list-style-type: none"> 各テーマに対し3回のレッスン 最初の2回はゲストスピーカーによ るリアルタイム講義とQ&A 最後の1回は学生によるディベート 	90分 評価対象
事後課題	Canvasの掲示板で意見交換	評価対象

2023/11/7

9

6. 講義について: Canvas

The screenshot displays the Canvas LMS interface for the 2023 Stanford e-KyuSan-U Program. The main content area includes a welcome message and a link to the syllabus. On the right, there are buttons for 'View Course Stream', 'View Course Calendar', and 'View Course Notifications'. Below these, a 'To Do' list shows 'The Fukuoka Prize 2023' and 'Rough Draft'. The 'Last 10 Graded Items' section features a bar chart with the following data:

Item	Score
The Fukuoka Prize 2023	4/5
2023 Stanford e-KyuSan-U Program Sep 14 at 6:30pm	10/10
Rough Draft	3/5
2023 Stanford e-	5/5
2023 Stanford e-	4/5
2023 Stanford e-	4/5
2023 Stanford e-	5/5
2023 Stanford e-	3/5

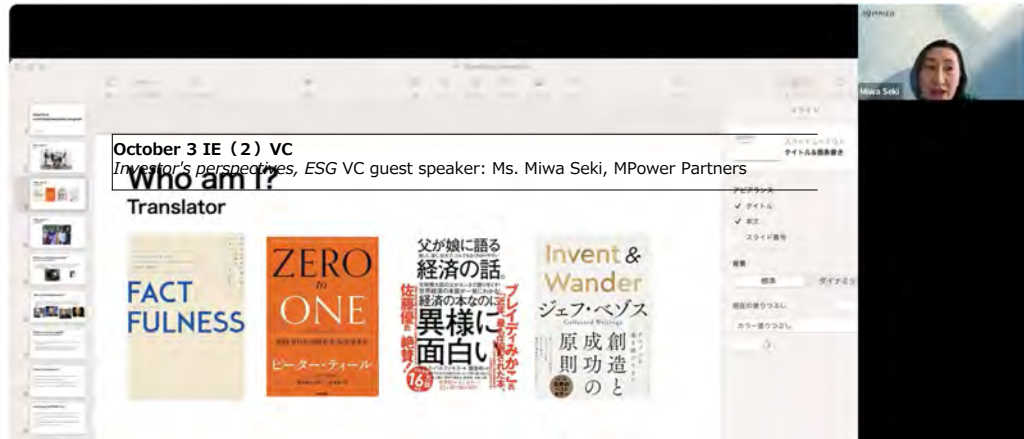
画像上: Canvas全体画面, 画像右: 学生成績画面

2023/11/7

Stanford, Canvas より 10

6. 講義について (Lesson 11 動画)

Lesson 11 Entrepreneurship (2) – Investor’s Perspectives, ESG
Ms Seki Miwa – Mpower Japan (venture capital owner, translator)



2023/11/7

本学GLPIIIA動画より 11

6. 講義について: 今後の流れ

9月～10月中旬	「社会起業家」に関する講義	9月17日, 10月3日, 10月17日
10月31日 (火) JST 9:00	最終グループプレゼン 社会起業家として問題解決策を提案	・外部評価あり ・授業参観日
12月5日 (火) JST 9:00	閉講式 優秀者表彰式	・成績70%を収めた学生 にStanford SPICEから 修了証の授与
2024年2月上旬	優秀者2名は米国シリコンバレー VIAのESIプログラムに参加	https://viaprograms.org/

2023/11/7

12

7. 波及効果

6月14日	読売新聞に掲載される	記者による取材
8月23日	福岡におけるStanford SPICEの取組について座談会	福岡県私学振興課 在福岡米国領事館広報部
9月14日	福岡アジア文化賞 元SPICE講師カターリヤ・ウム氏講演会に招待	福岡アジア文化委員会 Dr. Gary Mukaiより連絡
9月中旬	Stanford e-Fukuoka (Stanford高校生プログラム) & Stanford e-KSU交流会	福岡県私学振興課 在福岡米国領事館広報部

2023/11/7

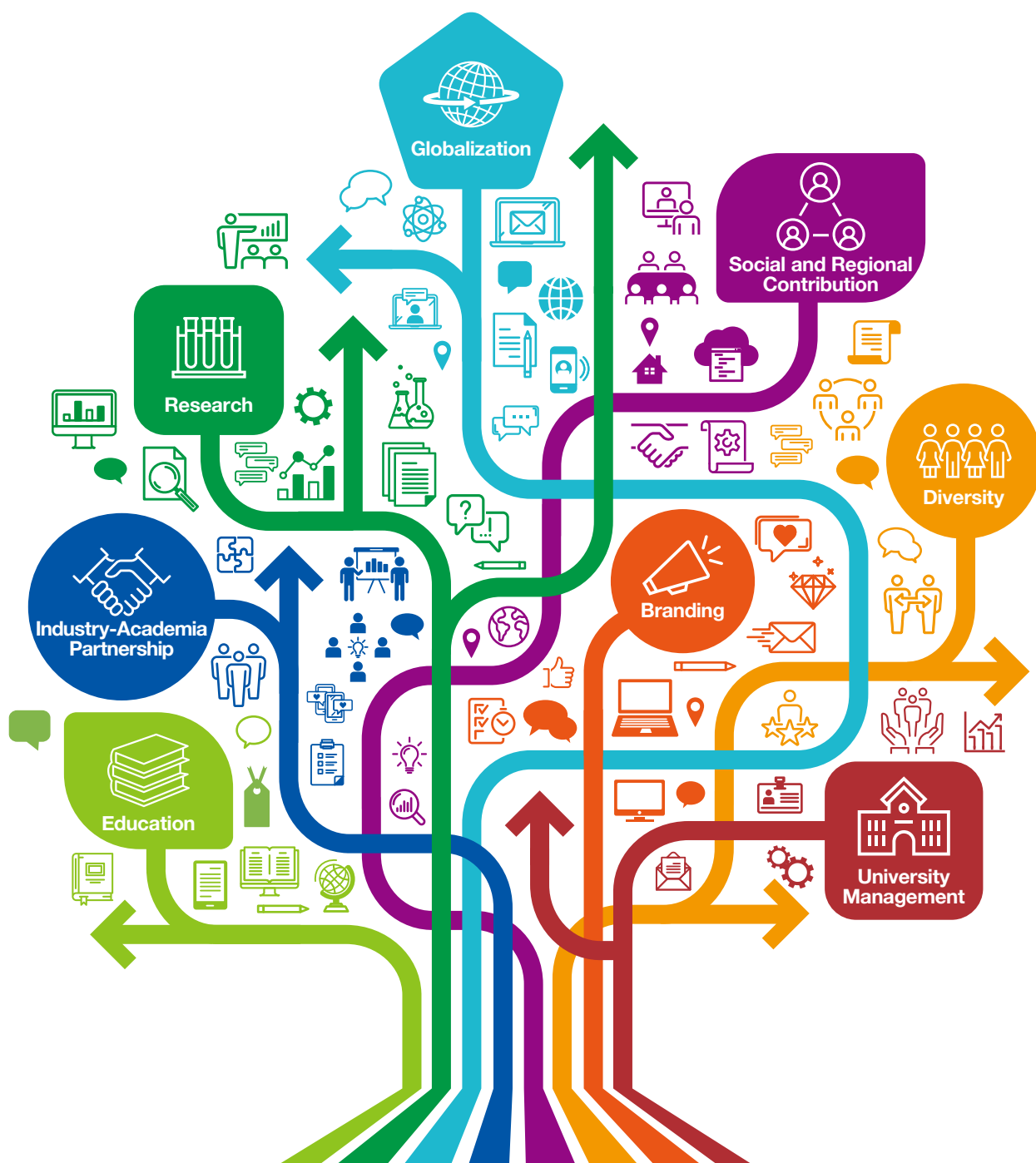
13



Thank you!

国際文化学部 三浦香織
2023/11/9 @R5外部質保証委員会

VI 別 添 資 料



1年間の取組み 2022

KSU Annual Report 2022



九州産業大学

九州産業大学造形短期大学部
ZOKEI KYUSHU SANGYO UNIVERSITY, ZOKEI JUNIOR COLLEGE OF ART AND DESIGN

1年間の取組み2022

CONTENTS

法人の概要

1. 建学の理想等	1
・基本情報	
・建学の理想、建学の理念、ビジョン、行動理念	
2. 学園の沿革	2
3. 設置する学校・学部・学科等	3-5
4. 収容定員充足率	5
5. 役員の概要	6
6. 評議員の概要	7
7. 教職員の概要	8

事業の概要

1. 教育分野	9-10
2. 研究分野	11
3. 国際化分野	12
4. 産学連携分野	13-14
5. 社会・地域貢献分野	15
6. ダイバーシティ分野	16
7. ブランディング分野	17
8. 経営基盤分野	18
9. 数字で見る実績	19-20

財務の概要

1. 貸借対照表関係	21-23
2. 資金収支計算書関係	24-30
3. 事業活動収支計算書関係	31-35
4. その他	36-37
5. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	38

法人の概要

1. 建学の理想等

(1) 基本情報

- ①法人名称
学校法人中村産業学園
- ②主たる事務所の住所、電話番号等
〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台二丁目3番1号
電話番号：092-673-5050 FAX：092-673-5599
ホームページ：<https://www.kyusan-u.ac.jp/>

(2) 建学の理想

さん が く い ち に よ

産学一如

産業と大学は車の両輪のように一体となって
時々の社会のニーズを満たすべきである。

(3) 建学の理念

九州産業大学

- ・市民的自覚と中道精神の振興
- ・実践的な学風の確立

造形短期大学部

- ・造形の伝統を継承
- ・産業社会に有用な人材育成

(4) ビジョン

広く産業界の期待に応えられる
「実践力」「熱意」「豊かな人間性」を持った人材を輩出する大学になります。

(創立100周年に向けたビジョン)

新たな知と地をデザインする大学へ
— もっと意外に。もっと自由に。 —

私たちは、固定観念にとらわれず、もっと意外に、もっと自由に挑戦し続けます。
そして、新たな叡智を産み出し、活力ある地域、世界をデザインする大学を目指します。

(5) 行動理念

- ・私たちは学生が人生の目標や夢の実現に向かって取り組むことができるよう、あらゆる支援を惜みずに行動します。
- ・学生のニーズや環境の変化を的確にとらえ、迅速に行動します。
- ・自分を大切にし、まわりの人と誠実に関わり、責任を持って行動します。
- ・常に改善と改革の意識を持ち、創意工夫を心がけて行動します。

法人の概要

2. 学園の沿革

西暦	和暦	月	内容
1960年	昭和 35年	4月	九州商科大学商学部商学科の単科大学として開学
1962年	37年	4月	商学部産業経営学科増設
1963年	38年	1月	設置者を学校法人中村英数学園より学校法人中村産業学園に、大学名を九州商科大学より九州産業大学と改称認可
		4月	工学部（機械工学科、電気工学科、工業化学科）設置、商学部経済学科増設
1964年	39年	4月	商学部第二部（経済学科、商学科）設置、工学部（土木工学科、建築学科）増設
1966年	41年	4月	芸術学部（美術学科、デザイン学科、写真学科）設置
1968年	43年	4月	九州造形短期大学開学（設置者：学校法人九州中村高等学園）、経営学部産業経営学科設置
1972年	47年	4月	芸術専攻科（美術専攻、デザイン専攻、写真専攻）設置
1973年	48年	3月	商学部産業経営学科廃止
		4月	大学院工学研究科修士課程（機械工学専攻、電気工学専攻、工業化学専攻、土木工学専攻）設置
1974年	49年	4月	大学院芸術研究科修士課程（美術専攻、デザイン専攻、写真専攻）設置
1975年	50年	4月	大学院経済学研究科修士課程（経済学専攻）、工学研究科修士課程（建築学専攻）増設
		7月	九州英数学館を中村産業学園より分離
1976年	51年	11月	九州造形短期大学の設置者を学校法人九州中村高等学園から中村産業学園に変更
1981年	56年	4月	経営学部国際経営学科増設
1993年	平成 5年	4月	経済学部経済学科〈昼間主コース・夜間主コース〉設置
1994年	6年	4月	国際文化学部（国際文化学科、地域文化学科）設置、大学院経営学研究科修士課程（経営専攻）〈昼夜開講制〉設置
1996年	8年	4月	大学院商学研究科修士課程（商学専攻）〈昼夜開講制〉発足 大学院工学研究科博士後期課程（生産システム工学専攻、社会開発・環境システム工学専攻）〈昼夜開講制〉増設
1997年	9年	4月	大学院経営学研究科博士後期課程（経営専攻）〈昼夜開講制〉増設
1998年	10年	4月	大学院国際文化研究科博士課程（国際文化専攻）〈昼夜開講制〉設置 大学院商学研究科博士後期課程（商学専攻）〈昼夜開講制〉増設
1999年	11年	4月	商学部第一部観光産業学科、商学部第二部観光産業学科増設 大学院経済学研究科博士後期課程（経済学専攻）〈昼夜開講制〉増設 大学院芸術研究科博士後期課程（造形表現専攻）〈昼夜開講制〉増設
2000年	12年	7月	商学部第一部経済学科、商学部第二部経済学科廃止
2002年	14年	4月	情報科学部〈社会情報システム学科、知能情報学科〉設置、芸術学部芸術工芸学科増設
2004年	16年	4月	工学部バイオロボティクス学科発足、工学部工業化学科を物質生命化学科へ、土木工学科を都市基盤デザイン工学科へ名称変更 国際文化学部臨床心理学科増設 大学院情報科学研究科博士前期課程・博士後期課程（情報科学専攻）〈昼夜開講制〉設置 大学院国際文化研究科博士課程〔5年一貫制〕（国際文化専攻）〈昼夜開講制〉を 大学院国際文化研究科博士前期課程・博士後期課程（国際文化専攻）〈昼夜開講制〉に改組 大学院経済学研究科、商学研究科、経営学研究科、工学研究科、芸術研究科の修士課程を博士前期課程へ課程名称変更
2007年	19年	4月	工学部電気工学科を電気情報工学科へ名称変更、九州造形短期大学造形芸術学科設置
2008年	20年	4月	芸術学部写真学科を写真映像学科へ名称変更、国際文化学部地域文化学科を日本文化学科へ名称変更
		5月	九州造形短期大学美術科廃止
2009年	21年	4月	情報科学部情報科学科設置 大学院経済・ビジネス研究科博士前期課程（経済学専攻、現代ビジネス専攻）〈昼夜開講制〉・博士後期課程（経済・ビジネス専攻）〈昼夜開講制〉設置 九州造形短期大学デザイン科・写真科廃止
2010年	22年	4月	工学部住居・インテリア設計学科増設
2011年	23年	4月	大学院工学研究科博士前期課程・博士後期課程（産業技術デザイン専攻）〈昼夜開講制〉設置
2012年	24年	4月	大学院芸術研究科博士前期課程（造形表現専攻）〈昼夜開講制〉設置
2013年	25年	3月	大学院芸術研究科博士前期課程（美術専攻、デザイン専攻、写真専攻〈昼夜開講制〉）廃止
2014年	26年	3月	芸術学部芸術工芸学科廃止 大学院商学研究科博士後期課程（商学専攻〈昼夜開講制〉）廃止 大学院経営学研究科博士後期課程（経営専攻〈昼夜開講制〉）廃止 大学院工学研究科博士後期課程（生産システム工学専攻〈昼夜開講制〉）廃止
2015年	27年	3月	情報科学部知能情報学科廃止
		5月	情報科学部社会情報システム学科廃止
2016年	28年	4月	芸術学部（芸術表現学科、写真・映像メディア学科、ビジュアルデザイン学科、生活環境デザイン学科、ソーシャルデザイン学科）発足 九州造形短期大学の校舎を九州産業大学キャンパス内に移転
2017年	29年	4月	理工学部（情報科学科、機械工学科、電気工学科）、生命科学部（生命科学科）、建築都市工学部（建築学科、住居・インテリア学科、都市デザイン工学科）発足 短期大学名を九州造形短期大学より九州産業大学造形短期大学部へ名称変更
2018年	30年	3月	大学院工学研究科博士後期課程（社会開発・環境システム工学専攻〈昼夜開講制〉）廃止
		4月	商学部（経営・流通学科）、地域共創学部（観光学科、地域づくり学科）、人間科学部（臨床心理学科、子ども教育学科、スポーツ健康科学科）発足
2020年	令和 2年	3月	芸術学部（美術学科）廃止
2021年	3年	3月	工学部（物質生命化学科、建築学科）廃止
2022年	4年	3月	工学部（都市基盤デザイン工学科、住居・インテリア設計学科）、芸術学部（デザイン学科）廃止
		4年	工学部（バイオロボティクス学科）、芸術学部（写真映像学科）廃止
		4年	商学部第二部（商学科）廃止
2023年	令和 5年	3月	商学部第一部（観光産業学科）、工学部（機械工学科、電気情報工学科）、情報科学部（情報科学科）廃止

法人の概要

3. 設置する学校・学部・学科等 令和4年5月1日現在

(1) 学部・学科、研究科・専攻

学部	
学部	学科
経済学部	経済学科
商学部	経営・流通学科
地域共創学部	観光学科
	地域づくり学科
商学部第一部	商学科
	観光産業学科
商学部第二部	商学科
経営学部	国際経営学科
	産業経営学科
理工学部	情報科学科
	機械工学科
	電気工学科
生命科学部	生命科学科
建築都市工学部	建築学科
	住居・インテリア学科
	都市デザイン工学科
工学部	機械工学科
	電気情報工学科
情報科学部	情報科学科
芸術学部	芸術表現学科
	写真・映像メディア学科
	ビジュアルデザイン学科
	生活環境デザイン学科
	ソーシャルデザイン学科

学部	
学部	学科
国際文化学部	国際文化学科
	日本文化学科
	臨床心理学科
人間科学部	臨床心理学科
	子ども教育学科
	スポーツ健康科学科

大学院	
研究科	専攻・課程
経済・ビジネス研究科	経済学専攻博士前期課程
	現代ビジネス専攻博士前期課程
	経済・ビジネス専攻博士後期課程
工学研究科	産業技術デザイン専攻博士前期課程
	産業技術デザイン専攻博士後期課程
芸術研究科	造形表現専攻博士前期課程
	造形表現専攻博士後期課程
国際文化研究科	国際文化専攻博士前期課程
	国際文化専攻博士後期課程
情報科学研究科	情報科学専攻博士前期課程
	情報科学専攻博士後期課程

造形短期大学部	
学科	
造形芸術学科	

(2) 学生数の状況

① 学部

令和4年5月1日現在

学部	学科	開設年度	入学定員	収容定員	現員数
経済学部	経済学科	1993 (平成 5)	400	1,600	1,541
	経済学科 (昼間主コース)	1993 (平成 5)	—	—	22
	経済学科 (夜間主コース)	1993 (平成 5)	—	—	5
商学部	経営・流通学科	2018 (平成30)	500	2,000	2,048
地域共創学部	観光学科	2018 (平成30)	150	600	573
	地域づくり学科	2018 (平成30)	130	520	498
	地域づくり学科 (夜間特別枠)	2018 (平成30)	—		30
商学部第一部	商学科	1960 (昭和35)	—	—	14
	観光産業学科	1999 (平成 11)	—	—	2
商学部第二部	商学科	1964 (昭和39)	—	—	1
経営学部	国際経営学科	1981 (昭和56)	—	—	12
	産業経営学科	1968 (昭和43)	—	—	5
理工学部	情報科学科	2017 (平成29)	140	560	594
	機械工学科	2017 (平成29)	130	520	482
	電気工学科	2017 (平成29)	100	400	382
生命科学部	生命科学科	2017 (平成29)	110	440	373
建築都市工学部	建築学科	2017 (平成29)	75	300	293
	住居・インテリア学科	2017 (平成29)	65	260	263
	都市デザイン工学科	2017 (平成29)	60	240	238
工学部	機械工学科	1963 (昭和38)	—	—	2
	電気情報工学科	1963 (昭和38)	—	—	2
情報科学部	情報科学科	2009 (平成21)	—	—	2
芸術学部	芸術表現学科	2016 (平成28)	65	260	278
	写真・映像メディア学科	2016 (平成28)	50	200	225
	ビジュアルデザイン学科	2016 (平成28)	75	300	332
	生活環境デザイン学科	2016 (平成28)	70	280	248
	ソーシャルデザイン学科	2016 (平成28)	40	160	174
国際文化学部	国際文化学科	1994 (平成 6)	80	320	317
	日本文化学科	1994 (平成 6)	60	240	237
	臨床心理学科	2004 (平成16)	—	—	1
人間科学部	臨床心理学科	2018 (平成30)	70	280	293
	子ども教育学科	2018 (平成30)	80	320	321
	スポーツ健康科学科	2018 (平成30)	80	320	330
合 計			2,530	10,120	10,138

法人の概要

② 大学院

研究科	専攻（課程）	開設年度	入学定員	収容定員	現員数
経済・ビジネス研究科	経済学専攻（博士前期）	2009（平成21）	7	14	8
	現代ビジネス専攻（博士前期）	2009（平成21）	20	40	4
	経済・ビジネス専攻（博士後期）	2009（平成21）	5	15	6
工学研究科	産業技術デザイン専攻（博士前期）	2011（平成23）	35	70	25
	産業技術デザイン専攻（博士後期）	2011（平成23）	4	12	4
芸術研究科	造形表現専攻（博士前期）	2012（平成24）	14	28	39
	造形表現専攻（博士後期）	1999（平成11）	6	18	9
国際文化研究科	国際文化専攻（博士前期）	1998（平成10）	15	30	25
	国際文化専攻（博士後期）	1998（平成10）	5	15	10
情報科学研究科	情報科学専攻（博士前期）	2004（平成16）	20	40	6
	情報科学専攻（博士後期）	2004（平成16）	4	12	0
合 計			135	294	136

③ 造形短期大学部

学科	開設年度	入学定員	収容定員	現員数
造形芸術学科	2007（平成19）	150	300	306

4. 収容定員充足率

毎年度5月1日現在
（単位：倍）

区分	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
学 部	1.00	0.99	1.01	1.01	0.99
大 学 院	0.46	0.43	0.41	0.43	0.45
短 期 大 学 部	1.02	0.99	0.97	0.96	0.95

法人の概要

5. 役員の概要

(1) 理事・監事の定員数、氏名等

<定員数>理事：13名～17名 監事3名
<現員数>理事：15名 監事3名

令和4年6月29日現在

役職名	氏名	常勤・非常勤	就任年月日	担当職務及び現職
理事長	津上 賢治	常勤	令和元年6月16日	
理事	北島 己佐吉	常勤	令和3年4月1日	九州産業大学長
理事	小田部 黄太	常勤	平成31年4月1日	九州産業大学造形短期大学部学長
理事	磯村 昌輝	常勤	平成29年6月16日	学校法人中村産業学園常務理事
理事	加藤 康雄	常勤	令和元年6月16日	学校法人中村産業学園常務理事(兼) 人事部長
理事	藤原 敦	常勤	令和元年6月16日	学校法人中村産業学園常務理事(兼) 九州産業大学教務部事務部長
理事	吉田 泰彦	非常勤	令和3年6月16日	株式会社福岡銀行顧問、株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ代表取締役社長
理事	道永 幸典	非常勤	令和3年6月16日	西部ガスホールディングス株式会社代表取締役社長
理事	青柳 俊彦	非常勤	令和4年6月16日	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長執行役員
理事	堀江 広重	非常勤	令和元年6月16日	西日本鉄道株式会社顧問、一般社団法人九州経済連合会常務理事
理事	千 相哲	常勤	平成29年6月16日	九州産業大学副学長
理事	牛見 宣博	常勤	令和4年4月1日	九州産業大学理工学部長
理事	三浦 香織	常勤	令和4年4月1日	九州産業大学国際文化学部長
理事	井上 貢一	常勤	令和4年4月1日	九州産業大学大学院芸術研究科長
理事	加藤 要一	常勤	令和4年4月1日	九州産業大学入試部長
監事	岩田 英治	常勤	平成25年6月16日	
監事	田邊 達也	常勤	令和3年6月16日	
監事	相場 公博	非常勤	令和3年6月16日	

(2) 責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

①責任限定契約

私立学校法に従い、令和2年4月1日より随時(役員改選に伴う場合)責任限定契約を締結した。

I. 対象役員の氏名

- ・非業務執行理事 吉田泰彦、道永幸典、青柳俊彦、堀江広重
- ・監事 岩田英治、田邊達也、相場公博

II. 契約内容の概要

非業務執行理事及び監事が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、金10万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする。

III. 契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

契約の内容に、役員がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨の定めがある。

②役員賠償責任保険制度への加入

私立学校法に従い、理事会決議により令和2年4月1日から東京海上日動火災保険株式会社の学校法人向け役員賠償責任保険に加入した。

I. 団体契約者 学校法人中村産業学園

II. 保険期間中総支払限度額 10億円

III. 補償内容

- i. 役員に関する補償(法律上の損害賠償金、争訟費用)
- ii. 記名法人に関する補償(法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用)

IV. 支払い対象とならない主な場合

- i. 役員が私的な利益又は便宜の供与を違法に得たもの
- ii. 役員の犯罪行為・ハラスメント行為
- iii. 法令に違反することを認識しながら行った行為
- iv. 保険期間の初日において、役員が対象事由が発生するおそれのある状況を知っていたもの

法人の概要

6. 評議員の概要

(1) 定員数、氏名等

<定員数> 29名～37名 <現員数> 32名

令和5年3月18日現在

氏名	就任年月日	担当職務及び現職
北島 己佐吉	令和3年4月1日	九州産業大学長
小田部 黄太	平成31年4月1日	学校法人中村産業学園理事、九州産業大学造形短期大学部学長
千 相哲	平成22年4月1日	学校法人中村産業学園理事、九州産業大学副学長
高木 昇	令和4年4月1日	九州産業大学 商学部長
牛見 宣博	令和4年4月1日	学校法人中村産業学園理事、九州産業大学理工学部長
三浦 香織	令和4年4月1日	学校法人中村産業学園理事、九州産業大学国際文化学部長
井上 貢一	令和4年4月1日	学校法人中村産業学園理事、九州産業大学大学院芸術研究科長
加藤 要一	令和3年4月1日	学校法人中村産業学園理事、九州産業大学入試部長
柗田 勝司	令和3年6月16日	学校法人中村産業学園事務局長
横田 治	令和元年6月16日	九州産業大学総務部長
峠畑 賢治	令和元年6月16日	九州産業大学キャリア支援センター事務部長
宮丸 由美子	令和元年6月16日	九州産業大学図書館事務部長
入江 崇彦	平成25年6月16日	九州産業大学同窓会楠風会会長
坂本 二美	平成29年6月16日	九州産業大学同窓会楠風会常務理事
林 善照	平成27年6月16日	九州産業大学同窓会楠風会福岡県地方本部顧問
松岡 順子	令和3年5月1日	九州産業大学造形短期大学部同窓会薫風会会長
宝満 教代	令和4年3月18日	九州産業大学後援会会長
横田 覚	令和5年3月18日	九州産業大学後援会副会長
國武 芳和	令和5年3月18日	九州産業大学造形短期大学部後援会会長
津上 賢治	令和元年6月16日	学校法人中村産業学園理事長
吉田 泰彦	令和3年6月16日	学校法人中村産業学園理事 株式会社福岡銀行顧問 株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ代表取締役社長
道永 幸典	令和3年6月16日	学校法人中村産業学園理事 西部ガスホールディングス株式会社代表取締役社長
青柳 俊彦	令和4年6月16日	学校法人中村産業学園理事 九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長執行役員
堀江 広重	令和元年6月16日	学校法人中村産業学園理事 西日本鉄道株式会社顧問 一般社団法人九州経済連合会常務理事
磯村 昌輝	平成25年4月19日	学校法人中村産業学園常務理事
加藤 康雄	令和元年6月16日	学校法人中村産業学園常務理事（兼）人事部長
藤原 敦	平成29年6月16日	学校法人中村産業学園常務理事（兼）九州産業大学教務部事務部長
大島 英彦	平成30年4月1日	学校法人中村産業学園総務部参与
中村 治	平成21年6月16日	学校法人九州中村高等学園理事長
組坂 法人	平成24年4月1日	九州産業大学附属九州産業高等学校長
谷崎 金光	平成26年4月1日	株式会社サンユー・フーズ代表取締役社長
久保 裕道	平成23年6月16日	株式会社九産大サービスセンター代表取締役社長

法人の概要

7. 教職員の概要 令和4年5月1日現在

(1) 教育職員数

(名)

所属	職位	専任				計	助手
		教授	准教授	講師	助教		
九州産業大学		1	0	0	0	1	0
経済学部		14	9	7	1	31	0
商学部		21	14	3	0	38	0
地域共創学部		15	9	4	1	29	0
理工学部		29	10	7	3	49	4
生命科学部		13	4	1	0	18	3
建築都市工学部		14	11	1	0	26	7
芸術学部		23	9	6	1	39	9
国際文化学部		14	2	2	0	18	0
人間科学部		19	10	10	0	39	6
健康・スポーツ科学センター		0	3	1	2	6	0
国際交流センター		1	0	0	0	1	0
語学教育研究センター		2	3	22	0	27	0
基礎教育センター		4	2	6	1	13	0
総合機器センター		0	0	0	2	2	0
臨床心理センター		0	0	0	0	0	1
美術館		0	1	0	0	1	0
伝統みらい研究センター		0	0	0	1	1	0
合計		170	87	70	12	339	30

* 客員教授を除く。

- ・兼務者数： 577名
- ・平均年齢： 50.2歳

(名)

所属	職位	専任				計	助手
		教授	准教授	講師	助教		
造形芸術学科		4	5	3	0	12	0
合計		4	5	3	0	12	0

* 客員教授を除く。

- ・兼務者数： 81名
- ・平均年齢： 51.3歳

(2) 事務職員数

九州産業大学 (名)	
区分	人数
職員	233

造形短期大学部 (名)	
区分	人数
職員	1

* 事務職員等には他企業からの出向者を含む。



多様な資質を有する学生の獲得および文理芸が融合した実践力をみがく教育を実施する。



2025年度までの目標

- ▶ アドミッション・ポリシーに沿った優秀な学生の獲得
- ▶ 新時代に対応した教育プログラムの開発
- ▶ 教学マネジメントの確立
- ▶ ポストコロナ時代へ対応した支援の実施
- ▶ 実践力を育成する教育プログラムの推進
- ▶ 学年暦の柔軟化
- ▶ 学生の満足度を向上させる支援の実施
- ▶ 高等教育機関としての学び直しの推進

1. 地域・企業・行政と連携して取り組む「KSUプロジェクト型教育」

学生が学部・学科の域を超え、産学官連携による商品開発やプロモーション、技術開発、イベント開催など100件を超えるプロジェクトを実施。地域密着型チャリティーイベント「福岡サントウォーク in 千早」の開催や、学生がリフォームの企画から不動産賃貸支援までの実務に携わる家づくり教育プロジェクト「Re：部屋プロジェクト」の実施など、学生たちが現場を舞台に学びを繰り広げました。

また、福岡市中心部の商業施設（ソラリアプラザ）で、プロジェクトの成果を紹介する「九産大プロデュース展2023」を開催。学生の感性を生かしてデザインした伝統工芸品をはじめ、理工学部と芸術学部の学生が協力し製作した家具ロボットなど、学生の知恵が詰まった150以上の作品を展示しました。



福岡サントウォーク in 千早



Re：部屋プロジェクト



伝統工芸品今宿人形「猿面」



家具ロボット

2. 文理芸が融合した新たな教育プログラム「グローバル・フードビジネス・プログラム(GFBP)」の開設

グローバル化するフード産業において、世界で活躍できる「フードビジネスの未来の担い手」を育成する新たな教育プログラム「グローバル・フードビジネス・プログラム」を2023年4月に開設しました。

本プログラムでは、少人数教育かつ現場・実践力重視の学びを実施し、所属する学部の枠を越えて、文理芸の幅広い科目を学ぶことにより、フードビジネスに関する深い知見を養います。



<GFBPカリキュラム>

- GFBP 科目** グローバル・フードビジネスの基礎から実践までを学ぶ本プログラム独自の科目
(科目例：GFBの基礎、フードシステム論、フードビジネス論 など)
- 学部横断科目** ビジネスや食、グローバル、建築・デザインなどのフードビジネス関連科目
(科目例：流通ビジネス論、食品化学、アジア経済論、ソーシャルデザイン概論 など)

3. 高度な専門知識とスキルを修得する全学プログラム「KSUアドバンストプログラム」の開設

学生のやる気に応える組織的な支援を行う全学プログラム「KSUアドバンストプログラム」を2023年4月から開設。少人数教育で、将来の目標達成に必要な資格の取得や、より高度な専門知識・スキルの修得を支援し、社会の中核で活躍する人材の育成を目指します。

(プログラムの一例)

区分	プログラム名	プログラム内容
文系	観光人材総合育成プログラム	観光産業における優良企業(外資系、上場企業等)への人材を輩出するプログラム。TOEIC600点以上取得・国内旅行業務取扱管理者の資格取得と、論理的思考力の向上を目指す。
理工系	電気工事士資格取得支援プログラム	電機業界において汎用性も高く、就職に有利な国家資格である電気工事士(第一種、第二種)の資格取得を目指す。
芸術系	マンガ家デビュー作家育成プログラム	プロのマンガ家デビューに向け、物語構成、作画向上のノウハウ、投稿先へのアプローチ方法などの修得を目指す。



4. 本学独自の給付型奨学金制度の改正(2023年度入学者から適用)

学生の学業奨励と学習意欲の向上を目的に、2023年4月に給付型奨学金制度の一部を改正。制度の対象となる要件の範囲や採用人数を拡大しました。

中村治四郎奨学金 (新入生対象)

- ▶ 学業特待枠 : 4年間の長期認定枠と単年度認定枠あり
年間授業料相当額の全額もしくは半額を給付
- ▶ 学術文化特待枠 : 単年度認定枠
年間授業料相当額を給付

成績優秀者奨学金 (2年次以降対象)

- ▶ 前年度の成績をもとに毎年認定
- ▶ 学業成績優秀者約360名に対して、20万円から最大60万円を給付



研究力の向上を目指すとともに、大学院の改革を行い教育研究体制の充実を図る。



2025年度までの目標

- ▶ 文理芸を融合した学際的研究の推進
- ▶ 研究実績の拡大
- ▶ 産業界と連携した研究の推進
- ▶ 優秀な大学院生の獲得
- ▶ 大学院の改革

1. 共同研究の推進

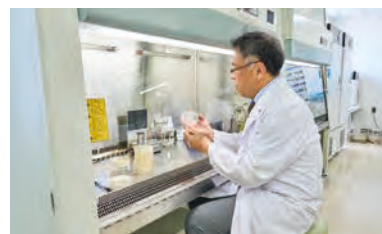
「九州産業大学 × QTnet」ローカル5Gを利用した共同研究を本格稼働

株式会社QTnetとの共同研究契約に基づき、本学キャンパスに独立したローカル5Gネットワークを構築。外部ネットワークの制限を受けない5G環境において、5Gの特長を生かした新たな利用方法について研究を開始しました。「文・理・芸」様々な分野で5Gを活用した社会課題の解決や新たなサービスの創造への研究開発を推進するとともに、学生の参画による人材育成にも取り組んでいきます。



食品大手企業と連携し、食の安全・安心を追求

本学では、独自の研究支援制度「実用化支援研究費」により、研究者の特色・特長のある研究を戦略的に推進し、研究成果の実用化に向けた支援を行っています。本研究費により設立した「食品微生物制御センター」では、割り出した微生物の特徴をデータベース化して、食品業界に広く展開するための研究に取り組んでいます。データベースを食品各社で相互利用することで、食品事故の早期解決や賞味期限の延長に役立てます。



2. 遺伝子・ゲノム研究の推進

生命科学部では、ヒトのがんに関わる遺伝子の研究を通じ、診断や治療法の開発につながる研究「遺伝子ゲノム研究」を進めています。成果の一つとして、本研究における学術論文が他の論文に引用された数が年間300件を超えたほか、企業と連携した共同研究では、機能性表示食品の製品化に向けた支援を行いました。2023年に新たに設立した遺伝子・ゲノム研究センターにて、さらなる研究の推進を図ります。



留学プログラムの充実を図り、様々な海外経験を通じて、グローバル人材の育成を目指す。



2025年度までの目標

- ▶ 国際感覚を養うプログラムの展開
- ▶ 学生の海外経験の増加及び留学支援体制の強化
- ▶ 優秀な留学生の獲得及び支援の強化
- ▶ 海外大学・組織等との連携の強化
- ▶ 国際化を推進する体制の整備

1. スタンフォード大学SPICEとの連携教育プログラムを開始

スタンフォード大学SPICE*と共同で、スタンフォード大学SPICEが展開する多文化理解教育プログラムを本学向けにアレンジした「Stanford e-KyuSan-U」を2023年4月から開講しました。このプログラムは2020年度から開始した「グローバル・リーダーシップ・プログラム」を、よりグローバルな視点を持ち、世界で活躍できる人材の育成を目指して強化するため導入したものです。

プログラムでは、「多様性 (Diversity)」「持続可能性 (Sustainability)」「起業家精神 (Entrepreneurship)」という3つのテーマについて英語によるオンライン授業を実施し、国際社会で活躍できる人材育成を目指します。

※ SPICE (Stanford Program on International and Cross-Cultural Education) : 初等教育から高等教育までのカリキュラム開発や教員の専門性開発、遠隔学習コースの開発を行っているスタンフォード大学の部局



2. KSU 海外経験プログラムの拡充

異文化を理解しグローバル社会に対応できる人材を育成するため、海外経験プログラムの拡充と支援の充実を図りました。

多くの学生に入学後早い段階で海外経験の機会を与えることを目的に、個人留学支援制度ではカテゴリーと支援金額を増やし、学部授業の一環で行う海外研修等においても、プログラム費用の一部を支援します。



個人留学支援制度
カテゴリー

- ①語学研修 ②ボランティア ③就労体験 ④芸術 ⑤スポーツ
- ⑥自己啓発 ⑦異文化体験 ⑧オンライン留学 ⑨初めての海外 ⑩その他



企業との共同研究や、大学発ベンチャーの設立など研究成果の社会実装を目指し、産学連携を強化する。

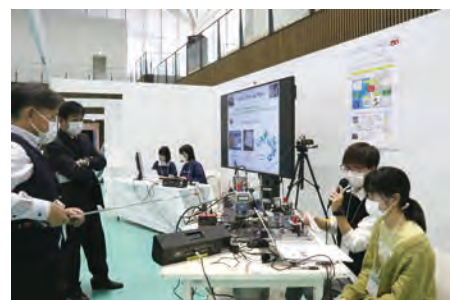
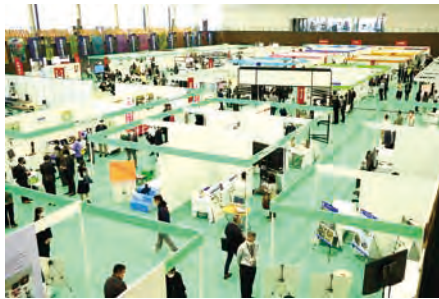


2025年度までの目標

- ▶ 社会性の高い研究の促進
- ▶ 産学官連携を強化するネットワークの構築
- ▶ 大学発ベンチャーの育成

1. 「KSU VISION DAY 文×理×芸=展」による産学官連携の強化

自治体・企業とのマッチングや教員同士の交流、地域社会への研究成果の還元を目的として、本学キャンパス内にある大楠アリーナ2020で「KSU VISION DAY 文×理×芸=展」を開催し、1,300名を超える方が来場しました。本学が有する文系・理工系・芸術系学部の研究シーズや研究成果に加え、企業や自治体と連携して取り組むプロジェクト型教育やボランティア活動など131のブースを紹介したほか、株式会社QTnet 代表取締役社長岩崎和人氏による基調講演も行われました。さらに、産学官連携プロジェクトの地域社会への発信により、産学連携や、共同研究に関する相談が多数寄せられるなど、新たな産業界との連携の促進に繋がりました。



2. 地域の課題解決を目指す金融機関との連携

新たに包括連携協定を締結した福岡信用金庫を含む、地元金融機関との連携を拡大し、地元企業の課題解決に協働で取り組むほか、大学の研究シーズを社会に還元することで、産学連携活動の発展を目指しています。

福岡信用金庫との包括連携協定締結

福岡信用金庫の顧客である地元企業の課題解決に、大学の知見を生かして協力するほか、学生の起業相談にご協力いただくなど、両者で地域経済の活性化と地域経済を担う人材の育成に取り組んでいます。

また、本締結に伴い、「かしいスクエア(福岡市)」のオープニングイベントとして、芸術学部の学生がビルの壁に花火や提灯をプロジェクションマッピングで映し出すイベント「縁日～縁を結ぶ日～」を実施しました。



福岡銀行と「若者向けPRの共同研究」を実施

商学部と福岡銀行が共同で、金融リテラシーの向上に向けた多彩な取組みを行っています。「若者向けPRの共同研究」においては、学生が、若者向けに販売する商品についての動画広告制作を提案したほか、「金融に対する若者の関心度」について同社担当者に現状報告とアプローチ方法の提案等を行いました。



遠賀信用金庫との「産学金連携事例報告会」を開催

本学と包括連携協定を結ぶ遠賀信用金庫の取引企業との更なる連携を促進することを目的として、「産学金連携事例報告会」を開催しました。報告会では、芸術学部や造形短期大学部が取り組むデザインプロジェクト3事例を紹介しました。今後はさらなる連携を深め、新事業の開発や地方創生に貢献していきます。



連携事例

- ・パッケージデザインプロジェクト
- ・移動販売車の内外装デザインプロジェクト
- ・包装紙開発プロジェクト



地域の課題解決に向けた取り組みや本学施設を利用した交流などを通じて、地域に貢献する大学を目指す。



2025年度までの目標

- ▶ 地域社会の課題解決へ向けた貢献活動の推進
- ▶ 本学の施設を活用した地域との交流
- ▶ 地域に向けた知の発信

1. 地域の課題解決のための学生ボランティア活動

本学は、地域社会への貢献を目的に、復興支援ボランティア活動および地域の課題解決のためのボランティア活動に取り組んでいます。2022年度は700名以上の学生・教職員が被災地の復興支援や地域のニーズに対応した活動を実施しました。

- 主な活動**
- ・復興支援ボランティア(朝倉市や大牟田市など)…250名以上
 - ・福岡トライアスロンボランティア…220名以上
 - ・海ごみゼロ活動(名島海岸での海洋ごみ清掃)…50名以上



福岡トライアスロンボランティア



海ごみゼロ活動

2. 産学官連携による地域振興プロジェクト

九州電力株式会社福岡支店や朝倉市、宗像市と連携して、防災や産業復興に関するプロジェクトを推進しています。宗像市との連携においては、学生提案による地域振興プロジェクトが、地域活性化を目的とした「宗像市元気な島づくり事業補助金」に採択されました。コロナ禍で観光客が減少している離島の大島と地島の魅力を伝えるため、学生視点でパンフレットを制作し、情報発信策を提案しました。



3. 美術館 アートキャラバン隊による地域貢献活動

アートキャラバン隊では、文化芸術活動の振興や地域社会との連携強化を目的に、地域の小学生・高齢者等を対象としたワークショップを実施しています。近隣の小学校やリハビリテーション病院にて実施した「お出かけ鑑賞教室」では、本学美術館の収蔵作品について、幅広い視野で鑑賞してもらうために、学生・学芸員が参加者と対話をしながら作品鑑賞を行いました。





ダイバーシティ分野 Diversity

多様な人々が
集い学が
インクルーシブな
大学運営を行う。



2025年度までの目標

- ▶ 男女共同参画社会を担う学生の育成
- ▶ 多様な学生への支援
- ▶ 多様な教職員の参画機会拡大

1. 九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムを開催

「九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク(Q-wea)」との共催による女性研究者支援シンポジウムを開催しました。ウェルビーイングの視点から考える大学の果たすべき役割や、ジェンダー・ダイバーシティの実現に向けた女性研究者の更なる活躍について活発な議論を行いました。



2. 全学部共通「ダイバーシティ」に関する講座開講

男女共同参画や異文化交流、障がい者雇用など様々な観点からダイバーシティについて学ぶ講座を新たに開講しました。授業はオムニバス形式で実施し、様々な分野の教員が、それぞれの視点からダイバーシティについて講義を実施。ダイバーシティへの理解や推進への取り組み、自身のキャリア形成などについて考えました。



3. 「ダイバーシティ推進シンボルマーク」の決定

本学のダイバーシティ推進基本方針に基づき、多様性を尊重する大学の実現に向けたダイバーシティ推進の一環として、学生から「ダイバーシティ推進シンボルマーク」のデザインを募集。35件の応募の中から芸術学部生のデザインが採用されました。

シンボルマークは、本学のシンボルツリーである大楠をモチーフに、大学を根、社会を幹とし、大学から社会全体に広がっていく様子をレインボーカラーで表現。今後も様々な機会でも活用し、ダイバーシティ推進に向けた啓蒙活動を行っていきます。





ブランディング分野 Branding

本学ならではの
ブランドイメージの
構築を図り、
産業界や地域への
広報・広聴活動を
拡充する。



2025年度までの目標

- ▶ 本学ならではのイメージ構築（「もっと意外に。もっと自由に。」）
- ▶ 産業界や地域への広報・広聴機能の拡充

1. イメージを統一した広報活動「超えるを学ぶ。」を展開

本学の中期計画目標である「文理芸融合のグローバル総合大学へ」を象徴する新ビジュアル「超えるを学ぶ。」を掲げ、CMや駅看板広告を始めとする各メディアで展開しました。イメージの統一性を確保した広報活動の実施により、各ステークホルダーへの本学認知イメージの更なる浸透を図ります。



2. 本学の魅力をタイムリーに発信する大学ホームページのリニューアル

多様なユーザーに対応した分かりやすさの向上と内容の充実を重視した、ホームページのリニューアルを行いました。各学部の新規情報を掲載したニュースサイトやイベント情報サイトを構築し、コンテンツを充実させたほか、閲覧いただきたい情報をわかりやすい位置に配置することで、ユーザーの利便性向上を図りました。





経営基盤分野 University Management

財務体質や
大学運営の
基盤強化および
職員のさらなる
能力向上を目指す。



2025年度までの目標

- ▶ 継続的な組織改革
- ▶ 教員組織の充実
- ▶ 業務改革・効率化
- ▶ IR機能の強化
- ▶ 同窓会・卒業生との関係強化
- ▶ 事務職員の能力開発
- ▶ ガバナンスの強化
- ▶ 財政基盤の一層の強化
- ▶ 将来を見据えたキャンパス整備

1. キャンパスマスタープラン2022及び建物建て替え計画の策定

本学の将来を見据えたキャンパス整備の基本方針「キャンパスマスタープラン」を改訂しました。

「地域と共生し環境にやさしく安全・安心で学生や教職員が誇りを持てるキャンパスづくり」の基本理念のもと、時代の変化に対応した新たな視点を織り込み、大学の顔となる正門・北門の整備、老朽化に伴う建て替え整備など、持続可能なキャンパス整備を行います。



2. 九州産業大学テーマ募金の推進

本学のグローバル人材の育成やSDGsの推進など、本学の取組みの中から、特色あるテーマを選んでご寄付をいただく用途指定型の募金事業「九州産業大学テーマ募金」を推進しています。2022年度は、教育プログラムや奨学金制度の充実などについて、皆様からの多大なご支援をいただき、目標寄付金額を達成することができました。皆様からのご支援は対象テーマ事業を推進するための資金として大切に活用させていただきます。

(募金テーマ例)

支援分野	募金テーマ
教育分野	グローバル人材育成プログラムの推進
研究分野	特色ある研究の推進
課外活動分野	サークル活動の活性化



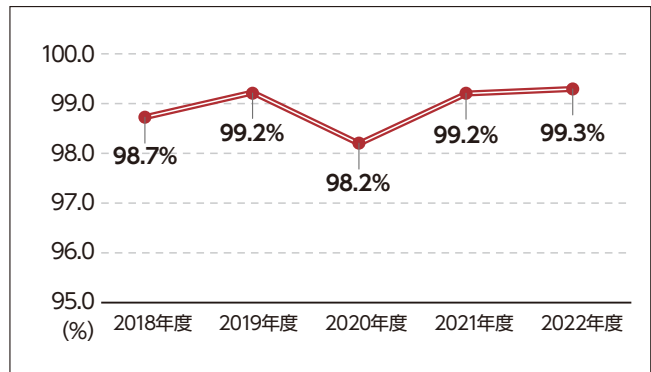


数字で見る実績

就職決定率(対就職希望者)

過去最高に並んだ昨年度をさらに0.1ポイント上回る99.3%の就職決定率を達成しました。企業の採用意欲の高まりに加え、教職員が一体となった学生支援が実を結び就職率向上に繋がりました。

※ 年度数値は、5月1日現在
例) 2022年度：2023年5月1日現在の就職決定率

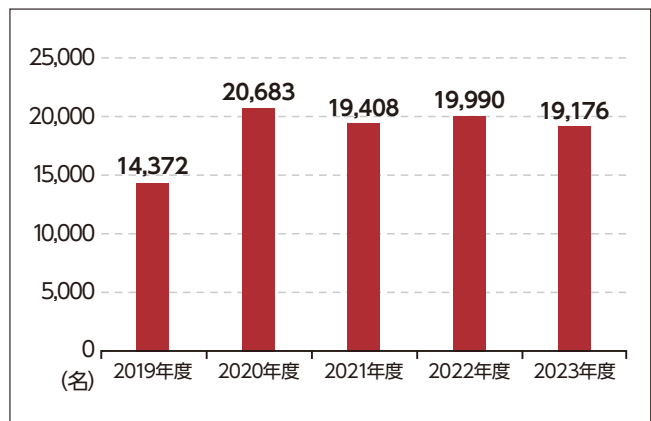


志願者数

延べ志願者数は、4年連続1万9千人を超えたものの、前年度からは微減となりました。

今後も本学の魅力を高めるとともに、入試広報活動による本学の魅力発信の強化を図ります。

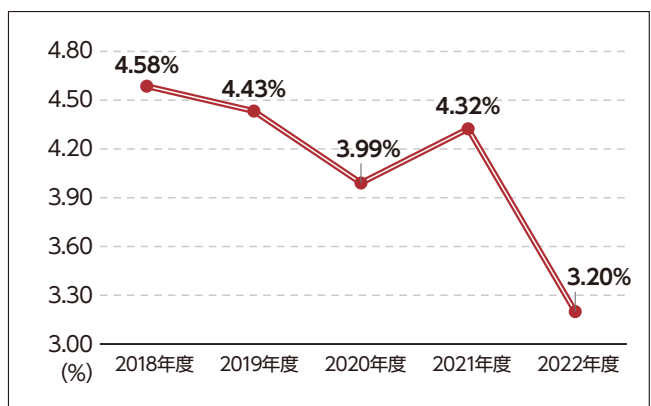
※ 年度数値は、4月1日現在
例) 2023年度：2023年4月入学希望の志願者



除籍・退学率

除籍・退学率は、昨年度から1.1ポイント減少の3.2%を記録し、過去最低水準となりました。コロナの収束に伴う対面による授業の再開や、継続的な学生指導によって、大幅に除籍・退学者数が減少しました。

※ 年度数値は、4月1日現在
例) 2022年度：2023年3月31日現在の除籍・退学率



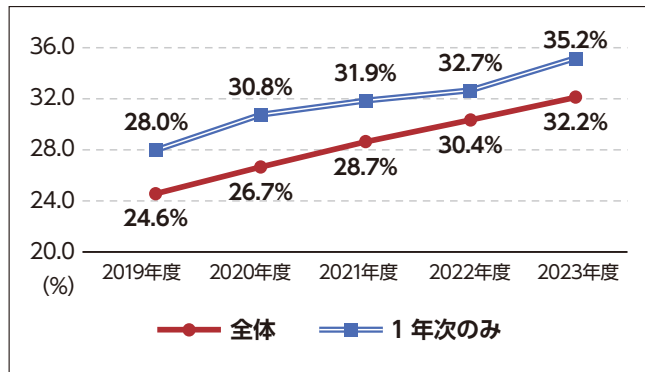
女子学生比率

女子学生比率全体 32.2%
(前年度差+1.8ポイント)

1年次のみ 35.2%
(前年度差+2.5ポイント)

女子学生の活動支援の充実や多様な学生が学び集うキャンパス環境・制度作りなどを継続して行っています。

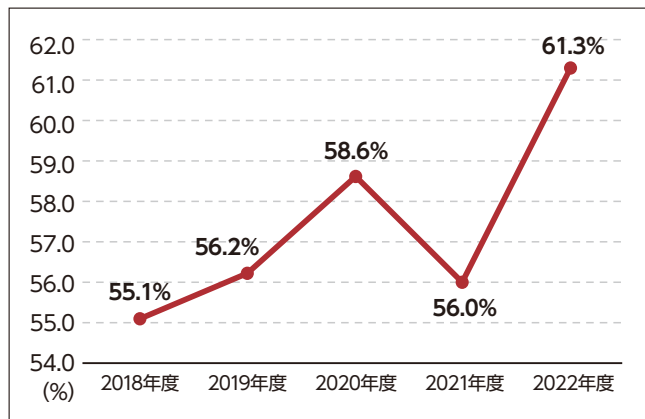
※ 年度数値は、4月1日現在
例) 2023年度：2023年4月1日現在の女子学生比率



サークル加入率

学生のサークル加入率は、コロナ禍においても、新入生歓迎行事やサークル勧誘などを積極的に展開したことで、前年度差5.3ポイントアップの過去5年で最高の61.3%となりました。

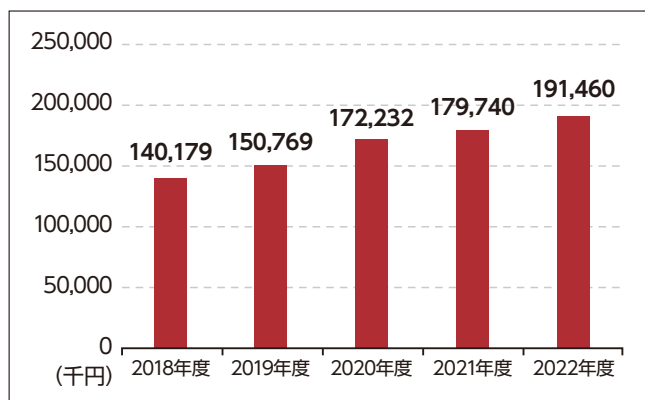
今後も課外活動支援の拡充を行い、学生生活の充実を図ります。



受託研究・共同研究数の増加 (外部資金獲得)

URA※を中心とした教員と企業・自治体とのマッチングなど、産業界・自治体との連携活動を推進したことにより、受託研究・共同研究数が増加しました。

外部から獲得する研究資金である外部資金の獲得総額(科学研究費補助金を含む)は、昨年を大きく上回る約1億9千万円となりました。



※ University Research Administrator :
研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を支える人材

1. 貸借対照表関係

(1) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：円)

資産の部					
科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
固定資産	100,724,575,457	100,040,518,693	99,179,274,607	100,259,867,309	98,497,506,711
有形固定資産	46,749,294,109	48,081,160,444	49,207,717,912	51,371,350,401	44,782,343,988
土地	5,510,246,697	5,510,246,697	5,635,967,647	5,656,615,647	5,656,615,647
建物	30,025,084,287	31,040,405,324	32,083,929,454	33,541,744,039	24,117,015,461
構築物	1,033,433,222	945,928,517	1,067,879,187	1,159,907,523	893,901,111
教育研究用機器備品	3,330,235,785	3,781,577,719	3,656,080,017	4,291,983,644	4,357,384,641
管理用機器備品	123,369,962	118,142,470	120,537,513	115,628,417	131,743,023
図書	6,717,630,156	6,680,031,717	6,643,160,094	6,598,680,531	6,571,358,703
車輛	164,000	164,000	164,000	164,000	164,000
建設仮勘定	9,130,000	4,664,000	0	6,626,600	3,054,161,402
特定資産	51,410,133,000	49,900,133,000	48,206,455,723	47,044,146,723	52,308,478,723
第2号基本金引当特定資産	10,100,000,000	9,100,000,000	8,100,000,000	7,100,000,000	9,337,000,000
第3号基本金引当特定資産	16,550,000,000	16,550,000,000	16,550,000,000	16,550,000,000	16,550,000,000
退職給与引当特定資産	3,700,000,000	3,690,000,000	3,710,000,000	3,650,000,000	3,728,534,000
減価償却引当特定資産	20,060,133,000	20,060,133,000	19,846,455,723	19,744,146,723	22,692,944,723
危機管理対策準備資産	1,000,000,000	500,000,000	0	0	0
その他の固定資産	2,565,148,348	2,059,225,249	1,765,100,972	1,844,370,185	1,406,684,000
電話加入権	2,336,279	2,336,279	2,336,279	2,336,279	2,336,279
敷金保証金	30,479	30,479	30,479	530,479	530,479
教育研究用ソフトウェア	92,118,320	85,549,720	73,596,720	55,795,800	48,848,520
管理用ソフトウェア	11,467,742	9,530,914	2,616,883	3,854,576	5,839,543
有価証券	2,453,149,528	1,952,931,857	1,671,110,611	1,754,589,051	1,305,834,179
奨学貸付金	6,046,000	8,846,000	15,410,000	27,264,000	43,295,000
流動資産	9,519,329,964	9,567,549,650	7,207,220,762	6,949,155,006	8,453,716,488
現金預金	9,392,985,188	9,444,933,538	7,031,955,931	6,841,657,711	8,312,133,144
未収入金	69,199,645	30,501,639	93,025,987	24,141,110	64,649,098
貯蔵品	16,148,551	35,135,347	15,840,546	16,512,576	22,849,538
前払金	34,848,850	52,881,801	62,943,479	63,214,390	48,600,530
立替金	6,147,730	4,097,325	3,454,819	3,629,219	5,484,178
資産の部合計	110,243,905,421	109,608,068,343	106,386,495,369	107,209,022,315	106,951,223,199

(単位：円)

負債の部					
科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
固定負債	4,227,249,106	4,396,242,326	4,049,646,286	4,122,572,146	4,506,354,502
長期未払金	441,354,856	692,454,576	287,552,136	460,259,496	769,940,052
退職給与引当金	3,781,418,700	3,699,312,200	3,757,618,600	3,657,837,100	3,731,938,900
長期預り金	4,475,550	4,475,550	4,475,550	4,475,550	4,475,550
流動負債	3,714,184,964	3,739,698,089	3,286,728,054	3,614,232,660	3,567,488,060
未払金	863,530,630	835,630,541	640,958,054	856,110,765	887,237,900
前受金	2,679,051,827	2,710,435,161	2,457,238,523	2,539,663,411	2,489,533,077
預り金	171,602,507	193,632,387	188,531,477	218,458,484	190,717,083
負債の部合計	7,941,434,070	8,135,940,415	7,336,374,340	7,736,804,806	8,073,842,562
純資産の部					
科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
基本金	114,029,690,069	112,512,875,019	110,967,630,870	111,046,722,533	104,453,132,435
第1号基本金	86,598,690,069	86,081,875,019	85,536,630,870	86,615,722,533	77,785,132,435
第2号基本金	10,100,000,000	9,100,000,000	8,100,000,000	7,100,000,000	9,337,000,000
第3号基本金	16,550,000,000	16,550,000,000	16,550,000,000	16,550,000,000	16,550,000,000
第4号基本金	781,000,000	781,000,000	781,000,000	781,000,000	781,000,000
繰越収支差額	△ 11,727,218,718	△ 11,040,747,091	△ 11,917,509,841	△ 11,574,505,024	△ 5,575,751,798
翌年度繰越収支差額	△ 11,727,218,718	△ 11,040,747,091	△ 11,917,509,841	△ 11,574,505,024	△ 5,575,751,798
純資産の部合計	102,302,471,351	101,472,127,928	99,050,121,029	99,472,217,509	98,877,380,637
負債及び純資産の部合計	110,243,905,421	109,608,068,343	106,386,495,369	107,209,022,315	106,951,223,199

財務の概要

(2) 財務比率の経年比較

(単位：%)

比率名	算式	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	91.4	91.3	93.2	93.5	92.1
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	42.4	43.9	46.3	47.9	41.9
特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	46.6	45.5	45.3	43.9	48.9
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	8.6	8.7	6.8	6.5	7.9
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	3.8	4.0	3.8	3.8	4.2
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	3.4	3.4	3.1	3.4	3.3
内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{総負債}}{\text{総資産}}$	50.2	48.5	46.6	44.7	50.4
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	435.6	433.6	397.4	417.0	480.8
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	92.8	92.6	93.1	92.8	92.5
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債+純資産}}$	▲ 10.6	▲ 10.1	▲ 11.2	▲ 10.8	▲ 5.2
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	98.5	98.6	100.1	100.8	99.6
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	94.6	94.5	96.2	96.8	95.3
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	256.3	255.8	219.3	192.3	237.0
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	7.2	7.4	6.9	7.2	7.5
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	7.8	8.0	7.4	7.8	8.2
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	350.6	348.5	286.2	269.4	333.9
退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	97.8	99.7	98.7	99.8	99.9
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.4	99.2	99.9	99.4	99.0
減価償却比率 (図書を除く)	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得価額}}$	53.9	48.4	49.8	47.9	53.4
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	89.2	89.8	87.4	87.9	97.7

2. 資金収支計算書関係

(1) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

収入の部					
科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
学生生徒等納付金収入	11,449,898,350	11,002,208,600	11,066,898,500	10,778,783,550	10,504,095,500
授業料収入	7,884,983,150	7,554,685,000	7,558,543,500	7,433,729,100	7,316,467,600
入学金収入	637,910,000	579,520,000	628,976,000	594,085,000	567,640,000
演習実験費収入	6,030,000	5,238,000	2,868,000	1,542,000	2,052,000
教育充実費収入	2,920,975,200	2,862,765,600	2,876,511,000	2,749,427,450	2,617,935,900
手数料収入	373,418,208	378,484,492	368,858,324	351,681,670	261,047,700
入学検定料収入	358,047,000	365,727,000	358,010,000	336,930,000	245,098,000
試験料収入	2,860,000	1,299,000	1,337,000	1,659,000	2,391,000
証明手数料収入	5,015,900	4,257,320	2,420,500	6,338,900	6,213,800
大学入学共通テスト実施手数料収入	7,495,308	7,201,172	7,090,824	6,753,770	7,344,900
寄付金収入	158,121,076	113,603,982	117,837,452	257,577,644	88,417,454
特別寄付金収入	138,284,885	104,046,239	67,347,536	22,526,703	13,923,680
一般寄付金収入	6,863,019	9,557,743	47,121,916	4,097,986	2,507,973
施設設備寄付金収入	12,973,172	0	3,368,000	230,952,955	71,985,801
補助金収入	2,180,883,973	1,963,038,849	1,732,628,339	1,265,548,885	1,187,987,924
国庫補助金収入	2,179,717,351	1,962,005,319	1,731,465,673	1,264,455,069	1,187,018,804
地方公共団体補助金収入	1,166,622	1,033,530	1,162,666	1,093,816	969,120
資産売却収入	1,875,396	2,431,645,200	96,296,322	0	100,000,000
施設売却収入	0	2,133,300,971	6,500,000	0	0
有価証券売却収入	0	295,044,426	81,081,620	0	100,000,000
投資信託特別分配金収入	1,875,396	3,299,803	8,714,702	0	0
付随事業・収益事業収入	217,772,556	195,720,875	161,003,856	199,546,745	178,890,559
補助活動収入	126,887,280	128,608,080	122,967,800	141,980,200	134,679,500
受託事業収入	87,297,532	60,669,683	30,700,244	38,102,292	25,229,400
公開講座収入	379,000	146,000	2,288,000	12,505,200	13,413,300
講習会収入	3,208,744	6,297,112	5,047,812	6,959,053	5,568,359
受取利息・配当金収入	280,358,204	315,973,390	394,300,410	453,669,532	450,551,846
第3号基本金引当特定資産運用収入	82,441,690	106,708,436	160,149,043	201,167,427	206,152,029
その他の受取利息・配当金収入	197,916,514	209,264,954	234,151,367	252,502,105	244,399,817
雑収入	159,756,283	161,526,646	120,008,462	122,069,929	132,230,868
施設設備利用料収入	108,196,133	114,407,286	86,653,247	86,023,423	95,561,115
その他の雑収入	31,775,578	23,333,910	8,796,144	18,158,644	19,098,849
研究関連収入	19,784,572	23,785,450	24,559,071	17,887,862	17,570,904
借入金等収入	0	0	0	0	0

財務の概要

(単位：円)

科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
前受金収入	2,679,051,827	2,710,435,161	2,457,238,523	2,539,663,411	2,489,533,077
授業料前受金収入	1,473,932,000	1,460,369,000	1,313,882,000	1,320,661,000	1,312,533,000
入学金前受金収入	632,528,000	634,940,000	575,975,000	625,926,000	591,200,000
施設費前受金収入	70,000	0	0	32,800	0
教育充実費前受金収入	510,729,000	527,345,000	490,170,000	532,050,000	523,580,000
補助活動前受金収入	33,785,140	37,762,320	38,716,100	38,679,500	38,882,800
その他教育活動前受金収入	28,007,687	50,018,841	38,495,423	22,314,111	23,337,277
その他の収入	20,594,374,883	21,297,400,383	12,672,451,448	13,772,768,516	18,055,550,821
第2号基本金引当特定資産取崩収入	3,500,000,000	2,500,000,000	1,700,000,000	3,637,000,000	8,583,800,000
第3号基本金引当特定資産取崩収入	7,386,438,244	8,619,360,245	6,051,315,938	2,541,354,058	937,934,520
退職給与引当特定資産取崩収入	1,290,180,000	311,466,000	251,466,000	330,000,000	860,000,000
減価償却引当特定資産取崩収入	2,764,275,000	3,286,322,723	2,498,165,000	5,748,798,000	6,700,000,000
危機管理対策準備資産取崩収入	1,000,000,000	0	0	0	0
有価証券取崩収入	4,620,510,000	6,476,442,518	2,136,040,000	1,406,420,000	884,888,000
前期末未収入金収入	30,501,639	93,025,987	24,141,110	64,649,098	25,818,549
預り金受入収入	0	5,100,910	0	27,741,401	40,341,757
奨学貸付金回収収入	2,470,000	5,682,000	10,649,000	14,951,000	22,767,995
敷金保証金回収収入	0	0	500,000	0	0
立替金回収収入	0	0	174,400	1,854,959	0
資金収入調整勘定	△2,779,634,806	△2,487,740,162	△2,632,689,398	△2,513,674,187	△2,530,914,225
期末未収入金	△69,199,645	△30,501,639	△93,025,987	△24,141,110	△64,649,098
前期末前受金	△2,710,435,161	△2,457,238,523	△2,539,663,411	△2,489,533,077	△2,466,265,127
前年度繰越支払資金	9,444,933,538	7,031,955,931	6,841,657,711	8,312,133,144	11,743,277,307
収入の部合計	44,760,809,488	45,114,253,347	33,396,489,949	35,539,768,839	42,660,668,831

(単位：円)

支出の部					
科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
人件費支出	6,590,016,149	6,715,104,478	6,389,241,017	6,711,423,149	6,616,413,920
教員人件費支出	4,302,090,780	4,338,907,396	4,272,863,414	4,318,184,295	4,299,782,752
職員人件費支出	1,865,935,043	1,822,976,086	1,778,879,807	1,791,392,240	1,747,374,338
役員報酬支出	132,766,726	133,654,196	138,703,496	126,917,514	105,321,730
退職金支出	289,223,600	419,566,800	198,794,300	474,929,100	463,935,100
教育研究経費支出	4,003,683,410	3,438,848,785	4,055,457,402	2,921,018,840	2,861,425,200
消耗品費支出	189,733,221	182,572,121	158,352,950	208,300,101	194,249,471
光熱水費支出	372,419,788	318,031,877	264,827,885	262,461,984	261,431,657
旅費交通費支出	110,987,296	47,374,615	35,216,925	169,180,632	169,959,597
通信費支出	23,467,213	26,167,498	25,162,309	23,889,052	24,735,733
資料費支出	176,275,731	156,139,349	157,816,369	145,592,570	99,604,009
諸会費支出	9,960,612	7,686,639	8,717,132	10,030,767	10,373,646
印刷製本費支出	70,077,475	76,634,656	65,771,263	97,094,512	96,692,341
購読費支出	96,286,791	91,677,625	91,599,027	92,423,072	96,346,205
調査費支出	0	0	0	0	5,436,458
支払修繕料支出	359,750,097	158,461,374	175,974,275	153,847,569	272,404,183
賃借料支出	21,008,581	19,740,479	16,479,160	23,673,119	20,893,014
実験実習諸費支出	83,138,642	78,932,185	74,740,352	80,185,522	75,072,508
会議懇談会費支出	1,452,749	501,593	556,762	3,412,746	4,225,671
委託管理費支出	4,163,000	3,353,000	1,687,480	1,072,000	899,200
奨学費支出	1,192,836,286	1,073,952,897	1,321,044,915	454,970,764	426,522,289
学生指導費支出	41,502,047	34,213,559	20,833,727	31,349,287	26,580,330
体育実習諸費支出	658,350	686,070	9,291,605	1,334,176	1,008,540
衛生費支出	254,712,857	244,029,330	229,326,794	219,165,733	215,516,599
教育費支出	11,564,244	5,166,657	6,608,443	13,975,250	4,324,969
損害保険料支出	10,515,085	9,665,449	9,285,743	9,103,963	9,258,871
支払報酬支出	53,130,788	47,508,545	42,899,610	43,686,369	35,854,771
行事費支出	48,869,466	36,041,444	84,800,298	30,416,797	37,367,145
諸手数料支出	333,423,400	331,123,689	234,012,368	262,400,349	243,976,138
保守料支出	396,497,596	363,981,081	358,070,006	334,474,026	323,223,375
広告費支出	0	0	99,220	255,770	222,480
警備費支出	83,914,798	87,351,161	80,060,734	82,053,561	81,314,898
移転費支出	1,632,180	1,898,650	5,928,500	25,694,913	13,469,760
取壊し費支出	38,065,000	20,427,000	562,899,600	126,462,200	97,229,000
雑費支出	17,640,117	15,530,242	13,393,950	14,512,036	13,232,342

財務の概要

(単位：円)

科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
管理経費支出	817,103,813	921,840,698	680,976,123	682,143,463	786,307,390
消耗品費支出	6,995,525	7,649,416	6,980,616	11,853,930	11,715,621
光熱水費支出	21,260,807	22,677,433	20,563,125	17,053,653	18,115,398
旅費交通費支出	28,453,228	19,651,334	17,358,972	41,411,638	41,260,098
通信費支出	24,959,362	24,036,922	26,990,527	26,172,190	23,970,117
諸会費支出	24,526,435	20,069,680	20,079,200	19,340,550	20,921,570
印刷製本費支出	82,186,812	82,003,782	80,853,906	65,681,144	86,710,707
購読費支出	6,251,379	5,149,332	5,669,058	7,907,347	7,434,628
支払修繕料支出	47,110,161	37,223,442	20,244,386	21,117,577	21,296,935
賃借料支出	13,560,587	10,998,621	9,445,933	14,710,132	10,985,694
会議懇談会費支出	3,861,586	1,993,646	1,349,225	8,926,919	7,527,100
衛生費支出	17,569,867	17,289,666	14,508,998	16,105,948	14,760,254
損害保険料支出	1,002,349	991,212	926,938	652,842	615,472
支払報酬支出	16,699,861	17,564,172	17,234,346	18,111,076	18,432,867
行事費支出	3,944,478	43,448,153	5,338,898	5,993,387	12,332,154
諸手数料支出	148,312,808	238,112,534	158,742,433	136,754,015	191,128,116
保守料支出	51,123,241	43,411,479	42,144,793	40,702,476	35,719,186
広告費支出	157,018,030	162,583,394	107,359,545	117,045,685	127,520,569
車輛費支出	1,206,363	1,178,970	1,318,728	2,063,357	1,909,658
福利費支出	8,811,980	8,409,017	6,350,010	6,362,305	6,967,134
租税公課支出	42,450,792	72,255,949	31,259,276	22,919,422	18,862,006
渉外費支出	4,621,503	3,292,575	4,353,845	14,525,683	11,311,291
寄付金支出	30,000	0	0	300,000	400,000
警備費支出	8,628,141	7,932,239	7,486,297	8,011,208	7,982,862
職員研修費支出	6,717,269	5,653,518	4,486,671	4,209,103	4,559,596
私立大学等経常費補助金返還金支出	3,064,000	2,985,000	1,880,000	897,000	1,155,000
授業料等減免費交付金返還支出	1,408,500	0	0	0	0
移転費支出	0	814,000	1,854,000	2,238,100	2,762,640
取壊し費支出	20,010,000	12,200,000	7,850,000	26,555,340	56,162,200
雑費支出	65,318,749	52,265,212	34,961,457	21,019,757	23,788,517
過年度修正支出	0	0	23,384,940	3,501,679	0
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	623,980,830	409,661,900	290,035,700	7,886,449,140	4,049,461,817
建物支出	416,512,530	392,882,400	205,933,700	7,484,503,900	970,020,680
構築物支出	203,002,300	12,115,500	84,102,000	395,318,640	77,098,135
建設仮勘定支出	4,466,000	4,664,000	0	6,626,600	3,002,343,002

財務の概要

(単位：円)

科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
設備関係支出	722,814,067	1,381,652,404	659,924,791	1,181,135,132	1,416,037,619
教育研究用機器備品支出	608,451,200	1,261,400,635	528,639,388	1,083,371,795	1,321,182,438
管理用機器備品支出	29,287,900	19,328,165	39,126,300	16,717,700	35,070,020
図書支出	50,149,967	54,934,804	54,731,933	55,016,737	54,579,561
教育研究用ソフトウェア支出	30,305,000	35,794,000	37,191,000	24,556,000	5,205,600
管理用ソフトウェア支出	4,620,000	10,194,800	236,170	1,472,900	0
資産運用支出	22,380,979,066	23,411,205,593	13,871,382,818	8,960,519,853	19,056,068,762
有価証券購入支出	4,930,085,822	7,000,379,348	2,208,126,880	1,967,699,795	1,005,613,362
第2号基本金引当特定資産繰入支出	4,500,000,000	3,500,000,000	2,700,000,000	1,400,000,000	6,737,000,000
第3号基本金引当特定資産繰入支出	7,386,438,244	8,619,360,245	6,051,315,938	2,541,354,058	937,934,520
退職給与引当特定資産繰入支出	1,300,180,000	291,466,000	311,466,000	251,466,000	760,000,000
減価償却引当特定資産繰入支出	2,764,275,000	3,500,000,000	2,600,474,000	2,800,000,000	9,615,520,880
危機管理対策準備資産繰入支出	1,500,000,000	500,000,000	0	0	0
その他の支出	880,941,719	664,101,794	920,151,859	920,254,104	819,710,497
前期末未払金支払支出	835,630,541	640,958,104	856,110,815	887,237,950	772,914,474
預り金支払支出	22,029,880	0	29,927,007	0	0
前払金支払支出	21,230,893	22,501,184	34,114,037	33,016,154	44,504,203
立替金支払支出	2,050,405	642,506	0	0	2,291,820
資金支出調整勘定	△ 651,694,754	△ 1,273,095,843	△ 502,635,692	△ 564,832,553	△ 1,256,889,518
期末未払金	△ 612,430,910	△ 1,240,532,981	△ 468,250,744	△ 546,430,259	△ 1,244,730,380
前期末前払金	△ 39,263,844	△ 32,562,862	△ 34,384,948	△ 18,402,294	△ 12,159,138
翌年度繰越支払資金	9,392,985,188	9,444,933,538	7,031,955,931	6,841,657,711	8,312,133,144
支出の部合計	44,760,809,488	45,114,253,347	33,396,489,949	35,539,768,839	42,660,668,831

財務の概要

(2) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

科目		令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
教育活動による資金収支	収入					
	学生生徒等納付金収入	11,449,898,350	11,002,208,600	11,066,898,500	10,778,783,550	10,504,095,500
	手数料収入	373,418,208	378,484,492	368,858,324	351,681,670	261,047,700
	特別寄付金収入	138,284,885	104,046,239	67,347,536	22,526,703	13,923,680
	一般寄付金収入	6,863,019	9,557,743	47,121,916	4,097,986	2,507,973
	経常費等補助金収入	2,133,480,973	1,957,263,849	1,661,043,339	1,265,548,885	1,150,035,924
	付随事業収入	217,772,556	195,720,875	161,003,856	199,546,745	178,890,559
	雑収入	159,756,283	161,526,646	120,008,462	122,069,929	132,230,868
	教育活動資金収入計	14,479,474,274	13,808,808,444	13,492,281,933	12,744,255,468	12,242,732,204
	支出					
	人件費支出	6,590,016,149	6,715,104,478	6,389,241,017	6,711,423,149	6,616,413,920
	教育研究経費支出	4,003,683,410	3,438,848,785	4,055,457,402	2,921,018,840	2,861,425,200
	管理経費支出	817,103,813	921,840,698	657,591,183	678,641,784	786,307,390
	教育活動資金支出計	11,410,803,372	11,075,793,961	11,102,289,602	10,311,083,773	10,264,146,510
差引	3,068,670,902	2,733,014,483	2,389,992,331	2,433,171,695	1,978,585,694	
調整勘定等	121,653,438	276,609,141	△ 111,929,246	△ 7,309,930	△ 54,045,911	
教育活動資金収支差額	3,190,324,340	3,009,623,624	2,278,063,085	2,425,861,765	1,924,539,783	
施設整備等活動による資金収支	収入					
	施設設備寄付金収入	12,973,172	0	3,368,000	230,952,955	71,985,801
	施設設備補助金収入	47,403,000	5,775,000	71,585,000	0	37,952,000
	施設設備売却収入	0	2,133,300,971	6,500,000	0	0
	第2号基本金引当特定資産取崩収入	3,500,000,000	2,500,000,000	1,700,000,000	3,637,000,000	8,583,800,000
	減価償却引当特定資産取崩収入	2,764,275,000	3,286,322,723	2,498,165,000	5,748,798,000	6,700,000,000
	施設整備等活動資金収入計	6,324,651,172	7,925,398,694	4,279,618,000	9,616,750,955	15,393,737,801
	支出					
	施設関係支出	623,980,830	409,661,900	290,035,700	7,886,449,140	4,049,461,817
	設備関係支出	722,814,067	1,381,652,404	659,924,791	1,181,135,132	1,416,037,619
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	4,500,000,000	3,500,000,000	2,700,000,000	1,400,000,000	6,737,000,000
	減価償却引当特定資産繰入支出	2,764,275,000	3,500,000,000	2,600,474,000	2,800,000,000	9,615,520,880
	施設整備等活動資金支出計	8,611,069,897	8,791,314,304	6,250,434,491	13,267,584,272	21,818,020,316
	差引	△ 2,286,418,725	△ 865,915,610	△ 1,970,816,491	△ 3,650,833,317	△ 6,424,282,515
調整勘定等	△ 396,934,504	648,941,359	△ 426,897,022	△ 259,886,249	477,901,503	
施設整備等活動資金収支差額	△ 2,683,353,229	△ 216,974,251	△ 2,397,713,513	△ 3,910,719,566	△ 5,946,381,012	
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	506,971,111	2,792,649,373	△ 119,650,428	△ 1,484,857,801	△ 4,021,841,229	

財務の概要

(単位：円)

科目		令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
収入	有価証券売却収入	0	295,044,426	81,081,620	0	100,000,000
	投資信託特別分配金収入	1,875,396	3,299,803	8,714,702	0	0
	第3号基本金引当特定資産取崩収入	7,386,438,244	8,619,360,245	6,051,315,938	2,541,354,058	937,934,520
	退職給与引当特定資産取崩収入	1,290,180,000	311,466,000	251,466,000	330,000,000	860,000,000
	危機管理対策準備資産取崩収入	1,000,000,000	0	0	0	0
	有価証券取崩収入	4,620,510,000	6,476,442,518	2,136,040,000	1,406,420,000	884,888,000
	奨学貸付金回収収入	2,470,000	5,682,000	10,649,000	14,951,000	22,767,995
	預り金受入収入	0	5,100,910	0	27,741,401	40,341,757
	敷金保証金収入	0	0	500,000	0	0
	立替金回収収入	0	0	174,400	1,854,959	0
	小計	14,301,473,640	15,716,395,902	8,539,941,660	4,322,321,418	2,845,932,272
	受取利息・配当金収入	280,358,204	315,973,390	394,300,410	453,669,532	450,551,846
	その他の活動資金収入計	14,581,831,844	16,032,369,292	8,934,242,070	4,775,990,950	3,296,484,118
支出	有価証券購入支出	4,930,085,822	7,000,379,348	2,208,126,880	1,967,699,795	1,005,613,362
	第3号基本金引当特定資産繰入支出	7,386,438,244	8,619,360,245	6,051,315,938	2,541,354,058	937,934,520
	退職給与引当特定資産繰入支出	1,300,180,000	291,466,000	311,466,000	251,466,000	760,000,000
	危機管理対策準備資産繰入支出	1,500,000,000	500,000,000	0	0	0
	預り金支払支出	22,029,880	0	29,927,007	0	0
	立替金支払支出	2,050,405	642,506	0	0	2,291,820
	小計	15,140,784,351	16,411,848,099	8,600,835,825	4,760,519,853	2,705,839,702
	過年度修正支出	0	0	23,384,940	3,501,679	0
	その他の活動資金支出計	15,140,784,351	16,411,848,099	8,624,220,765	4,764,021,532	2,705,839,702
	差引	△ 558,952,507	△ 379,478,807	310,021,305	11,969,418	590,644,416
調整勘定等	33,046	△ 192,959	△ 72,657	2,412,950	52,650	
その他の活動資金収支差額	△ 558,919,461	379,671,766	309,948,648	14,382,368	590,697,066	
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	△ 51,948,350	2,412,977,607	190,298,220	△1,470,475,433	△3,431,144,163	
前年度繰越支払資金	9,444,933,538	7,031,955,931	6,841,657,711	8,312,133,144	11,743,277,307	
翌年度繰越支払資金	9,392,985,188	9,444,933,538	7,031,955,931	6,841,657,711	8,312,133,144	

(3) 財務比率の経年比較

比率名	算式	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入}}$	22.0%	21.8%	16.9%	19.0%	15.7%

3. 事業活動収支計算書関係

(1) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：円)

科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
学生生徒等納付金	11,449,898,350	11,002,208,600	11,066,898,500	10,778,783,550	10,504,095,500
授業料	7,884,983,150	7,554,685,000	7,558,543,500	7,433,729,100	7,316,467,600
入学金	637,910,000	579,520,000	628,976,000	594,085,000	567,640,000
演習実験費	6,030,000	5,238,000	2,868,000	1,542,000	2,052,000
教育充実費	2,920,975,200	2,862,765,600	2,876,511,000	2,749,427,450	2,617,935,900
手数料	373,418,208	378,484,492	368,858,324	351,681,670	261,047,700
入学検定料	358,047,000	365,727,000	358,010,000	336,930,000	245,098,000
試験料	2,860,000	1,299,000	1,337,000	1,659,000	2,391,000
証明手数料	5,015,900	4,257,320	2,420,500	6,338,900	6,213,800
大学入学共通テスト実施手数料	7,495,308	7,201,172	7,090,824	6,753,770	7,344,900
寄付金	200,480,554	123,893,982	114,469,452	26,624,689	16,431,653
特別寄付金	138,284,885	104,046,239	67,347,536	22,526,703	13,923,680
一般寄付金	6,863,019	9,557,743	47,121,916	4,097,986	2,507,973
現物寄付	55,332,650	10,290,000	0	0	0
経常費等補助金	2,133,480,973	1,957,263,849	1,661,043,339	1,265,548,885	1,150,035,924
国庫補助金	2,132,314,351	1,956,230,319	1,659,880,673	1,264,455,069	1,149,066,804
地方公共団体補助金	1,166,622	1,033,530	1,162,666	1,093,816	969,120
付随事業収入	217,772,556	195,720,875	161,003,856	199,546,745	178,890,559
補助活動収入	126,887,280	128,608,080	122,967,800	141,980,200	134,679,500
受託事業収入	87,297,532	60,669,683	30,700,244	38,102,292	25,229,400
公開講座収入	379,000	146,000	2,288,000	12,505,200	13,413,300
講習会収入	3,208,744	6,297,112	5,047,812	6,959,053	5,568,359
雑収入	159,766,333	161,530,266	120,009,232	122,070,799	132,230,868
施設設備利用料	108,196,133	114,407,286	86,653,247	86,023,423	95,561,115
その他の雑収入	31,785,628	23,337,530	8,796,914	18,159,514	19,098,849
研究関連収入	19,784,572	23,785,450	24,559,071	17,887,862	17,570,904
教育活動収入計	14,534,816,974	13,819,102,064	13,492,282,703	12,744,256,338	12,242,732,204

事業活動収入の部

財務の概要

(単位：円)

科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
人件費	6,672,122,649	6,656,798,078	6,489,022,517	6,637,321,349	6,492,783,220
教員人件費	4,302,090,780	4,338,907,396	4,272,863,414	4,318,184,295	4,299,782,752
職員人件費	1,865,935,043	1,822,976,086	1,778,879,807	1,791,392,240	1,747,374,338
役員報酬	132,766,726	133,654,196	138,703,496	126,917,514	105,321,730
退職給与引当金繰入額	362,212,500	334,031,900	297,600,800	328,480,500	307,304,400
退職金	9,117,600	27,228,500	975,000	72,346,800	33,000,000
教育研究経費	6,508,172,959	6,052,431,633	6,731,514,182	5,229,577,855	5,072,367,669
消耗品費	198,485,705	180,056,971	159,796,867	205,526,245	194,241,872
光熱水費	372,419,788	318,031,877	264,827,885	262,461,984	261,431,657
旅費交通費	110,987,296	47,374,615	35,216,925	169,180,632	169,959,597
通信費	23,412,506	26,270,884	25,124,407	24,195,715	24,412,101
資料費	176,275,731	156,139,349	157,816,369	145,592,570	99,604,009
諸会費	9,960,612	7,686,639	8,717,132	10,030,767	10,373,646
印刷製本費	70,786,572	76,736,439	65,149,082	99,319,331	95,985,155
購読費	96,286,791	91,677,625	91,599,027	92,423,072	96,346,205
調査費	0	0	0	0	5,436,458
支払修繕費	359,750,097	158,461,374	175,974,275	153,847,569	272,404,183
賃借料	21,008,581	19,740,479	16,479,160	23,673,119	20,893,014
実験実習諸費	83,138,642	78,932,185	74,740,352	80,185,522	75,072,508
会議懇談会費	1,452,749	501,593	556,762	3,412,746	4,225,671
委託管理費	4,163,000	3,353,000	1,687,480	1,072,000	899,200
奨学費	1,192,836,286	1,073,952,897	1,321,044,915	454,970,764	426,522,289
学生指導費	41,502,047	34,213,559	20,833,727	31,349,287	26,580,330
体育実習諸費	658,350	686,070	9,291,605	1,334,176	1,008,540
衛生費	255,160,867	243,084,680	229,326,794	219,165,733	215,516,599
教育費	11,564,244	5,166,657	6,608,443	13,975,250	4,324,969
損害保険料	10,515,085	9,665,449	9,285,743	9,103,963	9,258,871
支払報酬	53,130,788	47,508,545	42,899,610	43,686,369	35,854,771
行事費	50,402,178	36,389,884	82,629,718	30,700,437	37,224,615
諸手数料	333,423,400	331,123,689	234,191,118	262,221,599	243,976,138
保守料	396,497,596	363,981,081	358,070,006	334,474,026	323,223,375
広告費	0	0	99,220	255,770	222,480
警備費	83,914,798	87,351,161	80,060,734	82,053,561	81,314,898
移転費	1,632,180	1,898,650	5,928,500	25,694,913	13,469,760
取壊し費	38,065,000	20,427,000	562,899,600	126,462,200	97,229,000
雑費	17,379,801	15,616,553	13,421,251	14,819,731	13,308,873
減価償却額	2,493,362,269	2,616,402,728	2,677,237,475	2,308,388,804	2,212,046,885

事業活動支出の部

財務の概要

(単位：円)

科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
管理経費	1,000,942,446	1,028,848,590	779,643,943	802,383,706	926,966,681
消耗品費	8,819,271	5,421,373	6,606,496	12,060,299	13,040,217
光熱水費	21,260,807	22,677,433	20,563,125	17,053,653	18,115,398
旅費交通費	28,453,228	19,651,334	17,358,972	41,411,638	41,260,098
通信費	24,477,275	23,995,125	27,192,312	26,223,420	24,181,610
諸会費	24,526,435	20,069,680	20,079,200	19,340,550	20,921,570
印刷製本費	81,502,908	81,840,281	82,397,899	70,883,914	87,404,438
購読費	6,251,379	5,149,332	5,669,058	8,574,453	7,836,139
支払修繕費	47,110,161	37,223,442	20,244,386	21,117,577	21,296,935
賃借料	13,560,587	10,998,621	9,445,933	14,710,132	10,985,694
会議懇談会費	3,861,586	1,993,646	1,349,225	8,926,919	7,527,100
衛生費	29,701,835	5,138,366	14,517,488	16,103,528	14,755,164
損害保険料	1,002,349	991,212	926,938	652,842	615,472
支払報酬	16,699,861	17,564,172	17,234,346	18,111,076	18,432,867
行事費	5,205,058	42,187,573	5,338,898	5,993,387	12,332,154
諸手数料	148,312,808	238,112,534	158,742,433	136,754,015	191,128,116
保守料	51,123,241	43,411,479	42,144,793	40,702,476	35,719,186
広告費	157,018,030	162,583,394	107,359,545	117,045,685	127,520,569
車輛費	1,206,363	1,178,970	1,318,728	2,063,357	1,909,658
福利費	8,811,980	8,409,017	6,350,010	6,362,305	6,967,134
租税公課	42,450,792	72,255,949	31,259,276	22,919,422	18,862,006
渉外費	4,633,503	3,270,075	4,417,345	14,559,183	11,552,291
寄付金	30,000	0	0	300,000	400,000
警備費	8,628,141	7,932,239	7,486,297	8,011,208	7,982,862
職員研修費	6,717,269	5,653,518	4,486,671	4,209,103	4,559,596
私立大学等経常費補助金返還金	3,064,000	2,985,000	1,880,000	897,000	1,155,000
授業料減免費交付金返還	1,408,500	0	0	0	0
移転費	0	814,000	1,854,000	2,238,100	2,762,640
取壊し費	20,010,000	12,200,000	7,850,000	26,555,340	56,162,200
雑費	114,448,612	61,948,062	35,370,534	21,027,953	24,219,223
減価償却額	120,646,467	113,192,763	120,200,035	117,575,171	137,361,344
徴収不能額等	330,000	882,000	1,205,000	1,080,000	3,237,195
徴収不能引当金繰入額	330,000	882,000	1,205,000	1,080,000	3,237,195
教育活動支出計	14,181,568,054	13,738,960,301	14,001,385,642	12,670,362,910	12,495,354,765
教育活動収支差額	353,248,920	80,141,763	△ 509,102,939	73,893,428	△ 252,622,561

財務の概要

(単位：円)

		科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
教育活動収入の部	事業活動収入の部	受取利息・配当金	280,358,204	315,973,390	394,300,410	453,669,532	450,551,846
		第3号基本金引当特定資産運用収入	82,441,690	106,708,436	160,149,043	201,167,427	206,152,029
		その他の受取利息・配当金	197,916,514	209,264,954	234,151,367	252,502,105	244,399,817
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	280,358,204	315,973,390	394,300,410	453,669,532	450,551,846
		教育活動外収入の部	280,358,204	315,973,390	394,300,410	453,669,532	450,551,846
教育活動支出の部	事業活動支出の部	科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
		借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外支出の部	0	0	0	0	0		
教育活動外収支差額			280,358,204	315,973,390	394,300,410	453,669,532	450,551,846
経常収支差額			633,607,124	396,115,153	△ 114,802,529	527,562,960	197,929,285
特別収支	事業活動収入の部	科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
		資産売却差額	193,662,245	2,099,055,352	2,790,000	2,973,400	4,774,170
		施設売却差額	0	2,007,580,021	0	0	0
		有価証券売却差額	193,662,245	91,475,331	2,790,000	2,973,400	4,774,170
		その他の特別収入	77,064,568	30,858,917	22,005,364	250,226,593	152,644,819
		施設設備寄付金	12,973,172	0	3,368,000	230,952,955	71,985,801
		現物寄付	16,688,396	22,833,917	18,637,364	19,273,638	42,707,018
		施設設備補助金	47,403,000	5,775,000	71,585,000	0	37,952,000
		過年度修正額	0	2,250,000	0	0	0
		特別収入計	270,726,813	2,129,914,269	24,795,364	253,199,993	157,418,989
	事業活動支出の部	科目	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
		資産処分差額	73,990,514	104,022,523	349,517,637	182,424,402	202,449,877
		施設処分差額	40,852,595	18,148,700	258,655,877	4,632,098	45,262,355
		有価証券処分差額	1,145,000	35,246,686	37,787,260	115,498,323	17,068,576
		その他の資産処分差額	31,992,919	50,627,137	53,074,500	62,293,981	140,118,946
		その他の特別支出	0	0	54,156,678	3,501,679	0
		過年度修正額	0	0	54,156,678	3,501,679	0
		特別支出計	73,990,514	104,022,523	403,674,315	185,926,081	202,449,877
特別収支差額	196,736,299	2,025,891,746	△ 307,293,951	67,273,912	△ 45,030,888		
基本金組入前当年度収支差額			830,343,423	2,422,006,899	△ 422,096,480	594,836,872	152,898,397
基本金組入額合計			△ 1,568,377,202	△ 1,545,244,149	△ 1,006,755,211	△ 6,611,179,178	△ 2,225,731,954
当年度収支差額			△ 738,033,779	876,762,750	△ 1,428,851,691	△ 6,016,342,306	△ 2,072,833,557
前年度繰越収支差額			△ 11,040,747,091	△ 11,917,509,841	△ 11,574,505,024	△ 5,575,751,798	△ 3,502,918,241
基本金取崩額			51,562,152	0	1,085,846,874	17,589,080	0
翌年度繰越収支差額			△ 11,727,218,718	△ 11,040,747,091	△ 11,917,509,841	△ 11,574,505,024	△ 5,575,751,798

(参考)

事業活動収入計	15,085,901,991	16,264,989,723	13,982,963,477	13,451,125,863	12,850,703,039
事業活動支出計	14,255,558,568	13,842,982,824	14,405,059,957	12,856,288,991	12,697,804,642

財務の概要

(2) 財務比率の経年比較

(単位：%)

比率名	算式	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
人件費比率	人件費 ----- 経常収入	45.0	47.1	46.7	50.3	51.2
人件費依存率	人件費 ----- 学生生徒等納付金	58.3	60.5	58.6	61.6	61.8
教育研究経費比率	教育研究経費 ----- 経常収入	43.9	42.8	48.5	39.6	40.0
管理経費比率	管理経費 ----- 経常収入	6.8	7.3	5.6	6.1	7.3
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 ----- 事業活動収入	5.5	14.9	▲ 3.0	4.4	1.2
基本金組入後収支比率	事業活動支出 ----- 事業活動収入-基本金組入額	105.1	94.0	111.0	188.0	119.5
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 ----- 経常収入	77.3	77.8	79.7	81.7	82.8
寄付金比率	寄付金 ----- 事業活動収入	1.5	0.9	1.0	2.1	1.0
補助金比率	補助金 ----- 事業活動収入	14.4	12.1	12.4	9.4	9.2
基本金組入率	基本金組入額 ----- 事業活動収入	10.4	9.5	7.2	49.1	17.3
減価償却額比率	減価償却額 ----- 経常支出	18.4	19.9	20.0	19.1	18.8
経常収支差額比率	経常収支差額 ----- 経常収入	4.3	2.8	▲ 0.8	4.0	1.6
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 ----- 教育活動収入計	2.4	0.6	▲ 3.8	0.6	▲ 2.1

4. その他

(1) 有価証券の状況

①総括表

(単位：円)

	当年度（令和5年3月31日）		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	9,360,225,595	9,486,107,123	125,881,528
（うち満期保有目的の債券）	(9,159,150,756)	(9,233,052,323)	(73,901,567)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	33,675,802,819	32,828,972,468	△ 846,830,351
（うち満期保有目的の債券）	(31,493,728,130)	(30,849,958,862)	(△ 643,769,268)
合計	43,036,028,414	42,315,079,591	△ 720,948,823
（うち満期保有目的の債券）	(40,652,878,886)	(40,083,011,185)	(△ 569,867,701)
時価のない有価証券	70,000,000		
有価証券合計	43,106,028,414		

②明細表

(単位：円)

種類	当年度（令和5年3月31日）		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	40,652,878,886	40,083,011,185	△ 569,867,701
株式	700,254,785	692,740,192	△ 7,514,593
投資信託	1,682,894,743	1,539,328,214	△ 143,566,529
合計	43,036,028,414	42,315,079,591	△ 720,948,823
時価のない有価証券	70,000,000		
有価証券合計	43,106,028,414		

(2) 借入金の状況

借入金はない

(3) 学校債の状況

学校債は発行していない

(4) 寄付金の状況

①特別寄付金：138,284,885円

（内訳）

- ・ 特定の研究に対する寄付金 : 32,806,761円
- ・ 奨学金制度による学生支援充実のための寄付金 : 11,957,000円
- ・ 国際交流の推進のための寄付金 : 1,575,000円
- ・ 課外活動の充実のための寄付金 : 16,050,000円
- ・ 研究活動の推進のための寄付金 : 5,345,000円
- ・ 教育プログラム推進のための募金 : 3,778,000円
- ・ 就職活動の支援のための募金 : 1,835,000円
- ・ 個人の希望に基づく使途指定寄付 : 64,938,124円

②一般寄付金：6,863,019円

③現物寄付 : 72,021,046円

財務の概要

(5) 補助金の状況

①国庫補助金：2,179,717,351 円

・経常費補助金	：	1,334,368,000 円
・文化芸術振興費補助金	：	8,699,009 円
・授業料等減免費交付金	：	788,072,200 円
・新型コロナウイルス感染症対策助成金	：	875,142 円
・労働異動支援助成金	：	300,000 円
・私立大学施設整備費補助金	：	47,403,000 円

②地方公共団体補助金：1,166,622 円

(6) 収益事業の状況

収益事業は行っていない

(7) 関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

該当する取引は無い

イ) 出資会社

名称		株式会社 九産大サービスセンター			
事業内容		スイミングスクールの経営、建築物の清掃、損害保険代理店業務 他			
資本金		10,000,000円 10,000株			
学校法人の出資状況		10,000,000円 10,000株 総株式に占める割合 100%			
出資の状況		昭和55年 3月31日 2,000,000円 2,000株 昭和55年10月30日 6,000,000円 6,000株 昭和55年11月29日 2,000,000円 2,000株			
(単位：円)					
当期中に学校法人が受け入れた配当及び寄附の金額並びに学校法人との資金、取引等の状況	当該会社からの受入額	賃貸料 施設設備利用料他 寄付金	25,546,950 129,650 10,000,000		
	当該会社への支払額			衛生費 他	99,145,092
(単位：円)					
		期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高
	当該会社への出資金等	10,000,000	0	0	10,000,000
	当該会社への未払金	13,097,067	13,097,067	13,431,963	13,431,963
	当該会社からの未収入金	2,287,450	2,287,450	2,287,450	2,287,450
保証債務		該当無し			

名称		株式会社 サンユーフーズ			
事業内容		食料品及び飲料品の加工販売並びに給食の受託業務、飲料店の経営業務 他			
資本金		60,000,000円 120,000株			
学校法人の出資状況		60,000,000円 120,000株 総株式に占める割合 100%			
出資の状況		昭和57年9月27日			
当期中に学校法人が受け入れた配当及び寄附の金額並びに学校法人との資金、取引等の状況		昭和57年 9月27日 2,700,000円 5,400株 平成 6年10月31日 300,000円 600株 平成 7年 6月20日 7,000,000円 14,000株 令和 2年 7月31日 50,000,000円 100,000株 (単位：円)			
当期中に学校法人が受け入れた配当及び寄附の金額並びに学校法人との資金、取引等の状況	当該会社からの受入額	賃貸料 施設設備利用料他	2,784,111 69,650		
	当該会社への支払額			行事費 他	34,475,080
(単位：円)					
		期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高
	当該会社への出資金等	60,000,000	0	0	60,000,000
	当該会社への未払金	509,744	509,744	515,638	515,638
	当該会社からの未収入金	0	0	0	0
保証債務		該当無し			

(8) 学校法人間財務取引

学校法人間の財務取引は無い

5. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

財務状況を分析するための指標の1つとして財務比率があり、本学園の各計算書関係比率は前出のとおりである。

①事業活動収支関係比率について

令和4年度の本学園と令和3年度全国平均値（医歯系を除く）を比較すると、人件費比率45.0%（全国平均値51.3%）、人件費依存率58.3%（69.7%）、教育研究経費比率43.9%（34.3%）、管理経費比率6.8%（8.3%）などが良好な数値を示している。

教育活動収支差額比率は、昨年度0.6%から2.4%と1.8ポイントのプラス、経常収支差額比率は、昨年度2.8%から4.3%と1.5ポイントのプラスとなっているものの、全国平均と比べるとまだ劣っている。

中期財務計画では、学生から納付される学費を確保し、その他の収入の増加策により、各比率の向上に努めていくとともに、学生の教育へ更なる還元を行う。

②貸借対象表関係比率について

令和4年度の比率は、令和2年度決算では全国平均から劣っていた項目について改善傾向にあり、ほぼ全国平均並みとなっている。この良好な比率の裏には、充実した設備投資、潤沢な運用資金の確保、無借金での経営といった、安定した財務基盤が築かれていることがある。

前出の中期財務計画では、積立率を100%とすることも目標に掲げており、長期にわたり更なる安定した財務基盤を構築していく。

「1年間の取組み2022」動画は
こちらからご覧ください。



KYUSHU
SANGYO
UNIVERSITY

九州産業大学



九州産業大学造形短期大学部
ZOKEI KYUSHU SANGYO UNIVERSITY, ZOKEI JUNIOR COLLEGE OF ART AND DESIGN

【発行】 学校法人中村産業学園 総合企画部企画課

〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台二丁目3-1

TEL (092) 673-5505 | FAX (092) 673-5025 | E-mail kikaku@ml.kyusan-u.ac.jp

KSU

GLOBAL LEADERSHIP PROGRAM

Sign up to GLP:

To cross borders and unleash your potential !



九州産業大学 グローバル・リーダーシップ・プログラム



KSU GLPとは？

九州産業大学創立60周年記念事業の一環として、企業や社会のグローバル化に対応できる幅広い視野を持ち、国際社会の最前線で活躍する学生の育成を目的として、2020年度からスタートした全学部全学生のための特別教育プログラムです。

GLP修了までのフロー

()内:単位数 ※:必修科目 △:選択科目

GLP推奨科目(KSU基盤教育科目)			GLP科目		
1年次～2年次前学期			2年次後学期	3年次	4年次前学期
実用数学(計算力)(2)	実用数学(活用力)(2)	キャリア形成基礎論 (2)	※GLPI (グローバルスキル)(2)	△GLPIIIA (Stanford e-KyuSan-U) (2)	※GLPVII (成果発表)(2)
キャリア開発論 (2)	実践クロス講座 (2)	実践クロス演習 (2)	※GLPII (グローバル課題)(2)	△GLPIII B (グローバル人材) (2)	
実践力育成演習 (2)	課題解決演習 (2)	インタラクティブディスカッション(2)		△GLPIV (海外留学語学研修) (4)	
実践コラボ講座 (2)	実践コラボ演習 (2)	日本の歴史 (2)		△GLPV (海外展開企業実習) (4)	
世界の歴史 (2)	哲学の世界 (2)	文学の世界 (2)			
文化人類学 (2)	美学・美術史 (2)	芸術の世界 (2)			
日本国憲法 (2)	現代の政治 (2)	人権・同和問題 (2)			
ジェンダーと社会 (2)	くらしの中の数学 (2)	Four Skills I (2)			
Four Skills II (2)					
幅広い知識と実践的な英語力を身につける ※2年次前学期終了後、選考試験を実施			国際的教養と知識を身につけ グローバル化した世界が抱える 様々な課題について探求する	国際社会で協働するための 行動力・実践力を身につける	「GLPを通じた自身の成長とグローバル 人材としての展望」を発表 GLP認定証交付
KSU基盤教育科目から12単位以上			上記4単位	上記4科目から4単位	上記4単位
合計24単位以上					

『GLPIIIA (Stanford e-KyuSan-U)』GLPのオススメプログラム

グローバルな視点を持ち、世界で活躍できる人材を育成するため、スタンフォード大学SPICE (Stanford Program on International and Cross-Cultural Education) が展開している異文化理解教育プログラムを、本学向けにGLP科目に組み込み、「Stanford e-KyuSan-U」として開講します。スタンフォード大学SPICE担当講師やゲストスピーカーが、

多様性 (Diversity) 持続可能性 (Sustainability) 起業家精神 (Entrepreneurship)

という3つのテーマについて、英語でオンライン授業を実施します。

受講生の優秀者は、SPICEより認定修了証が授与されます。

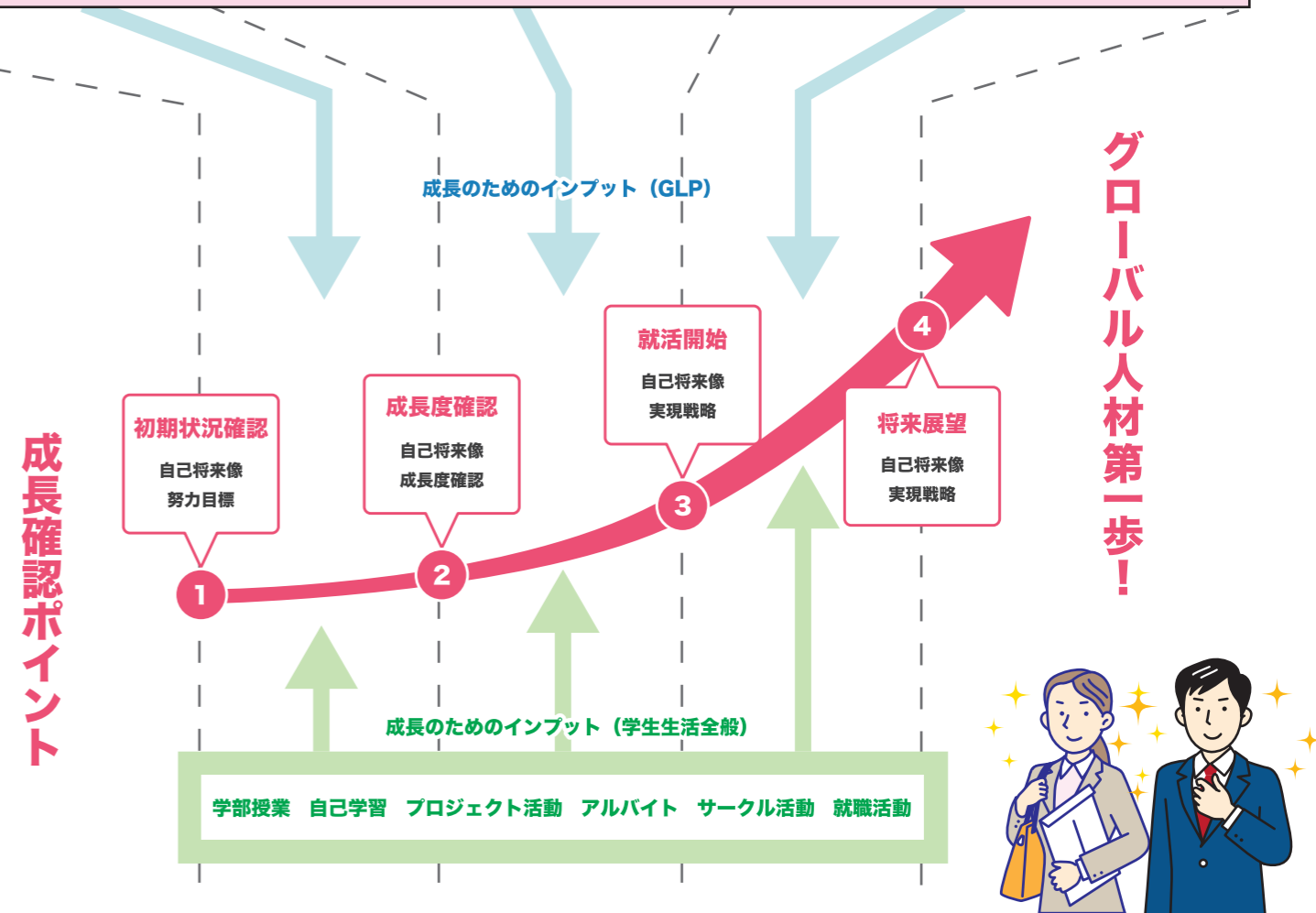
また、米国シリコンバレーで実施される**社会イノベーション短期研修(ESI)**への参加資格を得ることができます。



ESIとは...

アジア各国からの参加者と意見を共有しながら、最先端の社会イノベーションについて学びます。スタンフォード大学デザインスクール(STANFORD D.SCHOOL)が提唱する「デザイン思考」を軸に、デザイン思考の重要性や機能性を体感するワークショップに参加をしたり、社会における課題に取り組むNPOやゲストスピーカーの話を聞いたりし、自分自身がどのように社会に貢献するかを考える研修です。

MEMO

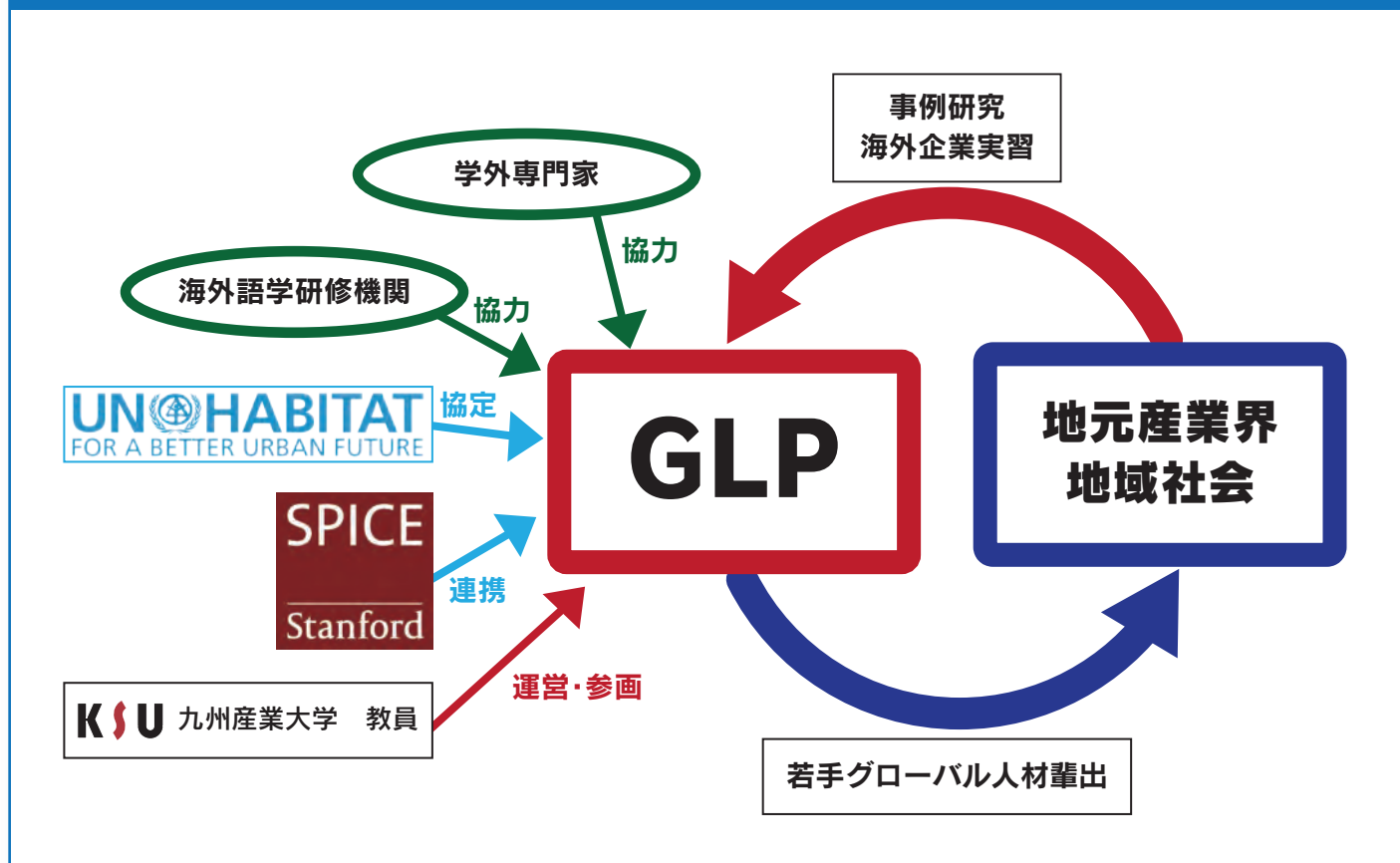


GLPのミッション

GLPが育成する若手グローバル人材

- ① グローバル課題に取り組み、これを通じて、地元産業界や地域社会、ひいては世界に貢献する**意欲**を持つ。
- ② グローバル人材に求められる基礎的な**知識**や**スキル**を習得し、それをさらに広げ深める。
- ③ グローバル課題に取り組む立場や方法は多様である事を理解し、これに携わる**自己の将来像**を描き、その実現に向けて努力する。

GLPのビジョン：学内外の協力、地元産業界・地域社会との連携



UN HABITAT:

国際連合人間居住計画 福岡本部(アジア太平洋担当)

SPICE STANFORD:

スタンフォード大学SPICE(Stanford Program on International and Cross-Cultural Education)



国際交流センター

〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1

TEL (092)673-5588

FAX (092)673-5611

KSU プロジェクト型教育

2022年度 学部間・学外との取り組み事例



《KSUプロジ

『KSUプロジェクト型教育』とは？

学びの舞台は、実社会の『現場』

地域や企業、行政と連携してプロジェクトを立ち上げ、取り組むことで

実践力・共創力・統率力をはじめ、様々な力を養います。

学部・学科の枠を越え、産学官連携による商品開発やプロモーション、技術開発、

イベント開催など、『**106のプロジェクト**』を展開しています。



エクト型教育》



共創力

地球規模でモノや情報をやり取りする時代。様々なコラボレーションを通して、異なる価値観をもつ人々と出会い、刺激し合い、互いの力を活かす共創力を身に付けます。



実践力

変化の連続で予測がつかない時代を生き抜くために必要なのは、「現場での実体験」です。現場の声を聞き、現場で動く。この体験を通して実践力を培います。

身に付く 主な力

統率力



統率力

あらゆる分野で「チーム」が注目されています。さまざまなメンバーで構成する「プロジェクトチーム」主体の活動で、目標を明確に示して仲間を結集し、成功に導く統率力を養います。

時代のニーズに応えられる社会人に

※プロジェクト型教育：学生の安全に配慮したうえで以下の要件を満たすものをプロジェクト型教育としています。

- ・学生が自ら動くプロジェクト
- ・学生の成長が期待出来るプロジェクト
- ・他学部、他部所や企業・自治体と連携している

卒業生インタビュー

今に活きている、プロジェクトから学んだこと

スズキ株式会社勤務

家具や家電など、人が手に触れるものをデザインする「プロダクトデザイナー」を目指して、芸術学部に入學。1年次から積極的にプロジェクトに参加する同級生に触発されて、2年次から製品のデザインが経験できる『LV (Light Weight Vehicle) プロジェクト』、『大川家具プロジェクト』、『テクノアートプロジェクト』の3つに参加しました。

『LVプロジェクト』では、理工学部と連携して、走行可能な一人乗り用のモビリティを製作。企画やデザインしたものは、コンペやプレゼンテーションもあり、製作側の思いに初めて触れる機会となりました。「普通の授業はデザインがメインなので、選ばれることはありません。でも、プロジェクトではその先がある。どうしたら選ばれるのか、製品化できるのかを考えるようになりました」。

『大川家具プロジェクト』でも、同じような経験をした那須さん。職人と考えた家具は高評価を受けましたが、工数や材料費などの観点から商品化に至らず、デザインの良さだけでは製品化できないことに気付かされます。

人と関わりながらデザインを磨き、形にすることに面白さを感じた那須さんは、「デジタルモデラー」として入社。デザイナーが描いたスケッチの意図をくみ取り、協議を重ねながら立体的なデータに仕上げる仕事に従事しています。「初対面の人と話すことは苦手だった私が、この仕事を選んだのもプロジェクトの経験があったから。幅広い学びは将来への視野を広げてくれるので、学生には浅くてもいいから広く学んでほしいですね」

芸術学部生活環境デザイン学科 2020年3月卒業
熊本県・人吉高等学校出身

那須将弥さん

学生時代に関わったProject

『LV (Light Weight Vehicle) プロジェクト』

理工学部と連携して一人乗りモビリティを製作。デザインからモデルの製作、実走行を行い、プロデュース展にてモノづくりの魅力を発信することを目指しました。

『テクノアートプロジェクト』

理工学部と二人三脚で音を可視化するスピーカーを製作。学内の発表会で最優秀賞を受賞し、韓国の大学でもプレゼンテーションをする機会を得ました。



一人よりみんなで製品化を目指したい
プロジェクトがその面白さに気づかせてくれた

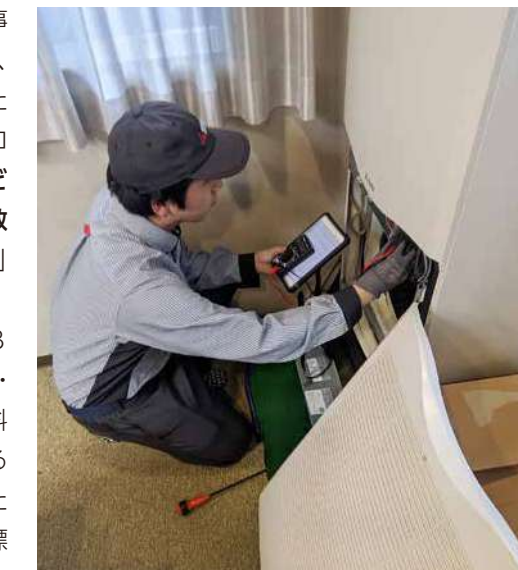
卒業生インタビュー

今に活きている、プロジェクトから学んだこと

三菱電機システムサービス株式会社勤務

店舗や学校など、中～大規模な施設の設備の工事に関する施工管理を担う三輪さん。限られた時間、予算、人員の中で、クライアントの要望を叶えるために計画を立て、実行する日々を「仕事も小さなプロジェクトの集合体。途中の経過を踏まえゴールにどう持っていくかという完遂力は、プロジェクト教育で培ったものがベースになっていると思います」と言葉を噛み締めます。

三輪さんが完遂力を磨いたプロジェクトとは、3年次に参加した小・中学生向けの科学教室の企画・運営。自身が小学生時代に科学教室に参加して理科の面白さを知ったこともあり、単にイベントをやることを目的とせず、人が来てくれること、参加した子どもたちに科学を好きになってもらうことを目標にしました。「子どもたちは、良くも悪くも素直なので、反応が正直です。講座をやるたびに改善を加え、より楽しい講座になるようステップアップしてきました」。熱意のこもったイベントは、毎回満員になるほど大盛況。三輪さんは「大きな自信を手にした」と話します。



と話します。

プロジェクトを通じてできた友人の存在は、学ぶ範囲が広い電気情報工学科の課題をこなす上でも支えになりました。「大学では、自分でコミュニティを求めていくことが大事。プロジェクトへの参加はいい友人に出会えるきっかけになりますし、他学部との連携プロジェクトなら、友人の範囲も広がります。学科で技術力、プロジェクトでコミュカを身につければ、就職後も楽しく仕事ができるのでぜひ頑張ってもらいたいですね」とエールを送ります。

工学部電気情報工学科 2020年3月卒業
福岡県・八幡高等学校出身

三輪 委弘 さん

学生時代に関わったProject

「プロジェクトデザイン管理」

小・中学生を対象とした科学工作教室の企画・運営を行います。身近なものを使って手軽に、楽しく、そして安全に工作できることをコンセプトに、理科で学ぶ電気や磁気に関する現象を体験し、電気に興味を持ってもらうことを目指しています。わかりやすく伝える力、チームで協働して実行する力が身に付きます。



プロジェクトで得た最後までやり遂げる力
それは、未来への自信と糧になる



卒業生インタビュー

今に活きている、プロジェクトから学んだこと

大和ハウス工業株式会社勤務

観光産業学科は1年次からゼミがスタート。教員や先輩たちとの距離や繋がりが強かったおかげで、学びに対して意欲的になれたという本告さん。観光学を専門にする千相哲教授に誘われ、新たに立ち上げられた「日韓観光振興プロジェクト」に参加しました。

3年次は韓国人旅行客の多い長崎県対馬市を舞台に、インバウンドによる光と課題を見つけるためのフィールドワークを敢行。4年次には、自分たちでプロジェクトのテーマを設定し、課題を解決するためのイベントを企画・立案。仲間とまとめた企画はコンテストで評価を受け、旅行会社の賛同を得て実行に移されました。「社会人になったら、待っているだけでは仕事はきません。自分で動いて、挫折と失敗を繰り返しながら前に進んでいくという主体的な活動を、学生時代に経験できたことは今の活力にもなっています」と、プロジェクトリーダーとしてゼ

ロから企画を立ち上げ、成功に導いた経験を財産だと振り返ります。

プロジェクトに加え、授業、アルバイト、部活と多方面に力を注ぎ、4年間で充実させた本告さんは「主体性を持って、夢中になって取り組むことで、初めて得られるものがある」と思います。言葉は悪いけど、大学生のうちに“馬鹿になってやってみる”ことをしてみてください」とアドバイスを送ります。

地域の課題解決に取り組んだ経験を活かし、勤務する大和ハウス工業株式会社でも「建物を建てて終わりではなく、その周辺環境を含めたまちづくりも目を向けていきたいと思っています」と意欲的です。

商学部観光産業学科 2020年3月卒業
佐賀県・佐賀清和高等学校出身

本告 健人さん

学生時代に関わったProject

「日韓観光振興プロジェクト」

観光事業にさまざまな問題点を抱えていた長崎県対馬市で、島民と外国人観光客が Win-Win の関係を構築するための施策を検討。「持続可能な観光振興」をテーマに島民、観光事業者、観光客にアンケート調査を実施し、課題を分析した後に、改善策になるようなイベントを企画・実施しました。



プロジェクトの内容を自分たちで企画
主体的に動けば、学びや経験はもっと深くなる



2022年度 取り組み事例

COLLECTION OF PROJECT CASES

3ページからは、2022年度に行われたプロジェクトをご紹介します。
様々なプロジェクトから、自分の「やってみたい」を探してみましょう。

ページの見方

系統名

- 芸術系
- 理工系
- 文系
- 基礎教育センター

の4系統に分類しています。
自分の興味がある系統から、
事例を探することができます。

ジャンル名

プロジェクトの内容によっ
て、[教育] [研究] [社会貢献]
の3つのジャンルに分類して
います。

連携した企業など

連携先の企業や行政、団体、
学部などを記載しています。

SDGsアイコン

プロジェクト内容が、持続可
能な開発目標 (SDGs) の17
の目標のうち、どれに当ては
まるのかを表示しています。
⇒SDGsとは? (次ページを参照)

期待できるスキルアップ

そのプロジェクトに参加する
ことで、スキルアップが期待
できる能力のリストです。

CLOSE-UP

No. **教育** [担当] 井上博樹

**スイーツショップの商品企画及び
プロモーション企画デザイン制作**

学 外 連携プロジェクト (造形短期大学部 × 葉秀 桜)



①商品化されたスイーツ「いちはる」 ②現地視察の様子 ③ミーティングの様子

学生のアイデアをもとにした新商品の企画開発 市場のニーズに対応した企画デザインを実践的に学ぶ

概要

100年の歴史を持つスイーツショップ葉秀 桜 (カシュウサクラ) と九州産業大学造形短期大学部のコラボレーションとして、学生のアイデアをもとにした新商品の企画開発を行っています。日頃大学で学んでいるデザインの知識、技能を生かしながら、ターゲットを想定した新商品を企画し、商品のネーミング、味、形状をはじめ、パッケージやプロモーションツールなどのデザインを考案していきます。スイーツについての市場調査では天神の百貨店やスイーツショップに足を運び、流行りのスイーツの種類、そしてパッケージデザインのトレンドについても研究を進めました。このプロジェクトに挑むことで市場のニーズに対応した企画デザインを実践的に学ぶことができます。

参加者の声

プロジェクトに参加したことで、グループで協力して案を出し合い1つの企画を作ることの難しさを実感しました。ですが全員で話し合い、試行錯誤を繰り返していくうちに、よりお店の方の思いやお客様に気に入ってもらえるにはどうすればいいのか深く考え、発表では自信を持って企画を伝えることができました。そして実際に自分たちで考えた商品が完成し販売された時はとても嬉しかったです。

宮副 咲葉
造形短期大学部
造形芸術学科・2年
グラフィックデザイン系
佐賀県・有田工業高等学校

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション力・チームワーク
- 商品企画力
- プレゼンテーション力
- リサーチ力

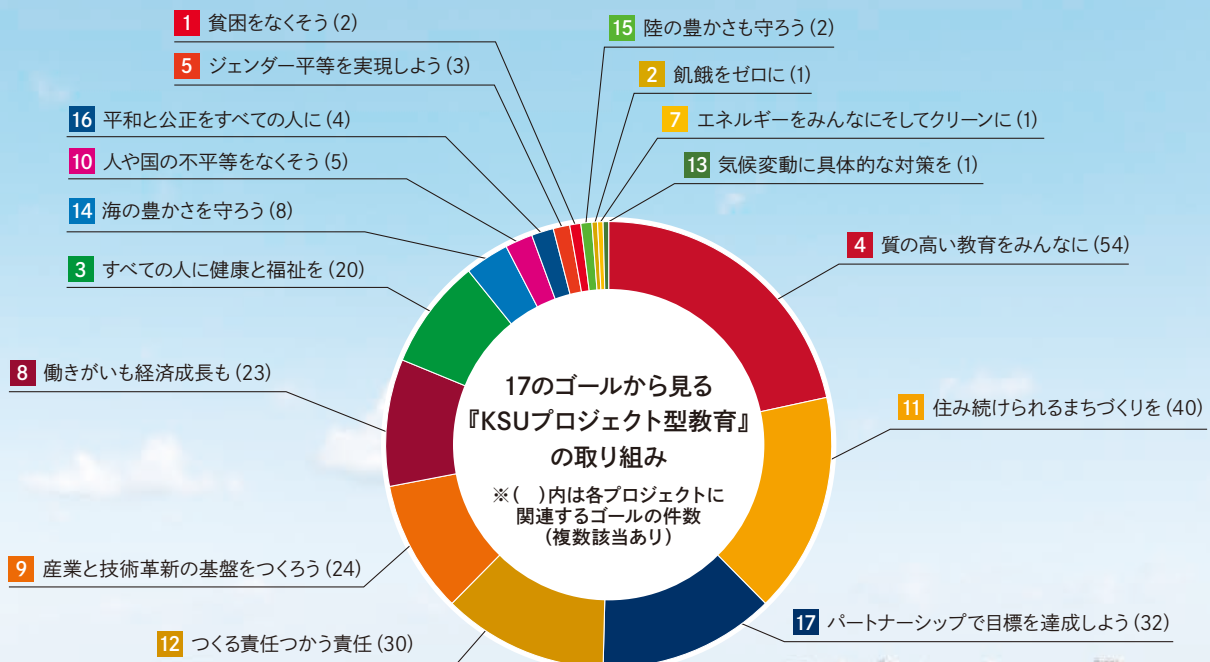
KSUプロジェクト型教育 で実践するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標(SDGs)とは？

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。



芸術系

2022年度 KSUプロジェクト型教育 学部間・学外との取り組み事例

No.	タイトル	ページ	No.	タイトル	ページ
1	 スイーツショップの商品 企画及びプロモーション 企画デザイン制作	4	22	SEA you again プロジェクト	12
2	 服飾に関わる手づくり 支援プロジェクト	5	23	支援を必要とする児童のアート活動	
3	「あしや砂像展 2022」における 砂像制作プロジェクト	6	24	シューズデザインプロジェクト	13
4	アニメーション・プロジェクト		25	白黒写真カラー化プロジェクト "monokara."	
5	移動販売車デザイン提案プロジェクト		26	新社屋壁面装飾	
6	今宿人形プロモーションプロジェクト	7	27	須恵町制施行記念駅伝競走大会 アーカイブ活動	14
7	海の学び舎プロジェクト		28	卒業記念品制作プロジェクト	
8	えきマチ1丁目 香椎 空間演出プロジェクト		29	太宰府天満宮の悠久の歴史をデザインで紡ぐ	
9	えきマチ1丁目香椎ワークショッププロジェクト	8	30	たべものレスキュー	15
10	NPO 法人ちくご出会いサポートセンター ジュノール壁画プロジェクト		31	地域活性化を目的とした 映像コンテンツ制作プロジェクト	
11	カーデザインプロジェクト		32	杖立温泉復興プロジェクト 新土産「恋のぼりラムネ」開発	
12	絵画表現プロジェクト	9	33	博多人形リデザインプロジェクト	16
13	学外アートプロジェクト 「須恵町アートプロジェクト」		34	FUKUOKA ART PROJECT	
14	学校共生プロジェクト		35	古小烏公園記録映像制作プロジェクト	
15	九産大プロデュース 2023	10	36	マイング博多クリスマスディスプレイ プロジェクト	17
16	グラフィックアートプロジェクト (芸術学部×版画学会)		37	むなかたマルシェプロジェクト	
17	高速道路美化事業 「須恵町新原校区トンネル絵プロジェクト」		38	メディカルコミュニティモール須恵 壁画プロジェクト	
18	来しかたの香椎を映やすお茶の会	11	39	メンタルサポート・プロジェクト	18
19	子ども食堂におけるマンガ配布プロジェクト		40	八女福島燈籠人形背景幕制作	
20	コバコバル車体絵プロジェクト		41	ユナイテッドハーバー壁画プロジェクト	
21	CKK シンボルマークデザインプロジェクト	12	42	ラムネの涙プロジェクト2022 「驚きのラムネ展」開催	19
			43	ランドセル+αプロジェクト	

No.

教育

[担当] 井上博樹



1

スイーツショップの商品企画及び プロモーション企画デザイン制作

学 外
連携プロジェクト

造形短期大学部 × 菓秀 桜



①商品化されたスイーツ「いろいろちる」 ②現地視察の様子 ③ミーティングの様子

学生のアイデアをもとにした新商品の企画開発 市場のニーズに対応した企画デザインを実践的に学ぶ

概要

100年の歴史を持つスイーツショップ菓秀 桜(カシュウサクラ)と九州産業大学造形短期大学部のコラボレーションとして、学生のアイデアをもとにした新商品の企画開発を行っています。日頃大学で学んでいるデザインの知識、技能を生かしながら、ターゲットを想定した新商品を企画し、商品のネーミング、味、形状をはじめ、パッケージやプロモーション

ツールなどのデザインを考案していきます。スイーツについての市場調査では天神の百貨店やスイーツショップに足を運び、流行りのスイーツの種類、そしてパッケージデザインのトレンドについても研究を進めました。このプロジェクトに挑むことで市場のニーズに対応した企画デザインを実践的に学ぶことができます。

参加者の声

プロジェクトに参加したことで、グループで協力して案を出し合い1つの企画を作ることの難しさを実感しました。ですが全員で話し合い、試行錯誤を繰り返していくうちに、よりお店の方の思いやお客様に気に入ってもらえるにはどうすればいいのか深く考え、発表では自信を持って企画を伝えることができました。そして実際に自分たちで考えた商品が完成し販売された時はとても嬉しかったです。

宮副 咲葉

造形短期大学部
造形芸術学科・2年
グラフィックデザイン系
佐賀県・有田工業高等学校



期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション力・チームワーク
- 商品企画力
- プレゼンテーション力
- リサーチ力

No.

社会貢献

[担当] 加来卯子

2

服飾に関わる手づくり支援プロジェクト

12 つくる責任
つかう責任4 質の高い教育を
みんなに学 外
連携プロジェクト

芸術学部 × クロバー(株) × (株)ナカノテツ × NPO 法人里山を考える会



①「ネットアウト」ブース ②ワークショップのポスターとメニュー ③参加者の皆さんと一緒に手づくり

手づくり初心者も参加できるネットアウトイベントを実施
制作スキルの習得やコミュニケーションの取り方、対応の仕方を学びます

概要

本プロジェクトでは、「手づくり市場in北九州」(西日本総合展示場・北九州市小倉北区)の一画で、子どもから大人まで幅広い世代層に向けて、気軽に参加し楽しめるワークショップ形式の活動を進めています。メインテーマ“手づくりで心豊かな暮らしを”のもと、九州産業大学のブースでは手づくり初心者も参加できるネットアウトイベントを実施。色とりどりの柔らかな毛糸を使って、学生が

提案したユニークで可愛いマスコットやブローチなどの小物づくりを市民の皆さんに体験していただきました。制作をとおして会話がはずみ、出来上がった作品を見て共に喜び、笑顔があふれるプロジェクトとなりました。活動では、制作に関するスキルを習得するとともに、コミュニケーションの取り方、対応の仕方なども学びます。

参加者の声

ポンポンメーカーを使用し、毛糸で飾り物(動物や食べ物)をつくるワークショップを行いました。毛糸の巻き方やポンポンのカットの仕方を工夫すると様々な形状が出来たので面白かったです。デザインから準備、本番まで、全ての作業にとことん参加でき貴重な経験を積めたと思います。子供さんも楽しみながら上手く作れたので、糸を使った手作りに挑戦したいという方にオススメです。

内藤 柊希

芸術学部
生活環境デザイン学科・1年
広島県・千代田高等学校



期待できる学生のスキルアップ

- 課題解決力
- 実践力
- 創造力
- コミュニケーション力
- 忍耐力

芸術系

理工系

文系

基礎教育センター

No. 3

教育

[担当] 小田部黄太/木森圭一郎

「あしや砂像展 2022」における砂像制作プロジェクト

学 外
連携プロジェクト

造形短期大学部 × 遠賀郡芦屋町 × あしや砂像連盟



概要

芦屋町で行われた「あしや砂像展2022」に学生が参加し、砂像の制作を行いました。今年は5班に分かれ高さ約2mの砂像を5基制作しました。事前にテーマに沿って計画を立て、下絵からエスキースの制作を行ったうえで、現場で手分けして2日間で制作を行いました。学生にとっては大きな立体造形を制作することができ、協働や役割分担などを経験する大変により機会となりました。最後にレポートなどをまとめ、「学外アートプロジェクト」として単位の認定を行いました。

期待できる学生のスキルアップ

- 事前に計画を立てる「計画性」を持つ
- 準備から制作、後片付けまで行う「役割分担」を行う
- 大きな立体物を制作する「立体造形力」を育む
- 街おこしのイベントに参加することで「社会性」を持つ
- 海と砂浜に触れ、「自然環境」を大切にすることを学ぶ

No. 4

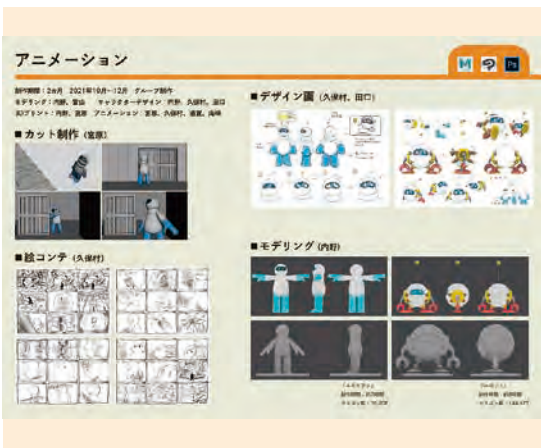
教育

[担当] 真島猛/趙瑞

アニメーション・プロジェクト

学 外
連携プロジェクト

芸術学部 × QTnet challenge parks



概要

このプロジェクトでは、オリジナルキャラクターデザインからアニメーション制作を行ない、新たなアニメーションの表現を研究することを目的としています。参加メンバーは、ビジュアルデザイン学科と芸術表現学科による共同制作で、分野の異なるスキルの交流によるチームワークと責任感と行動力、社会で必要な実践力を習得します。外部企業と連携した作品の展示は、多くの人に発信します。制作実績はポートフォリオとし就活に活用し、社会人として通用するスキルを学びます。

期待できる学生のスキルアップ

- キャラクターデザイン
- アニメーション制作
- コミュニケーション力
- チームワーク
- ポートフォリオ制作

No. 5

教育

[担当] 川本恒一 / 森下慎也

移動販売車デザイン提案プロジェクト

学 外
連携プロジェクト

造形短期大学部 × (株)誠矢製作所



概要

このプロジェクトは、アパレル販売企業が移動販売車制作会社に依頼され、学生がそのデザインを担当したプロジェクトです。

相談内容

- ・アパレル会社の内装、外装デザインのイメージ図の制作
 - ・車の機能性や車検要件などは考慮せずに自由に考える
- の2つの要件を軸に、イメージを膨らませてコンセプトシートを制作し、プレゼンしました。最終的に1つが選ばれ、実際に販売車が制作され納品されました。

期待できる学生のスキルアップ

- デザイン提案の実践力の育成
- クライアントとのコミュニケーション能力の向上
- コンセプト資料制作能力の向上

No. 6

社会貢献

[担当] 青木幹太

今宿人形プロモーションプロジェクト

学外
連携プロジェクト

芸術学部 × 今宿人形工房(博多伝統職の会所属) × 福岡市



概要

今宿人形は、博多人形の母体となった民俗土人形で、伝統的な生活文化や伝承文化、信仰など人々の暮らしに結びついたものが多く、代表的なものに火災・盗難よけの「猿面」や「おたふく面」などがあります。このプロジェクトでは、今宿人形をもっと知ってもらうことを目的に、今宿人形師の方と50名の学生が連携して、50アイテムの愉快的猿面を制作しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 伝統工芸(今宿人形)に関する理解
- コンセプト発想力
- 表現力

No. 7

教育

[担当] 森下慎也

海の学び舎プロジェクト

学外
連携プロジェクト

造形短期大学部 × 山王ひなた美術教室



概要

このプロジェクトは、山王ひなた美術教室が主催する日本財団海の学び舎プロジェクトの一環で取り組んだ、工作ワークショッププロジェクトです。

相談内容

- ・小学生を対象とした海の学びと工作を組み合わせた楽しいワークショップの実施
- ・作って持って帰れる作品の制作

の二つの要件を軸に、学生と教員が一緒になってプログラムを準備しました。今回は、スマートフォンを使った動画制作です。魚の人形を制作し、撮影台でアニメーションを撮り、観賞用のボックスで鑑賞しました。

期待できる学生のスキルアップ

- ワorkshopプログラム提案の実践力の育成
- クライアントとのコミュニケーション能力の向上
- 現場対応力の向上

No. 8

教育

[担当] 栗田融

えきマチ1丁目 香椎
空間演出プロジェクト学外
連携プロジェクト

芸術学部 × JR九州ビルマネジメント(株) × JR九州エージェンシー(株) × (株)ジーエータップ



概要

JR香椎駅ビル「えきマチ1丁目香椎」の館内を芸術学部の学生がディスプレイし「季節」を演出するプロジェクト。計画提案を行ったうえで、試作検討・制作・設営・撤去までを学生自身が行います。2022年度は「春」を担当し、コロナ禍で行動を抑制してきた人々に対し、今年の春こそ沢山の新たな出会いに期待し、心躍らせる春を感じる演出を計画しました。春の花を身に纏った妖精たちが各々自由に踊っている様子で、これからのワクワクや楽しさを表現しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 他者との対話力、他者への表現・伝達力
- グループ作業による協調性、自主性
- スケジュール管理能力

No. 9

教育

[担当] 辻嶋寿憲/天羽慎之介

えきマチ1丁目香椎 ワークショッププロジェクト



学外
連携プロジェクト

造形短期大学部 × (株)TAP



概要

JR香椎駅に隣接する「えきマチ1丁目香椎」にて、周辺地域の活性化を目的としたワークショップの開発と館内装飾用モビールの制作をおこないました。事前のグループワークで企画の立案と準備をおこない、並行して館内装飾の作成と設置に取り組みました。当日のワークショップでは約50名の参加者へ作業手順などをファシリテート(ものづくりの支援)して、ものづくりの楽しさを体験して頂くことができました。

期待できる学生のスキルアップ

- グループワークにより多角的な視点を得たこと
- デザインと社会との接点を体験的に学んだこと
- 体験から得た学びを今後の創作活動にフィードバックすることができる

No. 10

社会貢献

[担当] 黄禧晶

NPO 法人ちくご出会い サポートセンタージュニール 壁画プロジェクト



学外
連携プロジェクト

造形短期大学部 × 筑邦銀行



概要

当センターは2021年に久留米市日吉町筑邦銀行2階に移転しましたが、独身男女の出会いのサポート場としては殺風景のままであったため、本学が協力し、センター内の壁3カ所や2階の廊下の全面的塗り替えを行いました。センター内は出会い、信頼、愛をイメージする花言葉の「花」、共に歩く「道」、「若いカップル」をテーマとする絵をセンター内に制作し、廊下は「緑」をイメージしたデザインで仕上げました。その結果、明るくてほのぼのとした空間として変身しました。

期待できる学生のスキルアップ

- ニーズに沿ったデザインの考案力
- 大画面制作による画力アップ
- グループ制作によるコミュニケーション力アップ
- 地域貢献

No. 11

教育

[担当] 青木幹太

カーデザインプロジェクト

学外
連携プロジェクト

芸術学部 × 国内自動車メーカー



概要

生活環境デザイン学科プロダクトデザイン専攻では、国内自動車メーカーの協力を得て、学内で自動車デザインの教育、人材育成に力を入れています。2022年度は30名の学生がこのプロジェクトに参加し、エクステリアデザインやクレイモデリング、CGモデリング、自動車のカラーデザインやインテリアデザインの実践的な体験・学習に取り組みました。近年では毎年、3~5名の学生が自動車メーカーのデザイン部門に就職し、自動車開発の一員として活動しています。

期待できる学生のスキルアップ

- 自動車に関する基礎知識の習得
- スケッチ表現力
- モデリング力
- CGによる造形力
- カラーやインテリアデザインの基礎知識

No. 12

教育

絵画表現プロジェクト

[担当] 南聡 / PLATT,Robert / 渡抜亮 / 国本泰英

学 外
連携プロジェクト

芸術学部 × 九州産業大学美術館 アートギャラリー × UNPEL GALLERY



概要

学生が自ら展示運営(展示企画の立案、会場の手配、展示計画など)を考へて、絵画専攻主催の展覧会を開催しました。2022年5月21日(土)～6月5日(日) 第11回大学日本画展 <九州産業大学 日本画在学生展> 企画 / UNPEL GALLERY 協賛 / あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 東京で開催 2022年12月10日(土)～18日(日)九州産業大学日本画研究室展 アートギャラリーと九産大美術館において開催 2022年11月29日(火)-12月1日(木)「成果展」芸術学部アートギャラリー

期待できる学生のスキルアップ

- 実践力
- 協調性
- 調整力
- コミュニケーション力
- 企画力

No. 13

教育

学外アートプロジェクト
「須恵町アートプロジェクト」

[担当] 黄禧晶

学 外
連携プロジェクト

造形短期大学部 × 須恵町役場 × 町立美術センター久我記念館



概要

糟屋郡須恵町と連携して行うプロジェクトが5年目を迎えました。昨年制作した久我記念館下の階段絵に引き続き、本年度はその階段下半分や巨大な擁護壁、久我記念館に向かう道の地面に須恵町とちなんだ内容の大きな絵を制作しました。事前学習を含め、デザイン案を提案してもらったり、グループ毎にそれぞれ分担パートを決めて話し合いながら二日間の工程で見事に完成しています。須恵町の映えるスポットがまた新たに誕生しました。

期待できる学生のスキルアップ

- グループ活動によるコミュニケーション能力アップ
- アートと密接したまちづくりへの貢献
- デザインの提案力
- 大画面制作による描画力アップ

No. 14

教育

学校共生プロジェクト

[担当] 森下慎也

学 外
連携プロジェクト

造形短期大学部 × 山王ひなた美術教室



概要

このプロジェクトは、山王ひなた美術教室が主催する日本財団海の学び舎プロジェクトの一環で取り組んだ、長崎松浦市の廃校を舞台に取り組んだワークショッププロジェクトです。

相談内容

- 小学生を対象とした海の学びと工作を組み合わせた楽しいワークショップの実施
- 8月～12月のうち3回実施

の二つの要件を軸に、学生と教員が一緒になってプログラムを準備しました。廃棄プラスチックを使った工作、段ボールを使ったライトの工作、地域の竹を使ったドームの制作など実施しました。

期待できる学生のスキルアップ

- ワークショッププログラム提案の実践力の育成
- クライアントとのコミュニケーション能力の向上
- 現場対応力の向上

No. **教育** [担当] 青木幹太/井上友子/星野浩司/佐藤慈/佐藤昭則/榊泰輔/牛見宣博/下川俊彦/村上剛司/貞方敦雄/吉村祐樹/船岡健太/飯田真生

15 九産大プロデュース 2023

学 外
連携プロジェクト

芸術学部 × 理工学部 × 建築都市工学部 × 商学部 × 福岡県工業技術センター × 協同組合福岡・大川家具工業会 など

4 質の高い教育を
めざすに

9 産学と連携する
教育を推進する

12 つなぐ教育
つなぐ未来



概要

九産大プロデュースはその年、本学内で実施された産学連携や学部連携プロジェクトの活動成果を展示・公開し、多くの皆様に観ていただく展示会です。本年度は2023年2月23日(木)から26日(日)の4日間、天神のソラリアプラザビル1階のイベントスペース ゼファで開催しました。会場では21プロジェクト、約200名の学生が考えた商品デザインや映像作品などが展示され、本学が推進するプロジェクト型教育の特徴や魅力が発信されました。

期待できる学生のスキルアップ

- 自主性、自律意識
- 計画立案とその実行力
- 課題解決力
- コミュニケーション力
- 展示会運営

No. **教育** [担当] 三枝孝司/西川洋一郎/石橋佑一郎/田島恵美

16 グラフィックアートプロジェクト (芸術学部 × 版画学会)

学 外
連携プロジェクト

芸術学部 × 版画学会

4 質の高い教育を
めざすに



概要

グラフィックアートプロジェクトは印刷や版画表現を主体とするグラフィカルなアート表現を追求し発表するプロジェクトです。学術学会である版画学会と連携し、年に一度全国の大学の参加による展覧会「大学版画展」に出品しています。その他にも公募展への出品(二科展デザイン部、大野城まどかぴあ版画ビエンナーレなど)や本学美術館で開催する九州沖縄版画プロジェクト展へ作品を出品します。その結果、公募展などで受賞や入選するなど期待以上の成果を上げています。

期待できる学生のスキルアップ

- 作品表現の独自性の向上
- 他大学の学生との交流による造形的な情報交換によって、感性と造形力の拡張
- アナログやデジタルの印刷表現に必要な実践的なスキルの習得
- 自主的に計画し参加するため、責任感と行動力の向上
- 作品展示による作品の見せ方の向上

No. **社会貢献** [担当] 黄禧晶

17 高速道路美化事業 「須恵町新原校区トンネル絵プロジェクト」

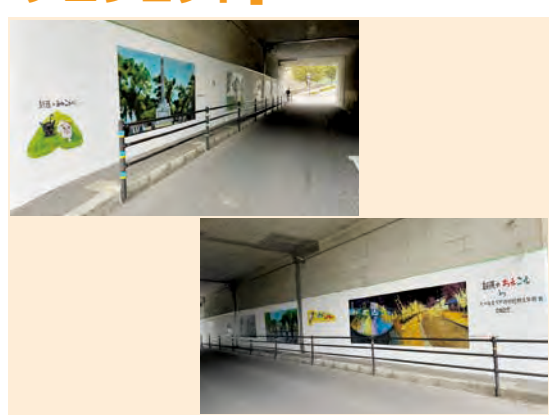
学 外
連携プロジェクト

造形短期大学部 × 須恵町役場 × 須恵町おやじ会

11 自ら進んで
学ぶ力を
伸ばす

12 つなぐ教育
つなぐ未来

17 社会貢献
社会を良くする



概要

須恵町は九州道が町を貫通しており、至る所に高速道路下のトンネルがあります。しかしトンネルの壁が汚れ、薄暗いため、造形短期大学部が須恵町と須恵町おやじ会と連携してトンネル絵を制作してから2022年で4年目を迎えました。今回は須恵町新原校区のトンネルでの制作であり、地域の要請で地域の名所や催しをアピールできるテーマの絵を制作しています。近接する須恵高校の通学路でもあり、一段と町が明るくなって通りかかる人々を楽しませています。

期待できる学生のスキルアップ

- アートを通じた地域貢献
- 大画面制作による描画力アップ
- 町づくりへの達成感

No. 18 教育 来しかたの香椎を映やすお茶の会

[担当] 井上友子

学 外 芸術学部 × 香椎宮 × 左衛門 × 博多織デベロップメントカレッジ



概要
香椎宮で明治時代に行われていたお茶会を裏千家茶道部の協力を得て再開し実施する取り組みが「来しかたの香椎を映やすお茶の会」です。年ごとにテーマを設けて趣向を凝らすお茶会は、取り組んだ学生たちの個性が光るイベントとなっています。2022年夏は「藤棚」と「絵馬殿」を舞台に手作りの「藤」のアロマジェルをお土産として作成し、秋は「勅使館」を舞台に「橋」をテーマとしたインセントをお土産として配布し、統一テーマ「五感で楽しむお茶会」を成功させました。会場には2023年に販売される新作「雛人形」や明治から昭和初期の香椎宮を記録した白黒写真とそのカラー化作品を併し、歴史と文化を「可視化」する取り組みを行いました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 企画力
 - コミュニケーション力
 - 実践力
 - 協調性
 - 展示力

No. 19 社会貢献 子ども食堂におけるマンガ配布プロジェクト

[担当] 檀からん

学 外 芸術学部 × 貝塚病院



概要
本プロジェクトに参加した学生は、貝塚病院の多岐にわたる仕事の内容を1ページのマンガで表現します。マンガは一枚のお弁当の包み紙となり、子ども食堂に来られた子どもたちに配布されます。医療現場の様々な事柄が描かれているので、わかりやすく、好評でした。マンガはあらゆる世代にメッセージを伝えやすく、誰でも気軽に読むことができるのが特徴ですので、このプロジェクトにはぴったりだと考えています。小さな社会貢献かもしれませんが、大切な次世代を担う子どもたちに、大事なメッセージを届け続けたいと、頑張っています。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- マンガで表現していく楽しさを知った。
 - 大きな総合病院での細かな役割を、描くために学んだことは大きな糧となった。
 - 勉強以外に時間を使い、物事をきちんとこなしていくことを学んだ。

No. 20 研究 コバコバル 車体絵プロジェクト

[担当] 黄禧晶

学 外 造形短期大学部 × コバコバル



概要
本プロジェクトはレモネードなどを提供する洋風居酒屋・コバコバル様の依頼で移動販売車の車体の側面と背面にレモネードやレモンを素材としたイラストを制作したものです。若い女性などに受けるよう、インスタ映えできる爽やかで明るいイメージ、子猫を描き込んでちょっとした遊び心ができる絵にしました。果汁あふれるレモネードのみずみずしさの強調、レモン汁が飛び散るようなデザインです。大学内で制作し、若い人の制作現場での反応も参考になりました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 社会・地域貢献
 - ニーズや要望に合わせたデザインの提案力
 - コミュニケーション力
 - 表現力のアップ

No. 21 教育 [担当] 石崎幸

CKK シンボルマーク
デザインプロジェクト

学外連携プロジェクト 造形短期大学部 × CKK



概要
当研究室では、バレエを中心とし福岡を拠点とするダンスカンパニーCKKのデザイン制作を行なっています。舞台毎のイメージをシンボリックにビジュアル化する研究です。舞台芸術は、その舞台そのものだけでなく、その日が来るまでのワクワク感も含めて幸せな時間を提供してくれます。そんな舞台芸術にデザインが深く関わることで舞台の付加価値を高めます。また、産官とコラボレーションしてモノ作りに挑戦し、仲間と切磋琢磨しながら、新たな価値を創造しています。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- コミュニケーション能力の向上
 - ファシリテーション能力の向上
 - プレゼンテーション能力の向上
 - デザインスキルの向上

No. 22 社会貢献 [担当] 伊藤敬生

SEA you again
プロジェクト

学外連携プロジェクト 芸術学部 × NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会 × 小値賀町 × (株)テクノラボ × シャボン玉石けん(株)



概要
潮流の影響により漂着物が集まりやすいという課題を抱える長崎県五島列島の小値賀島に流れ着く「海洋プラスチックごみ」を商品としてアップサイクルできないかと、芸術学部伊藤研究室と学生が取り組む「SEA you againプロジェクト」。NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会と小値賀町、株式会社テクノラボ(横浜市神奈川区)、シャボン玉石けん株式会社(福岡県北九州市)と共同で、海洋プラごみから作った石鹸ケース「mu」を開発しました。他にも学生がデザインした海洋プラごみ製のブローチを小値賀島の新しいお土産品として開発しました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 社会問題を発見する能力
 - 社会問題の背景を探る能力
 - 社会問題の解決策を練る能力
 - 社会問題の解決案を実現する能力
 - 社会問題を正しく伝え繋げる能力

No. 23 社会貢献 [担当] 青木幹太

支援を必要とする
児童のアート活動

学外連携プロジェクト 芸術学部 × (株)グロウ



概要
株式会社グロウが運営する、支援を必要とする児童の放課後等デイサービスで、児童の自己肯定感を高めることを目的に、アートによる創造活動を実施しました。2施設で約40人の児童を対象に、はじめはA4の画用紙に自由に絵を描いてもらい、その絵をポスターにして施設に展示しました。次に紙粘土を使った立体造形を行い、その作品を九産大プロデュース2023の会場で展示し、児童とご父兄、指導にあたる先生方、多くの市民の皆様にご覧いただきました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 障がいのある児童の理解
 - コミュニケーション力
 - 展示などの企画力
 - ビジュアル表現力

No. 24

教育

[担当] 青木幹太

シューズデザインプロジェクト

学外
連携プロジェクト

芸術学部 × アサヒシューズ(株)



概要

久留米市にあるアサヒシューズ(株)と連携して、12名の学生が高齢者向けに販売している「快步主義」ブランドの靴の新しいデザインを提案しました。団塊の世代が高齢期になり、従来の快步主義では、オシャレ感やスポーティさが薄いことから、快步主義のいいところは残しつつ、オシャレで活発な高齢者を想定した新しい快步主義を目指しました。彼らのデザインした靴は九産大プロデュース2023で展示・公開し、来場者から多くの意見を頂戴しました。

期待できる学生のスキルアップ

- シューズ制作の基礎知識
- 商品企画力
- モデリング技術
- プレゼンテーション力
- コミュニケーション力

No. 25

研究

[担当] 井上友子

白黒写真カラー化プロジェクト“monokara.”

学外
連携プロジェクト

芸術研究科デザイン領域 × 香椎宮 × 西鉄



概要

白黒写真のカラー化がAIによって可能になり、人々の暮らしに身近な文化として知られるようになりました。筆筒の奥にしまわれ、忘れ去られた家族の思い出や街並みは、世代交代が進むにつれ、誰を写したのか、何を写したのかなどが不問となり、いつの間にか処分されてしまいます。福岡のような上書き都市で特に顕著なこの現象に警鐘をならすべく、庶民の日常を記録した白黒古写真のデジタル上のアナログカラー化を実施しました。AIを用いるのは原本のスキャンのみで、その後はphotoshopを用いた手彩色でカラー化を進めていきました。撮影された日時、その時代の流行や出来事、街並みの変化などを調査し、所有者の記憶に沿ったカラー化作業を行い、展示しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 企画力
- 調査力
- 実践力
- AI技術
- コミュニケーション力

No. 26

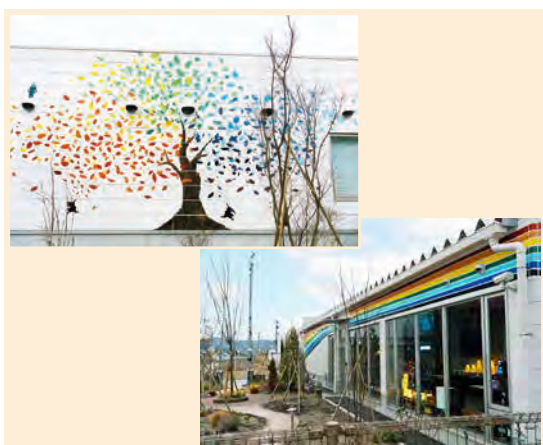
社会貢献

[担当] 井上友子

新社屋壁面装飾

学外
連携プロジェクト

芸術学部 × フロム工業



概要

中間市にある家電メーカーフロム工業との共同事業で、新社屋の壁面装飾を実施しました。社屋の建築デザインや庭のデザインなど、全体イメージを統一するための参考意見を出すことから始まり、会社の意向に沿った社屋完成後は壁面の装飾デザインとペイントを行いました。製作の際には、地域性、建築素材、使用目的および企業イメージの工場とPRを念頭に、半年かけて構想を練りました。現地調査、ペイント材の調達、実行時の機材の調達を行うとともに、ペイント作業の記録を撮影し移り変わる壁面の動画作品なども製作しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 企画力
- コミュニケーション力
- 実践力
- 協調性
- 忍耐力

No. 研究 [担当] シム・ウヒョン

27 須恵町制施行記念 駅伝競走大会アーカイブ活動



学 外 連携プロジェクト

造形短期大学部 × 福岡県糟屋郡須恵町

概要
 福岡県糟屋郡須恵町の『町制施行記念駅伝競走大会』は昭和28年(1953年)に「須恵村」から「須恵町」へ町制施行したことを記念して、翌年の昭和29年(1954年)から開催され、毎年行われました。昨今の道路交通事情の変容によるリスクなどを理由に第66回町制施行記念駅伝競走大会(2019年度)を最後に廃止することになりました。69年間の歴史を映像制作、写真アーカイブス、記念展示を造形短期大学部と芸術学部7人の学生により実施されました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 地域と大学によるまちづくり活動に貢献できる。
 - 写真や映像のアーカイブ活動の重要性が理解できる。
 - ホワイエ展示企画の企画手順が学べる。

No. 社会貢献 [担当] 青木幹太

28 卒業記念品 制作プロジェクト



学 外 連携プロジェクト

芸術学部 × 博多織デベロップメントカレッジ

概要
 2016年より始まった卒業生に記念品として贈るオリジナル名刺入れの制作活動です。本年度は博多織の名刺入れがテーマで、博多織師を養成する博多織デベロップメントカレッジと連携して、本学学生4名とカレッジ学生3名が協力し、名刺入れの企画・デザインを行いました。コロナ感染が落ち着いてきたことから、チーム活動に力を入れ、学生7名がそれぞれのデザイン案を本学教務部の皆さんの前で発表し、名刺に使う博多織の生地デザインを選んで頂きました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 商品企画力
 - プレゼンテーション力
 - コミュニケーション力
 - 博多織の基礎知識

No. 教育 [担当] 石崎幸

29 太宰府天満宮の 悠久の歴史をデザインで紡ぐ



学 外 連携プロジェクト

造形短期大学部 × 五十嵐靖晃(アーティスト) × 太宰府天満宮

概要
 太宰府天満宮アートプログラムで滞在中のアーティストと共にワークショップやアート活動を行いました。例えば「くすかき」は、かつて存在した千年樟の姿を“描き”だそうという試みで、それは“目には見えないけれど大切なものを感じる”という、日本人が元来持っている特有の感性のあり方を伝えていくものです。このような経験を通じ、学生自らの作品制作への糸口となる「デザイン研究」を目指しています。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- コミュニケーション能力の向上
 - ファシリテーション能力の向上
 - プレゼンテーション能力の向上

No. 30

社会貢献

[担当] 真島猛 / 隅田康明 / 花田雅彦

たべものレスキュー

学外・学部間
連携プロジェクト

芸術学部 × 理工学部 × 産学連携支援室 ×
基礎教育センター × まちスポ(NPO) × 福岡市



概要

このプロジェクトでは、食品ロス削減のためデザイン及び研究として、「廃棄食材の再利用による食品デザイン」「子どもたちへ食品ロスを分かりやすく伝えるコミュニケーション・デザイン」「余った食品をリサイクルするフードドライブ・デザイン」を行なっています。このプロジェクトの参加メンバーは、芸術学部、理工学部、地域共創学部の学生たちで、各々が学んでいる専攻の特性を活かし、応用として実践を通じた様々なスキルを習得し、社会問題の解決に貢献します。

期待できる学生のスキルアップ

- 課題解決力
- 調査、分析力
- コミュニケーション、プレゼン力
- チームワーク
- ツールの開発に必要なスキルのアウトプット力

No. 31

社会貢献

[担当] 佐藤慈 / 青木幹太 / 井上友子 / 星野浩司

地域活性化を目的とした映像コンテンツ制作プロジェクト

学外
連携プロジェクト

芸術学部 × 福岡県中小企業団体中央会



概要

映像コンテンツを地域活性化に活用するための取り組みを行うプロジェクトです。2022年度は、福岡県中小企業団体中央会と連携し、福岡の伝統的工芸品である八女福島仏壇と八女提灯のプロモーション動画を制作しました。「10歳から15歳が見てわかる映像」をテーマとし、3DCGアニメーションを使った親しみやすい作品に仕上げることが目指しました。企画を検討するにあたっては、八女市にある各工房を見学させていただきました。

期待できる学生のスキルアップ

- 実践的な活動を通して学ぶ「問題解決力」
- グループ制作で身につける「チームワーク力」
- 専門分野における「技術力」

No. 32

社会貢献

[担当] 伊藤敬生

杖立温泉復興プロジェクト 新土産「恋のぼりラムネ」開発

学外
連携プロジェクト

芸術学部 × 杖立温泉旅館組合 ×
文具店「ユニイリテ」



概要

2020年7月豪雨の被害とコロナ禍による観光客の減少に見舞われている「杖立温泉(熊本県阿蘇郡小国町)」。その復興支援として、芸術学部の伊藤敬生教授研究室が新しいおみやげ「恋のぼりラムネ」を企画・デザインしました。杖立川に3,000匹以上の鯉のぼりが飾られる同地発祥の「鯉のぼり祭り」にちなんで、鯉のぼりの図柄のボトルシールをデザイン。杖立橋のたもとにある、恋地藏尊にあやかって、「恋のぼりラムネ」と命名しました。ラベルシールは、学生たちが旅館組合の方々や地元のお年寄りと一緒に手貼りして仕上げ、観光客の子どもたちと一緒にオリジナル恋のぼりラムネのワークショップなども行いました。

期待できる学生のスキルアップ

- 社会問題を発見する能力
- 社会問題の背景を探る能力
- 社会問題の解決策を練る能力
- 社会問題の解決案を実現する能力
- 社会問題を正しく伝え繋げる能力

芸術系

理工系

文系

基礎教育センター

No. **33** 研究 **博多人形リデザインプロジェクト** [担当] 井上友子



学外連携プロジェクト **芸術学部** × **後藤博多人形** × **9** 産直と消費者の距離を近づけよう **8** 働きがいのある経済成長 **17** パートナーシップで社会を元気にしよう

概要
福岡の伝統的工芸品の一つとして知られる「博多人形」の商況はバブル好景気に沸いた一時期に比しわずか3.88%まで落ち込み、廃業を余儀なくされる工房が続出しています。後継者問題や伝統の継承問題を引き起こしている人形界の経済的低迷の原因のひとつである因習的な販売方法・サイズ感などを新たなデザインと共に考え、WEBの活用を試行しました。有名作家や有名工房のように時節もの以外に高値で販売できる作品を持たない人形師たちの生き残り、ひいては伝統的工芸品「博多人形」の伝統継承のため、購買型クラウドファンディングを活用し、都会暮らしの女性や第一線で活躍してきた女性のためのコンパクトに出し入れできるおひな様「ひいな」4種を販売し、期間終了までに目標額を達成しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 企画力
- 調査力
- 実践力
- デザイン力
- コミュニケーション力

No. **34** 教育 **FUKUOKA ART PROJECT** [担当] 真島猛



学外連携プロジェクト **芸術学部** × **Gallery BEM** × **12** つくる責任 つかう責任 **8** 働きがいのある経済成長 **17** パートナーシップで社会を元気にしよう

概要
このプロジェクトでは、学生たちの作品制作から展示方法、プロモーションの仕方、作品の展示販売、展示場所である学外の企業との協働を通して、アートと社会との関わり方を学びます。今回は作品の展示だけでなく、企業とコラボカフェも開催しました。コラボカフェでは、作品のテーマに合わせたフードのデザインを企業と打ち合わせを重ねて実現しました。学生たちは、日々の学びがどのような分野で生かせるか実践を通し経験し学びます。

期待できる学生のスキルアップ

- 作品制作スキル
- 作品展示方法、プロモーションの仕方
- 作品の販売方法
- 企業との協働の進め方と交渉
- コラボカフェの企画と運営方法

No. **35** 社会貢献 **古小烏公園記録映像制作プロジェクト** [担当] 中谷正史



学外連携プロジェクト **造形短期大学部** × **いふくまち** × **11** 自分らしく活躍しよう **8** 働きがいのある経済成長 **4** 暮らしを豊かにしよう

概要
福岡市中央区薬院伊福町にある古小烏公園での出来事を「子どもを中心としたまちづくり」のプロセスとして、ドキュメンタリー映像に残すプロジェクトです。2つの保育園(いふくまち・ごしょがだに保育園)の園児たちと地域の人たちとの交流を撮影しながら、その先にある暮らしや環境についても学んでいます。地域づくり×アートの視点で活動する共同研究者の酒井咲帆さん(保育園園長・写真家)と一緒に、九州芸文館での展示にも参加しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 動画撮影技術
- コミュニケーション力(取材やインタビュー)
- 映像コンテンツの構成力
- 映像編集技術
- 地域づくりのプロセスの理解

No. 36

教育

[担当] 大野公聖/森下慎也

マイング博多クリスマス
ディスプレイプロジェクト学外
連携プロジェクト造形短期大学部 × 日本空間デザイン協会福岡支部 ×
ステーションビル博多

概要

このプロジェクトは、日本空間デザイン協会福岡支部、ステーションビル博多が主催する、博多駅マイングのディスプレイボックスを福岡の大学、専門学校の学生がディスプレイする学生デザインプロジェクトです。今年のテーマはクリスマスで、12月の1ヶ月間展示しました。制作にあたって、企業のスタッフと材料の検討をするなど、実践的な取り組みになり、また、学生たちは他の学校の同世代の学生たちとのディスプレイと競い合うことで、学びの刺激を受けました。

期待できる学生のスキルアップ

- デザイン提案の実践力の育成
- クライアントとのコミュニケーション能力の向上
- 現場対応力の向上

No. 37

社会貢献

[担当] 青木幹太/大方優子

むなかたマルシェ
プロジェクト学外
連携プロジェクト芸術学部 × むなかたアートコレクション ×
宗像市商工会 × 遠賀信用金庫

概要

宗像エリアを中心にビジネスを展開する企業や工房などの商品開発力、販売力の向上、宗像ブランドの強化、宗像市商工会玄海支所の建物の利活用を目的に、産学官連携によるむなかたマルシェ事業を展開しました。本学の学生は、事業活動を象徴するシンボルマークのデザインやマルシェ会場を演出する什器やオーナメント、来場者を誘引するチラシの制作を行いました。マルシェは2022年7月16-17日、11月12-13日の2回実施し、多くの来場者が足を運びました。

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション力
- 課題解決力
- チームワーク
- デザイン構想力
- 現場対応力

No. 38

社会貢献

[担当] 黄禮晶

メディカルコミュニティモール
須恵壁画プロジェクト学外
連携プロジェクト造形短期大学部 × (有)八幡総合企画 ×
メディカルコミュニティモール須恵

概要

本プロジェクトは、糟屋郡須恵町のメディカルコミュニティモール須恵の外壁約50mに描かれた壁画プロジェクトです。町の医療モールとして地域住民に明るい景観、風景を提供したいとの依頼からスタートしました。何十年も楽しめる絵として日本の美しい四季をテーマとし、春夏秋冬の季節が2回変わるデザインにしました。無料で足場を提供してもらい、下地塗りには役場や地域のおやじ会の方々、子どもたちがボランティアで参加しました。みんなの力で町の真ん中に野外美術館が誕生しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 地域貢献に対する認識アップ
- 巨大画面への制作による画力アップ
- コミュニケーション力や協調性向上
- 持久力

No. **39** 社会貢献 [担当] 真島猛/堺美樹

メンタルサポート・プロジェクト

学外連携プロジェクト 芸術学部 × 学外連携課 × 3 無印良品 10 17



概要
このプロジェクトでは、メンタルケアのためデザイン及び研究として“ピア・ポートレート”を行なっています。ピア・ポートレートとは、ピア・サポートとポートレートを組み合わせた独自のコミュニケーション・デザインで、学生は参加者とお話しながら、参加者のポートレートをその場で描きプレゼントします。この取り組みを通して、参加者の気持ちがポジティブになることを目的としています。学生たちは、日々の学びがどのような分野で生かせるか実践を通し経験し学びます。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 課題解決力
 - コミュニケーション、傾聴
 - ポートレート制作に必要なスキル
 - チームワーク
 - 展示作品の制作及び展示方法

No. **40** 社会貢献 [担当] 南聡/井上友子

八女福島燈籠人形背景幕制作

学外連携プロジェクト 芸術学部 × 八女市教育委員会 × 燈籠人形保存会 17 9



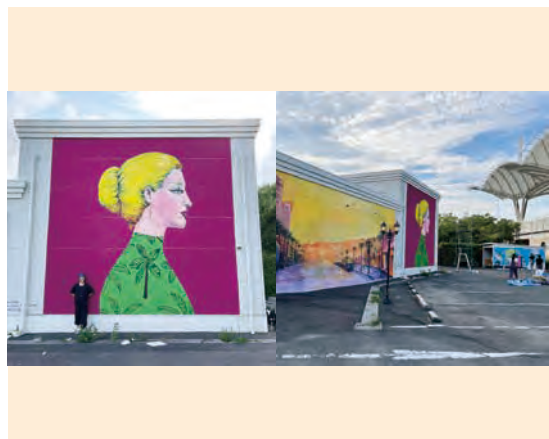
概要
1977年5月に国指定の重要無形文化財に位置付けられた燈籠人形芝居は、毎年秋分の日を挟む3日間に演じられる八女を代表する文化です。その発祥は1772年にさかのぼり、2022年で250年目を迎えました。本学芸術学部では、2014年から燈籠人形芝居の重要な大道具である背景幕を制作し、燈籠人形保存会に納めています。3年間におよび新型コロナウイルス感染症拡大による自粛を経て、2022年には2枚を制作しました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 描写力
 - 調整力
 - 実践力
 - 協調性
 - 忍耐力

No. **41** 研究 [担当] 黄禧晶

ユナイテッドハーバー壁画プロジェクト

学外連携プロジェクト 造形短期大学部 × (株)クォーターズ 11 8 12



概要
本プロジェクトは北九州市に所在するウェディングイベント施設ユナイテッドハーバーをリニューアルオープンにあたり、巨大壁画の制作依頼からスタートしました。施設は旧スペースワールドと近接し、海に面しており、アメリカ風のリゾート地をイメージさせるポップでインスタ映える名所にしたいとの要望でデザインに取り組みました。高さ5mを超える壁や幅15m以上の壁、海に面したレストランの壁など、至る所にカラフルな巨大アートが誕生し、目を楽しめます。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- ニーズや要望に合わせたデザイン力アップ
 - チームワークによるコミュニケーション力アップ
 - 巨大画面制作による画力向上
 - 地域貢献

No. 42 社会貢献
ラムネの涙プロジェクト2022
「驚きのラムネ展」開催

[担当] 伊藤敬生

学 外
連携プロジェクト

芸術学部 ×

無印良品ガーデンズ千早店「Open MUJI」 ×

合名会社まるはら



概要

コロナ禍で夏祭りの多くが中止となり、夏の風物詩であるラムネが出荷できず危機に瀕している製造会社を救おうと、芸術学部伊藤敬生研究室がはじめた「ラムネの涙プロジェクト」。2022年9月～10月には無印良品ガーデンズ千早店「Open MUJI」（福岡市東区）にて「驚きのラムネ展」を開催しました。会場では、ラムネ瓶の原型とされる1872年にイギリスで発明されたキュウリ型の「ハミルトン瓶」や明治初期に登場した国内最古の瓶など、ビンテージ瓶約30本を一堂に展示するとともに、昭和初期のラムネ製造機も公開。9月には、飲料メーカーなどを招きラムネの歴史を紹介する「驚きのラムネ話」トークなどを開催し、盛況でした。

期待できる学生のスキルアップ

- 社会問題を発見する能力
- 社会問題の背景を探る能力
- 社会問題の解決策を練る能力
- 社会問題の解決策を実現する能力
- 社会問題を正しく伝え繋げる能力

No. 43 教育
ランドセル+αプロジェクト

[担当] 森下慎也

学 外
連携プロジェクト

造形短期大学部 ×

NPO法人次世代のチカラFUKUOKA など



概要

このプロジェクトは、NPO法人次世代のチカラFUKUOKAが取り組む、中古ランドセルを次に必要とする人に受け渡すランドセルバンクの活動を応援するプロジェクトです。学生がランドセルカバーを制作するワークショップを企画し、ランドセル譲渡をするイベントを開催しました。開催にあたり、各種協力企業と協賛企業へのプレゼンをして、企画を実施することができました。2日間の取り組みで、40個のランドセルを譲渡することができました。

期待できる学生のスキルアップ

- プロジェクトの実践力の育成
- クライアントとのコミュニケーション能力の向上
- 現場対応力の向上





理工系

2022年度 KSUプロジェクト型教育 学部間・学外との取り組み事例

No.	タイトル	ページ	No.	タイトル	ページ
44	 ICT を活用した地域公共交通の運行管理支援	22	59	住空間の「居心地をよくする」工夫を見つける	29
45	 伝統的パン種における微生物の役割解明と福岡県特産パン種の開発	23	60	食品開発研究会 販売促進会へのオンライン参画 「イチゴと練乳の2層ジャム」	
46	 防災をもとにした学生と地域との連携プロジェクト	24	61	生活困窮者自立支援団体間の情報共有における ICT 支援	
47	IC カードプロジェクト	25	62	大学間連携による人材育成	30
48	医工芸経連携により リハビリ・介護プロセスを革新する ロボット実用化研究拠点		63	積み木であかりのワークショップ ～童話を題材とした読書感想光～ 学校教育篇	
49	ABC 建築道場		64	積み木であかりのワークショップ ～童話を題材とした読書感想光～ 社会教育篇	
50	学内招聘プロジェクト	26	65	テクノアートプロジェクト	31
51	協同組合福岡・大川家具工業会と 連携した家具・雑貨開発および 成果品の展示計画		66	デザインワークショップ	
52	ゲーム作ろうラボ		67	2足歩行ロボット製作プロジェクト	
53	県内地域活動団体による 情報発信活動の ICT 支援	27	68	ひとにも建物にも環境にもやさしい 窓とはどんな窓か	32
54	こどもけんちくどうじょう		69	人々の健康的な生活と快適性のための 避難場所の居住環境調査	
55	産学協同実践教育 「プロジェクトベース設計演習」		70	プロジェクトベース設計演習に基づく ロボットコンテストなどへの参加	
56	3学年で取り組む実大の 木造建築物制作プロジェクト	28	71	プロジェクトマネジメントの実践研究 ーテクノアートプロジェクトを事例としてー	33
57	自然環境をとおした 学生と地域との連携プロジェクト		72	無電力起立訓練補助器具プロジェクト	
58	社会との連携による 土木系学生の学修意欲向上プロジェクト		73	もくらふとプロジェクト	
			74	リノベーションプロジェクト	34
			75	歴史的建造物活用プロジェクト	
			76	ロボメカ・デザインコンペ	

No.

社会貢献

[担当] 稲永健太郎 / 安武芳紘 / 末吉智奈佐

44 ICT を活用した 地域公共交通の運行管理支援



学 外
連携プロジェクト

理工学部 × 飯塚市 × 沖縄県うるま市 × 嘉麻市 × 古賀市 × 田川市 × 宗像市 ×
宮若市 × 柳川市 × 芦屋町 × 遠賀町 × 苅田町 × 新宮町 × 須恵町 × 久山町 ×
国土交通省九州運輸局 × 福岡県 × 日本工営(株) × 新宮タクシー(株) × (株)ヴァル研究所



① 須恵町コミュニティバス車内での案内表示アプリの評価 ② 須恵町職員による各種開発アプリの評価
③ 宗像市課題解決プロジェクトで開発した発車標アプリ

地域公共交通の DX 活動として データを収集・分析表示するシステムを開発

概要

本プロジェクトでは、地域公共交通のDX(デジタルトランスフォーメーション)の活動として、利用動向などを把握するためのデータ収集やその収集データを分析表示するシステムを開発しています。今年度は、須恵町や宗像市との連携において、車内案内表示システムの改良や主要停留所付近に設置するデジタルサイネージ(ディスプレイを使った情報

発信)機能などを開発しました。沖縄県うるま市、古賀市、久山町、日本工営(株)とともに、乗降客数調査にそれぞれ取り組みました。その他、乗換案内サービス向けに標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)データの整備活動について、連携13市町のコミュニティバスや渡船を対象に、前年度に引き続き支援しました。

参加者の声

このプロジェクトに参加し、乗換案内アプリで使われている標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)を自分たちで実際に作成したことで、普段使っている乗換案内アプリの内部を深く理解することができました。初めて知る内容ばかりで大変でしたが、チームで作ることができました。この活動は私にとって貴重な体験となりました。

船津 雅貴

理工学部
情報科学科・3年
福岡県・香住丘高等学校



期待できる学生のスキルアップ

- 自治体が抱える課題に取り組むことによる解決力
- 自治体や企業関係者との連携によるコミュニケーション力
- ICTの活用によるアプリ/システム開発力
- 学外での成果発表によるプレゼンテーション力

No. **教育**

[担当] 満生慎二

45 伝統的パン種における微生物の役割解明と福岡県特産パン種の開発

9 産業と技術革新の高度をつくり出す

3 すべての人に健康と福祉を

8 働きがいも経済成長も

学 外
連携プロジェクト

生命科学部 × (株)トータルオフィス・タナカ × こぼのぼん



①マルシェでの販売前のメンバーの集合写真 ②マルシェでの販売風景 ③九産大でのパン作り風景

九産大オリジナル天然酵母種を開発！出店したマルシェでは、1時間で60個が完売するなど大成功。

概要

福岡県うきは市の山奥に工房を構えた天然酵母パン職人「こぼのぼん」の指導の下、天然酵母種(サワー種)中の微生物の役割解明と九産大オリジナル天然酵母種を開発を行いました。まず、サワー種には酵母と同程度の乳酸菌の存在が不可欠であることを明らかにしました。更に、メンバーの出身地の農産物からサワー種の作製を試みた結果、優れた製パン特性を示す福岡県産桃と長崎

県産梨由来のサワー種が完成し、微生物種の単離・同定も行いました。これらのサワー種を使用した九産大オリジナル天然酵母パンの開発を試み、カンパニー・メロンパン(桃・梨)・ジャムパン(桃・梨)の5種が完成しました。包装・チラシ・看板などにもこだわり出店したマルシェでは、オリジナル天然酵母パンの販売を行い、1時間で60個が完売するなど大成功でした。

期待できる学生のスキルアップ

- 目標設定力
- 計画・実行力
- 継続力
- コミュニケーション力
- 研究・開発力

参加者の声

天然酵母パン職人様から直接パン造りの指導を受けたり、大学の最新設備を使用して微生物の研究ができたり、メンバーが考えたオリジナルの天然酵母パン種や天然酵母パンの開発に挑戦し成功したり、マルシェでの出店を企画し販売したり、など一年間という短い期間でしたが、様々な経験や多くの方との交流や通じて大きく成長できたと実感しています。

松山 琴美

生命科学部
生命科学科・2年
宮崎県・宮崎農業高等学校



芸術系

理工系

文系

基礎教育センター

No.

教育

[担当] 山田忠

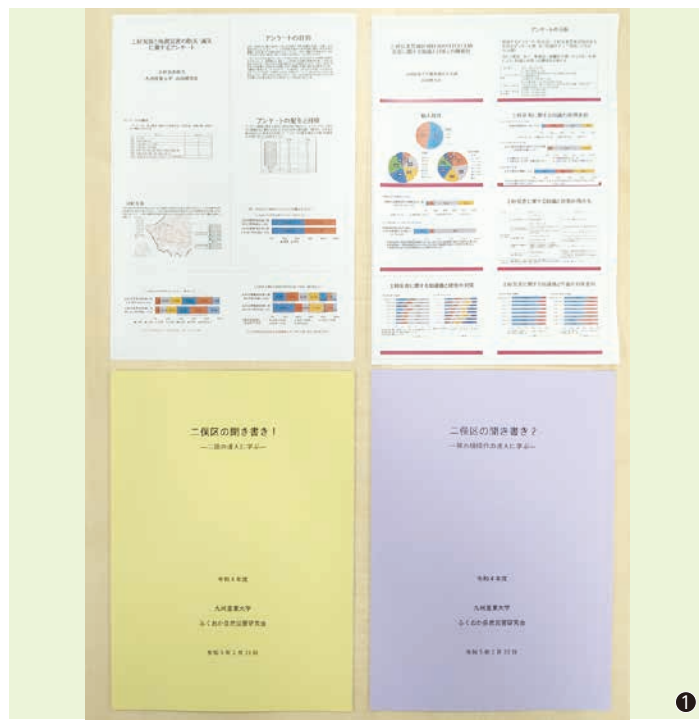
46

防災をもとにした学生と地域との連携プロジェクト



学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 香住丘校区自主防災会 × 武雄市橘町二俣区



①アンケート報告資料と冊子 ②アンケートの結果説明 ③排水機場操作員への聞き取り

学生が住民と連携して、地域の課題を把握、解決して地域の防災力を高めていく！

概要

近年の日本は自然災害が多発しています。住民による災害対応や対策が求められていますが、思うように進まないのが現状です。そこで、本プロジェクトでは、学生が住民と連携して、地域の課題を把握し解決しつつ、地域の防災力を高めていくことを目指して取り組んでいます。本年度は、福岡市東区香住丘校区にて以前に実施した防災・減災アンケートの結果と統計解析した結果について

報告を行い、災害対策の現状と課題点を共有しました。また、武雄市橘町二俣区にて住民の水防体制の要であり、一方で担い手不足の課題がある、排水機場操作員の経験知(水害経験で得られた知識)を形式知化し継承するために聞き取り調査などを行い、結果を冊子にまとめました。参加学生のうち3名が国土交通省や地方自治体に就職が決まり、今後の防災の中核を担う予定です。

参加者の声

このプロジェクトでは、佐賀県武雄市橘町の二俣地区にある排水機場の操作を長年担当している住民の方に水害時の対応など、今までの経験についてお話を伺いました。お話を聞く中で、様々な課題があることを知り、その課題解決に向けて学生同士で意見を出し合いました。地域の防災力の向上に繋がる活動に参加できたことや成果の一部を学会で発表できたことは貴重な体験となりました。

吉永有志

建築都市工学部
都市デザイン工学科・4年
長崎県・西海学園高等学校



期待できる学生のスキルアップ

- 計画立案能力
- 課題発見力
- コミュニケーション能力
- 自発性及び行動力
- 地域社会や災害についての幅広い知識

ICカードプロジェクト

学外
連携プロジェクト

理工学部 × 海の中道海洋生態科学館



概要

理工学部情報科学科では、2010年度から、産業界で即戦力になれる学生の育成を目標として、他学部の学生と連携して情報処理システムを開発する学部連携共通プログラムを開講しています。2021年度は、写真・映像メディア学科と情報科学科の学生が本プログラムに参加して、マリワールド海の中道のためのスマートフォンアプリ「MarineWorld」を開発しiPhone版(2021年4月)とAndroid版(2021年7月)をリリースしました。2022年度は、そのアプリの改良を実施しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 他学部学生とコミュニケーションをとりながら作業(共創力)
- アプリ開発に必要な実践的知識を修得(実践力)
- 自分の知識を他学部学生に教示(指導力)

医工芸経連携によりリハビリ・介護プロセスを革新するロボット 実用化研究拠点

学外・学部間
連携プロジェクト

理工学部 × (香椎原病院) × (金隈病院) ×
総合せき損センター × (ロボフューチャー株式会社) ×
株式会社製作所 × (CNP Design: 田代雄大氏) ×
九州産業大学ヒューマン・ロボティクス研究センター



概要

急激な超高齢社会の到来、リハビリ・介護現場の人手不足、また医療費節減のため、ロボットの導入が期待されています。高齢者・せき損患者のリハビリ支援ロボット・機器、生活介助ロボット・機器などを開発しています。基礎分野では、アクチュエータ、センサによる人の動き検出、モーション制御、またリハビリロボット・機器の事業モデル、製品デザインも行っています。人材育成分野では教育プロジェクトを実施しています。

期待できる学生のスキルアップ

- ロボットの実用化を通じ若手技術者を育成します。
- 現場ニーズを抽出し技術と組み合わせるスキルを学びます。
- 粘り強く考える力やコミュニケーション能力を磨きます。

ABC 建築道場

学外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 熊本県 × 熊本市 × 九州大学 ×
福岡大学 × 熊本大学 × 佐賀大学 × 鹿児島大学 など



概要

ABC建築道場は建築都市工学部建築学科の学生を中心に建築設計能力向上のために日々修練を行なっている団体です。具体的な活動は、毎週テーマを自分たちで決めて建築作品を模型で表現し議論を行う「しゅうまい」、活動展の企画と会場デザイン、第一線で活躍している建築家を招聘する講演会の企画、九州内の大学で連携して被災地の支援を行なっている「KASEI Project」への参加などです。

期待できる学生のスキルアップ

- 問題発見力
- 課題解決力
- デザイン能力
- コミュニケーション能力
- 継続的に修練できる力

No. 50

教育 [担当] 矢作昌生

学内招聘プロジェクト

学外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × ALTEMY × インターオフィス × テラデザイン ×
寺田模型店 × Archipelago Architects Studio × タトアーキテツ ×
atelier cube × 人の力設計室 × 古森弘一建築設計事務所 × axonometric Inc.



概要

1年に4回程度、第一線で活躍している建築家など専門家を招聘して講演会を企画・開催し、学生の専門知識やモチベーションの向上を目指し、自身の将来像を描けることを目的とします。最終講演会の際には、講演者の他に建築家など専門家を5〜6名招聘し、同時に卒業設計講評会を開催します。学生は頂いた講評を受け止め、学外の卒業設計展へ向けて更なる向上を目指します。成果として講演者の事務所への就職やインターンシップの受入れ、大学院(研究室)への進学などに繋がっています。

期待できる学生のスキルアップ

- 専門知識の向上
- 修学意欲の向上
- キャリアプラン
- 人脈形成

No. 51

教育 [担当] 青木幹太/佐藤昭則/船岡健太/吉村祐樹/飯田真生

協同組合福岡・大川家具工業会と連携した家具・雑貨開発および成果品の展示計画

学外・学部間
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 芸術学部 × 商学部 ×
協同組合福岡・大川家具工業会



概要

本プロジェクトは今年で11年目です。今回は協同組合福岡・大川家具工業会デジタル活用委員会様より「学生の視点で大川家具の魅力伝えてほしい!情報発信の方法や目を惹く写真の編集方法などを考えてもらいたい」とご依頼を受け、芸術学部、建築都市工学部、商学部の学生たちがチームを組み、SNSを活用した商品紹介やPR動画制作に取り組みました。また、成果品の展示計画も行いました。展示会場のデザイン・設営・管理・撤収まで、一連の流れを経験しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 実践力が身に付く
- 社会人としてのコミュニケーション能力が身に付く
- 他者と共に働く力が身に付く
- チームをまとめあげる統率力が身に付く
- 実社会と関わることで進路選択にも役立っている

No. 52

教育 [担当] 隅田康明/合志和晃/真島猛

ゲーム作ろうラボ

学部間
連携プロジェクト

理工学部 × 芸術学部



概要

理工学部学生と芸術学部学生が、チームを組んでゲーム制作を行うプロジェクトです。皆さんにとって身近なアプリケーションであるゲームを題材として、チームでの制作活動を通して、プログラミングやデザインのスキルだけでなく、コミュニケーション能力・責任感といった社会で必要とされるスキルを実践的に学びます。また、定期的に成果を学内外に発表することで、プレゼンテーション能力も身に付けます。

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション能力
- プログラミング
- デザイン
- 問題解決能力
- 企画・実践力



No. 53

社会貢献

[担当] 稲永健太郎/末吉智奈佐

県内地域活動団体による 情報発信活動のICT支援

学 外
連携プロジェクト

理工学部 × 千早校区自治協議会 ×
香椎校区自治協議会 × 香住丘校区自治協議会 ×
特定非営利活動法人まちづくり宗像



概要

2014年から福岡市東区千早校区自治協議会、2015年からは同区香椎校区および香住丘校区自治協議会、2017年からは宗像市日の里地区の「CoCokaraひのさと」といった各種地域活動団体に対して、ウェブサイトの構築もしくはそのサーバ管理などの運用における技術支援を行っています。2019年度には、長年の支援活動に対して香住丘校区自治協議会より感謝状が贈られました。今年度も前年度に引き続き活動を推進しました。

期待できる学生のスキルアップ

- ICTを活用した社会・地域貢献のための実践力
- 課題を抱える方々との連携によるコミュニケーション力
- インターネットでの情報発信のための技術力

No. 54

教育

[担当] 姜優子

こどもけんちくどうじょう

学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 黒崎こども商店街



概要

2022年11月に開催された黒崎こども商店街にて、小学生を対象に「ものづくり」の楽しさ・おもしろさを知ってもらおう!という体験ワークショップを開催しました。ワークショップの企画内容から実施まで、全て学生主体で行っています。今回は「建設」についてのレクチャーを行い、普段身近にあるものを利用して構造物を作るワークショップを実施しています。「ものづくり」への関心を子どもたちに持ってもらうことを期待して、活動を行っています。

期待できる学生のスキルアップ

- 建築における専門知識
- 子どもたちに対する伝える力(教育力)
- 主体性、責任感
- 集団行動、公共心
- 企画力、発想力

No. 55

教育

[担当] 稲永健太郎/下川俊彦/成凱/安武芳紘/于海波/澤田直/三牧弘司/富永桂

産学協同実践教育 「プロジェクトベース設計演習」

学 外
連携プロジェクト

理工学部 × (SCSK九州株)



概要

地元IT企業から現役技術者をインストラクターとして授業に迎え、少数でのシステム開発プロジェクトを実施しています。システム開発プロジェクト管理の実際を体験・理解でき、実践的な高度専門教育を在学中に受けられます。この演習は2004年度以降継続実施されており、全国的にも先進的かつ実践的な取り組み事例として紹介されています。2013年度には経済産業省「社会人基礎力を育成する授業30選」に選出される等、各方面で高評価を受けています。

期待できる学生のスキルアップ

- システム開発の実際を体験することによる設計開発力
- 現役技術者の指導や関わりによるコミュニケーション力
- 成果発表会への参加によるプレゼンテーション力
- IT業界の業務内容を理解することによる、就職や授業へのモチベーション

No. **56** **教育** [担当] 福山秀親/諫見泰彦/香川治美/小泉隆/信濃康博/松野尾仁美/吉村祐樹

3 学年で取り組む実大の木造建築物制作プロジェクト



木造実大作品の制作の様子

学 外 連携プロジェクト **建築都市工学部** × **(株)住幸房**



概要
 実際のサイズの木造建築物を制作し、図面上では気づくことができない細部を観察しながら、その気づきを設計の工程へフィードバックすることができます。他大学ではあまり見られない、木造軸組の仕組みを学ぶ取り組みです。また、チームで取り組むことで、建築施工におけるコミュニケーションや役割分担の重要性を、制作の過程で学ぶことができます。2023年1月には、マリンメッセで開催された第3回九州木質建物構造展に出展し、学生自らが来場者に説明を行いました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 木造建築に特化した専門的な技術を学修し、木造に関する理解を深める。
 - 大工技術者など多様な人々との交流からコミュニケーション能力を高める。
 - 実体験を通じ、創造力・実践力を発揮できる。

No. **57** **社会貢献** [担当] 内田泰三

自然環境をととした学生と地域との連携プロジェクト



学 外 連携プロジェクト **建築都市工学部** × **福岡市** × **山川海流域会議** × **立花山グリーンガイドの会** × **和白千潟を守る会** × **新宮町おもてなし協会** × **福岡市立香椎東小学校** × **道の駅波野** など



概要
 本学を取巻く豊かな自然環境の保護・保全のあり方を、学生と地域住民との関わりの中から考えます。さらに、熊本地震からの復興に向けて、昨今では熊本市内や阿蘇地域での活動も展開しています。2022年度は、例えば、次のような活動を実施しました。①川のいきもの教室、②植物写真展 in 阿蘇、③白岳のカノコソウ保全活動、④立花山登山教室、⑤アイランドシティ自然観察会など

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 学生たちが自ら地域自治体と連携を図っていくことで、学生たちの積極性・自発性・協調性を育みます。
 - 大学で学んだ知識を自ら地域に還元することで、学習の意義を再認識してもらいます。
 - プロジェクトをととして、持続可能な発展への理解を深めます。

No. **58** **教育** [担当] 林泰弘

社会との連携による土木系学生の学修意欲向上プロジェクト



学 外 連携プロジェクト **建築都市工学部** × **土木学会西部支部** × **鹿児島大学** × **佐賀大学** × **大分大学** × **西松建設(株)** × **(株)森本組** × **(株)ワールド・リンク** × **水道機工(株)**



概要
 学会や他大学、民間企業などの専門家と連携した課外活動を通じて、建設業界や建設技術、建設技術者の現状を理解します。その成果として、学修意欲の向上が図られ、就職活動もスムーズに進められます。具体的には、①現場見学会、実務技術者との交流会の実施、②現地調査・現場実験、研究委員会への参加、③一般市民や生徒・児童向けの模擬実験、体験実習の企画・実施、④他大学との研究交流会の実施などを行います。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 専門知識獲得に向けた学修意欲向上
 - 就職に向けた業界知識の獲得
 - コミュニケーション能力の向上
 - 専門知識の深化

No.
59

研究

[担当] 香川治美/安達隆博/福田潤

住空間の「居心地をよくする」工夫を見つける

学外・学部間
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 人間科学部 ×

(株)ゼンリン × (株)スエナガ ×

福岡工業大学



概要

住空間の「居心地をよくする工夫」をデータ解析によって見つけるために、ソロワークブースHACOCE内の居心地を定量評価する実験解析と、障がい者グループホームの居心地をよくする立地を定量評価する数値解析に取り組みました。前者は利用者の心理状態・生理反応や環境物理の測定データの解析であり、後者は地理情報システムによる空間データの解析です。これらの成果を「第18回日本感性工学会春季大会」、「日本都市計画学会九州支部」で発表しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 居心地を定量評価する技術
- 立地を定量評価する技術
- 建築都市デザインの基礎力
- 課題発見および解決策を提案する専門的思考力

No.
60

教育

[担当] 米満宗明/中山素一

食品開発研究会
販売促進会へのオンライン参画
「イチゴと練乳の2層ジャム」学外
連携プロジェクト

生命科学部 × まつばらベリーファーム



概要

2023年2月8～12日に、東京の八芳園で「福岡いちご収穫祭」が開催され、筑後市のまつばらベリーファームさんが出店されました。そこで「イチゴと練乳の2層ジャム」が販売されました。この商品は、学生の製造体験実習も兼ね、今も大学の設備で作られています。今回の販売に向け昨年の12月に生産しましたが、その感想や大学の設備を紹介するため、大学の食品加工プラントからオンラインでトークショーに参加しました。消費者の方々と直接接する良い機会でした。

期待できる学生のスキルアップ

- 加工食品の製造体験
- 原料生産農家さんとのコミュニケーション
- 消費者とのコミュニケーション

No.
61

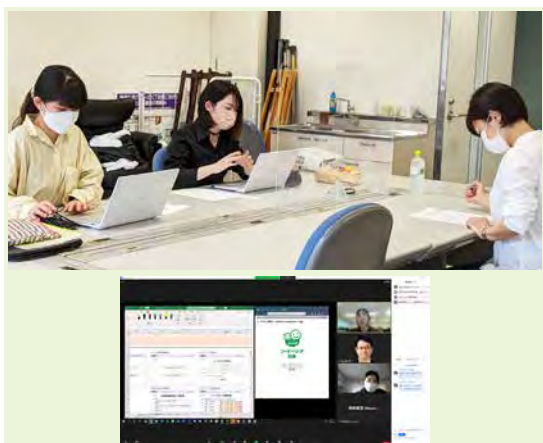
社会貢献

[担当] 稲永健太郎

生活困窮者自立支援団体間の
情報共有におけるICT支援学外
連携プロジェクト

理工学部 ×

NPO法人フードバンク日向



概要

今年度、宮崎県日向市のNPO法人フードバンク日向と連携し、生活困窮者支援における行政関係機関との情報共有に向けたシステム開発に着手しました。従来開発してきた高校図書館司書リファレンス業務の改善を目的とした業務記録システムをベースとしています。前年度に引き続き司書業務の専門家(宮崎県立日向高等学校 前司書コーディネーター 宇野鮎子氏)の助言を得ながら、システムの開発および評価を実施しました。

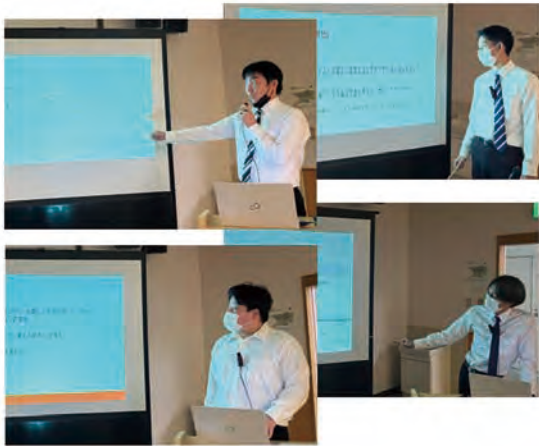
期待できる学生のスキルアップ

- ICTを活用した社会・地域貢献のための実践力
- 課題を抱える方々との連携によるコミュニケーション力
- ICTの活用によるアプリ/システム開発力

No. 教育

[担当] 石田俊一

62 大学間連携による人材育成



学 外
連携プロジェクト

理工学部 × 福岡工業大学 × 大分大学



概要

研究内容や研究成果、進捗状況に関わらず、連携している大学教員が担当する多くの学生を広く対象にして学会発表の機会の提供や他大学の研究室との情報交換を行っています。これにより大学の枠を超えた学生同士での情報交換、プレゼンテーション、質疑応答を通じて自発的な研究への意識、意欲の向上のほかプレゼンテーション力やコミュニケーション力の向上が出来ます。さらに他分野、他大学の教員が協力して学生を観察、指導することで連携した人材育成を行っています。

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション力
- プレゼンテーション力
- 問題解決力

No. 社会貢献

[担当] 諫見泰彦

63 積み木であかりのワークショップ ～童話を題材とした読書感想光～ 学校教育篇



学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 那珂川市立南畑小学校 ×
きみきみよの童話の部屋 ×
福岡県教育文化奨励財団



概要

「あかりの良否は光源・反射材・遮蔽材のバランスによる」との知見を子どもたちが学ぶ小学校図画工作科の授業です。KSU VISION DAYでの出展を経て、福岡県と佐賀県の教育委員会から教材として採用されました。成果は日本インテリア学会九州支部長賞を受賞しました。また一連の研究活動が日本建築家協会ゴールドエンキューブ賞組織部門特別賞を受賞し、さらに奥能登国際芸術祭2023の出展企画作品に採択され、今後、石川県珠洲市での授業も予定されています。

期待できる学生のスキルアップ

- 学生が考えたこと・作ったもので地域社会の役に立つことを学生自身が実感できる研究
- 図面や模型では終わらない実現を目指す挑戦と社会的な評価が伴う住居・インテリア学修

No. 社会貢献

[担当] 諫見泰彦

64 積み木であかりのワークショップ ～童話を題材とした読書感想光～ 社会教育篇



学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 長門おもちゃ美術館 ×
きみきみよの童話の部屋 ×
国立青少年教育振興機構



概要

「あかりの良否は光源・反射材・遮蔽材のバランスによる」との知見を学ぶ美術館でのワークショップです。世界的なおとぎばなしのあかりやひかりの場面を見ながら旅する主人公・紙飛行機の「こーき」が語る題材童話には絵がありません。子どもたちが積み木とLEDで場面を表現し、童話を絵本として完成させます(写真は「ピノキオ」)。これを私たちは「読書感想光」と呼んでいます。成果は日本建築学会子どものまち・いえワークショップ提案コンペで優秀賞を受賞しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 学生が考えたこと・作ったもので地域社会の役に立つことを学生自身が実感できる研究
- 図面や模型では終わらない実現を目指す挑戦と社会的な評価が伴う住居・インテリア学修

No. 65

教育

[担当] 牛見宣博/青木幹太/佐藤昭則/下川俊彦/村上剛司/榊泰輔/貞方敦雄/鷹野重之/松野尾仁美/間間理

テクノアートプロジェクト

学外・学部間
連携プロジェクト理工学部 × 福岡市科学館 × CNP Design: 田代雄大氏 ×
芸術学部 × 建築都市工学部 × 商学部

概要

ロボット開発の技術とプロダクトデザインを組合せ、実践的なものづくり活動を体験します。芸術学部の斬新なアイデアを、理工学部の技術で具現化する、学部間の相乗効果が発揮されるプロジェクトです。2022年度は「先端技術+家具」をテーマに、理工学部がセンサ・マイコン・LED・モータ・ソフトウェアなどの技術、芸術学部が企画とデザインを担当しました。作品は2023年2月に福岡市科学館、及び、九産大プロデュース展2023において一般公開されました。

期待できる学生のスキルアップ

- デザインや技術の基礎知識と応用力を養います。
- コミュニケーション能力が向上します。
- 専門分野を越えた幅広い視野を持つことができます。

No. 66

教育

[担当] 矢作昌生

デザイン
ワークショップ学外
連携プロジェクト建築都市工学部 × 日本建築学会九州支部北福岡会 × 釜山大学 × 釜慶大学 × 東亜大学 ×
東西大学 × 九州工業大学 × 北九州市立大学 × 西日本工業大学 × 九州女子大学 など

概要

国内外のワークショップや卒業設計講評会などに参加して、大学の枠組みを越えて自己研鑽する活動。2022年度はSDL卒業設計日本一決定戦2023、関門海峡建築展、デザインレビュー2023などに参加しました。第24回建築展日韓合同学生ワークショップでは、「2100年に建つ建築」という課題に対し「意思を継ぎ、遺伝子を残す」という作品を発表し、日本建築家協会九州支部長賞を受賞しました。デザインレビュー2023(全国大会)では本学学生が実行委員長をつとめました。

期待できる学生のスキルアップ

- 建築デザイン能力の向上
- 課題解決能力
- プレゼンテーション能力
- チームワークによる協調性
- 国内外の学生との交流を通じたコミュニケーション能力

No. 67

教育

[担当] 牛見宣博

2足歩行ロボット
製作プロジェクト学外
連携プロジェクト理工学部 × 九州ロボット練習会 ×
福岡市科学館 × 九州大学 × 福岡工業大学

概要

理工学部機械工学科では、学生のものでづくり活動を支援するために「ロボット工房」を設置しています。主な活動は2足歩行ロボットの開発とロボット競技会への出場です。プロジェクトに参加する学生は、実際に設計、部品加工、組立といったロボット製作の一連の過程を実践的に経験し、自ら新しいロボットを開発していきます。オープンキャンパスや展示会への参加、交流活動も行っています。

期待できる学生のスキルアップ

- 自ら新しいロボットを開発する創造性や自主性
- ロボットのトラブルに迅速に対応できる柔軟性
- 他大学の学生や社会人技術者らとの人脈作りや協調性

No. 研究 [担当] 香川治美

68 ひとつにも建物にも環境にもやさしい窓とはどんな窓か

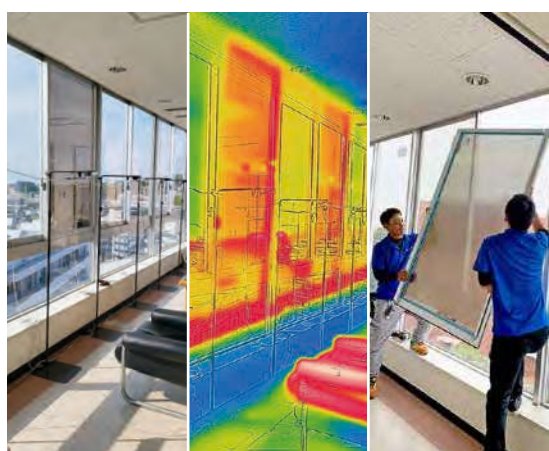
学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × (三建設備工業株) ×
亀屋硝子株 × サンゲツ株 ×
(株)ジャパンシールド

12 つくる責任
つなぐ責任

7 未来のエネルギー
を創る責任

9 産業と教育の
連携をつなぐ



概要

2050年脱炭素化目標に向け2022年建築物省エネ法が改正、全ての新築住宅や非住宅に省エネ基準適合が義務付けられました。一方で、多くの住宅ストックは基準不適合の状況です。とはいえ、高性能の窓の採用だけでは、外皮性能が省エネ基準を満たしても必ずしも夏と冬の両季節ともに室内の温熱環境を快適にできるとは限りません。成果を日本建築学会「SDGs対応特別調査委員会「健全な環境づくり：リフォームを通して考える」大会学術講演会」で発表しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 窓の外皮性能と室内の快適性能を定量評価する技術
- 課題発見および解決策を提案する専門的思考力

No. 研究 [担当] 香川治美/安達隆博/福田潤/萩原悟一/秋山大輔

69 人々の健康的な生活と快適性のための避難場所の居住環境調査

学 外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × 人間科学部 ×
(福岡パッケージ)

12 つくる責任
つなぐ責任

3 すべての人に
健康と福祉を

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



概要

災害時には地域の方々の避難施設となる本学の大楠アリーナにて、「段ボールベッドの寝心地を評価する実験」を実施しました。利用者の心理状態・生理反応や環境物理の測定データから、寝心地を定量把握します。また得られた知見を被災地で応用していくため、居住環境を設計デザインする新興国の社会課題解決オンライン・インターンシップにも取り組みました。その成果を「第45回人間-生活環境系シンポジウム」、「2022年度日本建築学会九州支部」で発表しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 寝心地を定量評価する技術
- 建築都市デザインの基礎力
- 課題発見および解決策を提案する専門的思考力

No. 教育 [担当] 澤田直/安武芳紘

70 プロジェクトベース設計演習に基づくロボットコンテストなどへの参加

学 外
連携プロジェクト

理工学部 × (ETソフトウェアデザインロボットコンテスト (ETロボコン) ×
九州組み込みソフトウェアコンソーシアム (QUEST))

9 産業と教育の
連携をつなぐ

8 働きがい
と経済成長を

4 質の高い教育を
みんなに



概要

世界的にも珍しいソフトウェア重視の教育ロボコンである「ETロボコン」へ出場しています。高校生や大学生だけでなく社会人のチームとも競いながら、上位入賞を目指して挑戦をしています。ロボットのシステム開発をチームプロジェクトとして進める活動を通じて、大学で学んだことを発揮することができ、広い視野と将来の展望を得ることが出来ます。これまで全国大会にあたるチャンピオンシップ大会へ何度も出場し、競技優勝や総合3位などを受賞しています。

期待できる学生のスキルアップ

- システムデザイン力
- システム実装力
- プロジェクト管理・運営能力
- 社会人とのコミュニケーション能力

No. 71

教育

[担当] 牛見宣博 / 青木幹太 / 安熙卓

プロジェクトマネジメントの実践研究 -テクノアートプロジェクトを事例として-

学外・学部間
連携プロジェクト

工学研究科 × 大学院全研究科 ×
芸術学部 × 理工学部 ×
福岡市科学館



概要

大学院共通科目「プロジェクト実践演習」において、芸術系、理工系による学部間連携授業であるテクノアートプロジェクトをマネジメントします。大学院生は、プロジェクトに関わる企画、開発、経過報告、最終発表、展示・公開の全過程をマネジメントし、実践的な業務を通して社会における製品開発の予備体験を行います。活動を通して、コミュニケーション能力や調整能力のレベルを高め、大学院修了後に社会で通用する力を養っています。

期待できる学生のスキルアップ

- プロジェクトマネジメントによる決断力、考える力
- 異分野、異学年との交流を通じた指導力
- 人脈づくりを通じたコミュニケーション力、協調性

No. 72

研究

[担当] 牛見宣博 / 青木幹太

無電力起立訓練補助器具 プロジェクト

学外・学部間
連携プロジェクト

理工学部 × 芸術学部 ×
CNP Design: 田代雄大 氏



概要

起立訓練は、下肢筋力の強化へ非常に有効なリハビリテーションとして実施されています。この起立訓練を一般家庭において実施するためには、安価で簡易的に利用可能な補助器具の開発が望まれています。本プロジェクトでは、起立訓練を行う患者の方をサポートする無電力による補助器具の研究・開発を行っています。研究の成果は、2022年11月に開催された「KSU VISION DAY」でも展示されました。

期待できる学生のスキルアップ

- 現場ニーズを抽出し技術と組み合わせるスキルを学びます。
- 粘り強く考える力やコミュニケーション能力を磨きます。
- リハビリ装置の実用化を通じ若手技術者を育成します。

No. 73

教育

[担当] 松野尾仁美

もくらふとプロジェクト

学外
連携プロジェクト

建築都市工学部 × (株)ベガハウス
股旅社中



概要

学外の住宅設計施工会社と連携し、授業の枠を超えた木造住宅に関する専門知識を学んでいます。2022年度は、鹿児島県の(株)ベガハウスの社屋にて、即日設計ワークショップや立体造形を学ぶワークショップを実施しました。また、住宅と家具の関係を学ぶために、家具デザイナーによるレクチャーも実施しました。プロジェクトでは学外の実務家の仕事に触れることができるとともに、交流を通して木造住宅に携わる働き方を考える機会となっています。

期待できる学生のスキルアップ

- 即日設計会や建築家のレクチャーを通しての木造住宅の設計力の向上
- 学外の実務家とのやりとりを通じてのコミュニケーション能力の向上
- 造作家具などの実践的ワークショップによる住宅に関する知識の修得

No. **74** **社会貢献** [担当] 信濃康博

リノベーションプロジェクト

学外連携プロジェクト **建築都市工学部 × 池浦かずや氏 × 左官職人:矢羽田氏**



概要
 アーティスト池浦氏所有の福津市の元農業用倉庫をアトリエにリノベーションするプロジェクト。以前のプロジェクトでは、まず円柱を斜めに切断した形のアトリエを当研究室でデザインし、構造体を住幸房が施工しました。次に、研修室所属の学生が、左官職人である矢羽田氏に指導を受けながら土壁塗りを実施しました。今回のプロジェクトでは、研究室所属学生が参加して、土壁同様左官職人である矢羽田氏に指導を受けながら、円柱外部の床を「テラゾー」とよばれる床仕上げで施工しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 学生の実務経験が積める
- 実際の仕事に近いスキルが身に付く
- 学校で学んだことを実践できる
- 伝統的職人技を体験できる

No. **75** **社会貢献** [担当] 松野仁仁美

歴史的建造物活用プロジェクト

学外連携プロジェクト **建築都市工学部 × 新宮町まちづくり団体TAP × (一社)柳川暮らしつぐ会 × (公社)福岡県建築士会**



改修中の古民家の見学の様子

概要
 古民家などの歴史的建造物の実測調査やまちあるき調査を行い、活用する方法を考えるプロジェクトです。今年度は、柳川で歴史的資源の活用などに取り組む(一社)柳川暮らしつぐ会と連携し、活用の様子や改修中の現場見学を行いました。空き家となった武家屋敷の清掃活動にも協力し、地域貢献にも取り組みました。また、年度末には、(公社)福岡県建築士会が主催する新宮町立花口でのワークショップにも参加し、古民家の活用について、建築士の皆さんと意見交換しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 古民家の実測調査やまちあるき調査による建物や景観に関する知識の修得
- 全国の事例調査や地元まちづくり団体との意見交換による歴史的資源活用に向けた知識の修得
- 地元住民との交流によるコミュニケーション能力の向上

No. **76** **教育** [担当] 牛見宣博

ロボメカ・デザインコンペ

学外連携プロジェクト **理工学部 × 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門 × 福岡市科学館**



概要
 一般社団法人日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門主催の九州地区競技会「ロボメカ・デザインコンペ」に参加し、ロボット・メカトロニクス製品の企画とデザインを競います。2022年度はポストコロナを見据えた「健康、教育、観光、地域産業の振興に貢献するテレオペレーション、テレロボティクスのための独創的ロボメカデザイン」がテーマでした。最終審査において、本学のチームが「佳作」を受賞しました。

期待できる学生のスキルアップ

- デザインや技術の基礎知識と応用力を養います。
- コミュニケーション能力が身につきます。
- チームで協力して取り組む力が身につきます。

文系

2022年度 KSUプロジェクト型教育 学部間・学外との取り組み事例

No.	タイトル	ページ	No.	タイトル	ページ
77	 コロナ禍でも開催できる市民参加型運動会：KYUSAN FESTIVAL	36	90	古典“再生”プロジェクト	43
78	 日本語教員養成課程海外教育実習	37	91	実践企画演習	44
79	 福岡サントウオークプロジェクト	38	92	太宰府天満宮外国語観光コンシェルジュ	
80	 ベトナム向け筑後うどんの新メニュー開発プロジェクト	39	93	千早地区商業施設・公園における地域貢献型社会調査実習	
81	 宗像市を中心とした広域観光プロモーションの提案	40	94	デジタル時代における店舗小売業のマーケティングを再考するプロジェクト	45
82	海水浴場における人命救助ボランティア活動	41	95	TRICK ART PROJECT	
83	香椎宮の史資料調査を通じた地域社会・自治体への貢献活動		96	ビジネスマインド育成プロジェクト	
84	紙の辞書を使おうプロジェクト		97	百人一首 16 色	46
85	関係人口創出に向けたライブコマースの活用	42	98	福岡県男女共同参画センター「あすばるフォーラム」学生企画運営の社会調査報告会・ワークショップ開催	
86	希望のあかりプロジェクト		99	簿記授業に対する成績と授業満足度に関する研究	
87	経済学部実践的ゼミナール教育活性化事業		100	まじめな投資を始めよう！高校生と保護者へ向けた取り組み提案	47
88	経済学・生態学・芸術学による生物多様性価値の多面的評価	43	101	宗像市外の若者を対象としたドライブ観光の促進	
89	高校生のための Presentation Bootcamp		102	柳川サテライト大学	
			103	REAL JAPAN PROJECT 一世界に日本語・日本文化を伝えよう	48
			104	リーパスカレッジ 楽しい野球あそび	
			105	若者の金融リテラシー向上プロジェクト	

No. 社会貢献 [担当] 萩原悟一／秋山大輔／中尾武平

77 コロナ禍でも開催できる 市民参加型運動会：KYUSAN FESTIVAL



学外・学部間 連携プロジェクト
人間科学部 × 国際文化学部 × 子ども教育学科 × 芸術学部 ×
(株) OHG × (株)九州ペットフード × (有)進藤商店 × (株)ライジングゼファー福岡



①お菓子なアリーナ(お菓子集め競争)の様子 ②プロバスケットボール選手のパフォーマンスを見つめる参加者たち ③最終種目のリレーで奮闘する参加者の子どもたち

学生たちが企画・運営をおこなった「うん?どう?会」 コロナ禍でも参加できるように工夫をしました!

概要

九州産業大学の学生たちが地域の子どもたちや住民の皆さまのストレス発散の機会と親交を図るきっかけを創りたいと企画・運営をおこなった「うん?どう?会」です。コロナ禍でも参加できるように工夫をして、参加者の方々が安全かつ楽しく体を動かす機会と参加者同士の進捗を深める機会を創りました。実施した種目は、お菓子集めや地元プロバスケットボールチームの選手による3ポ

イントシュート予測など、体を動かすだけの運動だけでないユニークな種目を学生たちが企画し運営を行いました。当日は約80名の参加者が本学の大楠アリーナに集まり、交流を深めました。参加者の方々からは「また来年も是非参加したい!」と嬉しい言葉を沢山かけてもらいました。企画・運営に携わった学生たちも自信がついたのではと思います。

期待できる学生のスキルアップ

- 課題解決スキル
- コミュニケーションスキル
- 状況判断スキル
- スポーツ指導スキル
- イベント企画・運営スキル

参加者の声

企画・運営の経験を通して、誰かのことを考えて行動を起こす難しさ楽しさを感じました。参加対象者が親子だったので子どもと大人と一緒に楽しめるコンセプトと競技を考えることが難しかったです。しかし、参加者の笑顔の創造をモチベーションにチームで乗り越えることができました。イベント終了後に「また来年も来ます!」とお声をいただけたことが何よりも嬉しかったです。

小菌 颯

人間科学部
スポーツ健康科学科・3年
福岡県・光陵高等学校



No.

教育

[担当] 酒井順一郎

78 日本語教員養成課程 海外教育実習



学 外
連携プロジェクト

国際文化学部 × ベトナム・ホーチミン市外国語情報技術大学



① 教壇実習中の小田君 ② 先方の先生と日本語クラブの学生さん ③ ベトナム文化を体験する小田君と大浦君

ホーチミン市外国語情報技術大学で教壇実習！ 日本と海外の橋渡しをする異文化コミュニケーターを育成

概要

本プロジェクトは協定校のホーチミン市外国語情報技術大学に訪問し、日本語教育の教壇実習をしました。その際、「伝えよう、日本の魅力」、「楽しく、わかりやすく教えよう、日本語」、「教えてもらおう、異文化の言語・文化」を実践し、相互の言語・文化を比較・理解し、人脈をつくりました。実は、このプロジェクトのもう一つの目的は、これらの体験を通し日本と海外の橋渡しをする異文化コ

ミュニケーターの育成です。縮小する日本市場だけでは厳しく、海外で仕事をすることも必要となります。また、今や国内でも外国人と一緒に仕事することは当たり前です。異文化コミュニケーターは重要な存在となっています。本プロジェクトに参加し、「いつでも、どこでも、誰とでも、学び合い、仕事ができる」人材を目指しませんか。入学をお待ちしています！

期待できる学生のスキルアップ

- 異文化コミュニケーション力を理解・実践でき、異文化コミュニケーター及びグローバル人材の自覚を持ってました。
- 外国人に日本語・日本文化をわかりやすく教える方法を修得できました。
- 異文化の社会・文化を学び、日本語・日本文化と比較できました。
- ディスカッションを通して日本と諸外国の友好関係を築く術を学び理解できました。

参加者の声

まずは、とても濃い5日間でした！日本語・日本文化を教える楽しさと難しさを知り、英語や両国の言語・文化を比較することで新たな発見があったことは国内にいたら経験できません。経済成長著しいベトナムはパワーが溢れ、今回友達になったベトナム人の学生と一緒に仕事をしてみたいです。今後は日本人として世界との懸け橋となるべく異文化コミュニケーターとして活躍したいです。

小田 歩大

国際文化学部
国際文化学科・3年
長崎県・長崎北陽台高等学校



芸術系

理工系

文系

基礎教育センター

No.

教育

[担当] 黒木宏一／濱川和洋

79

福岡サンタウォークプロジェクト



学外・学部間
連携プロジェクト

経済学部 × 伝統みらい研究センター × 学友会体育会執行部チアリーダー × GARDENS CHIHAYA ちはや公園 ×
なみきスクエアみらいネットワーク × 千早をよくする会 × ゴスペル集団 all fruits × 福岡市立こども病院 ×
東部地域大学連携 × 地域自治会 × 地域住民



①参加者のみなさんと ②サンタの装いで行進 ③ぬり絵コーナーや縁日も運営しました！

病気に立ち向かう子どもたちを応援する 地域密着型チャリティーイベント！

概要

病気に立ち向かう子どもたちを応援する地域密着イベント。
サンタウォークとは、地域のひとたちみんなとサンタクロースの衣装で街を練り歩き、標記に立ち向かう子どもたちにクリスマスプレゼントを贈る地域密着型チャリティーイベント。経済学部専門科目「実践企画演習」の学生が、このイベントの福岡版:Fukuoka Santa Walkを企画。2017年度から、自治会や企業など

の協力を得ながら実施し、益金でプレゼントを購入し「福岡市立こども病院」に届けています。
2022年度は、GARDENS CHIHAYA ちはや公園をメイン会場に3年ぶりの開催。総勢115名がサンタウォークを楽しみました。イベントの益金は「療養環境整備基金」寄付金として福岡市立こども病院に届けました。

参加者の声

私は、リーダーとして、企業様への企画提案や出演団体との調整を担当しました。経験がないメンバーが、イベントの企画を一から始めることに不安でしたが、「イベントを通して、千早をもっと好きになってもらいたい」という思いの実現のため、準備を重ねました。当日は参加者どうしが触れ合い、楽しんでいただけました。プロジェクトを通して、準備の大切さを強く実感しました。

徳永 結

経済学部
経済学科・2年
福岡県・京都高等学校



期待できる学生のスキルアップ

- 前に踏み出す力(主体性、働きかける力、実行力)
- 考え抜く力(課題発見力、計画力など)
- チームで働く力(状況把握力、規律性、ストレスコントロール力など)
- 組織運営、営業、会計、各種書類作成などの実務能力
- 「組織と私」「組織と地域」などの関係性の理解

No.

研究

[担当] 船岡健太

80

ベトナム向け筑後うどんの新メニュー開発プロジェクト



学 外
連携プロジェクト

商学部 × 一吉うどん × 筑後うどん振興会 × 久留米商業高校 ×
久留米商工会議所 × 在福岡ベトナム総領事館 × 福岡県国際局



①一吉うどんホーチミン店における報告会(中央のイラストは、プロジェクトの公式キャラクター「リエン」)
②プロジェクト参加学生(一吉うどんホーチミン店にて) ③プロジェクト参加学生(ホーチミンシティの統一会堂にて)

久留米商業高校と共同で筑後うどん全体を応援 ホーチミンシティ現地で報告会を実施

概要

2019年度に「^{ひとよし}一吉うどん」(佐賀県みやき町)と連携してベトナム向け筑後うどんの新メニューを開発したプロジェクトに、2020年度より久留米商業高校と筑後うどん振興会が参加し、筑後うどん全体を盛り上げるプロジェクトとして実施しています。2022年度においては、筑後うどん振興会各店に設置したQRコードをスマートフォンで読み取るデジタルスタンプラリーを実施し、課題であった若い層の来店拡大を実現することが

できました。また、渡航制限の緩和により、一吉うどんホーチミン店における新メニュー報告会を今年度初めて実現することができました。この報告会では学生たちが現地スタッフの方々と意見交換を行い、日本食の海外展開に関するダイナミズムやベトナム現地における味の調整の難しさなどを学び、これらの学びが学生たちの国際的視野の醸成につながったのではと考えています。

期待できる学生のスキルアップ

- 九州企業の海外進出検討に関するリサーチ力の向上
- 企業の命運を左右する新商品の企画開発力の醸成
- 多くの企業が注目するベトナム市場の本質的理解
- 地場産業の振興に関するスキル向上
- プロジェクトをまとめるリーダーシップ力の養成

参加者の声

2022年度は、行動規制が緩やかになり、香椎祭ではリアル模擬店で実際に筑後うどんを提供することができました。香椎祭では、自分自身が考案した「うなぎうどん」の販売を行いました。「販売価格の設定をどうすればいいのか」、「材料をどれくらい仕入れておけばいいのか」など、ビジネスの醍醐味・難しさを学ぶことができました。一吉うどんホーチミン店での報告会では、現地スタッフの方よりアドバイスをいただいたり、数多くの貴重な経験をすることができました。

武田 大和

商学部
経営・流通学科・3年
福岡県・九州産業大学付属
九州産業高等学校



芸術系

理工系

文系

基礎教育センター

No. 社会貢献

[担当] 大方優子

81 宗像市を中心とした 広域観光プロモーションの提案

11 住み続けられるまちづくりを

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

8 働きがいも経済成長も

学 外 連携プロジェクト

地域共創学部 × 宗像市 × 農業法人ゆうま



①「MOFクリスマスマーケット in KSU」ポスター ②イベント会場の様子 ③参加学生たち

広域観光推進にむけて、若者をターゲットとした 観光プロモーションイベントを企画・運営!

概要

宗像市には世界遺産や道の駅むなかたなど、たくさんの観光資源があるものの、特に若者にはその魅力が伝わっていないという課題があります。そこで九州産業大学地域共創学部観光学科の学生が主体となり、宗像市を中心とした玄海エリア(宗像・岡垣・福津)の広域観光推進にむけて、若者をターゲットとした観光プロモーションイベント「MOFクリ

スママーケット in KSU」を企画・運営しました。玄海エリアそれぞれの自治体の頭文字をとって「MOF」と名付けたこのイベントでは、九州産業大学内に玄海エリアをPRするブースを設置し、グランピング×クリスマスマーケットという全体テーマのもと、若者にささる切り口で観光プロモーションを行いました。

参加者の声

自分たちでイベントで何をするか、どのような飾り付けをするか考え、買い出しに行き機の設置をするなどの準備がとても楽しかったです!初めてのことで不安でしたが、先生や宗像市からのサポートもあり、当日の来場者が楽しんでいる姿を見て頑張ってたよかったです!みんなの笑顔を見ることで私も嬉しい気持ちでいっぱいでした!

藤川 寿子

地域共創学部
観光学科・3年
福岡県・嘉穂高等学校



期待できる学生のスキルアップ

- リサーチ力
- 企画力
- プレゼン力
- 仲間と協力して進める力

No. 82

社会貢献

[担当] 朝日亮太

海水浴場における人命救助ボランティア活動



学 外
連携プロジェクト

商学部 × 地域の消防関係者 ×
地域行政機関



概要

志賀島海水浴場やシーサイドもち海浜公園にて、夏にライフセービングのボランティア活動を行っています。地域の消防士や警察の方などと連携し、未然に水難事故を防ぐためのパトロールや救命活動などを行います。海水浴シーズン以外もトレーニング、事故への対応や安全管理について学びます。泳ぎが上手である必要はなく、一人一人が自分のできることを考え、チームで協力しながら活動しています。海の家の方などと海水浴場をより魅力的にするための活動も行います。

期待できる学生のスキルアップ

- チーム活動では、自身のできることを認識し実行することが求められます。その中で主体性、実行力が身に付きます。
- チーム活動では、仲間の状況を理解し思いやることが重要です。活動を通じて、状況把握力や柔軟性が身に付きます。
- 人命救助などのボランティア活動を通じて、消防・警察などの仕事に触れる機会が得られます。
- 将来の進路として消防士や警察官へ挑戦する学生が多いです。

No. 83

社会貢献

[担当] 須永敬

香椎宮の史資料調査を通じた地域社会・自治体への貢献活動



学 外
連携プロジェクト

国際文化学部 × 香椎宮 × 福岡市



概要

福岡市東区に鎮座する香椎宮が所蔵する「ホンモノ」の歴史資料の調査・整理・分析を通じて、学内では成し得ない高度に専門的な授業を実践しています。具体的には、香椎宮蔵の近代史資料および蔵書などの所蔵状態を確認し、それら資料の目録作成を行なうとともに、文書保存用の封筒や箱に保存することにより、この資料群を未来へとつなぐミッションです。なお、本プロジェクトの調査成果は香椎宮とともに福岡市にも提供され、地域社会の文化財行政にも貢献しています。

期待できる学生のスキルアップ

- 渉外能力
- 情報整理力
- 課題解決力

No. 84

教育

[担当] 辛島美絵

紙の辞書を使おうプロジェクト



学 部 間
連携プロジェクト

国際文化学部 × 図書館



概要

皆さんは、紙の辞書を使っていますか？言葉の意味だけならweb上で簡単に検索できますが、紙の辞書は、これまでに蓄積された知識の宝庫です。広い社会・文化における言葉の使い方を教えてください。紙の辞書は、どう使うと便利なのか？このプロジェクトは、それを解説し、紙の辞書の活用を社会に促すことが目的です。メンバーは、九州産業大学図書館のいろいろな辞書の特色について研究し、来館者に向けて辞書の便利な使い方を解説するポスターを作成・掲示しています。

期待できる学生のスキルアップ

- 日本語についての知識
- 文献調査の技術
- プレゼンテーション能力
- コミュニケーション能力
- 社会人基礎力

芸術系

理工系

文系

基礎教育センター

No. **85** **社会貢献** **関係人口創出に向けたライブコマースの活用** [担当] 佐藤忠文



学外連携プロジェクト **地域共創学部** × **U-Bito Japan(株)** × **菊池市地域学連携地域づくり実行委員会**

11 自ら取り組むべき学びの場
8 働きがいのある職場を実現
4 質の高い教育をみんなに

概要
人口減少社会のなかで注目される関係人口の創出に向け、ライブコマースの可能性を検討しました。事前にライバー（配信者）の方から講義などを受け、熊本県菊池市の物産館などで、ライバーの方々の指導のもと実際にライブ配信及びライブコマースを体験しました。当日の配信では、数百名の視聴者に向けて菊池市の物産品を紹介し、実際にライブコマースで「売れる」経験をすることができました。大学生は、それらの学びを通じてライブコマースの活用法を考え、提案しました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- メディア・リテラシー
 - コミュニケーション
 - プレゼンテーション

No. **86** **社会貢献** **希望のあかりプロジェクト** [担当] 間間理



学外・学部間連携プロジェクト **商学部** × **芸術学部** × **建築都市工学部** × **NPO法人トナリノ**

11 自ら取り組むべき学びの場
17 パートナーシップで社会を元気にしよう
9 職業と学習の連携で、高度な専門性を身につけよう

概要
東日本大震災で大きな被害を受けた陸前高田市の地域振興を手伝いながら、防災や復興のあり方について学んでいます。同じく九州北部豪雨で大きな被害を受けた朝倉市高木地区でも同様の狙いの取り組みをしています。学生メンバーが各自、大学で学んでいることを最大限活かした活動を展開していることも特徴です。2022年度は、震災に対する知識や防災に対する意識を高めるためのイベントを中心に活動を展開しました。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 災害の実態と防災知識を得る
 - 企画実行力
 - 傾聴力とニーズ汲み取り力

No. **87** **教育** **経済学部実践的ゼミナール教育活性化事業** [担当] 萱沼美香



学外連携プロジェクト **経済学部** × **各行政機関** × **各福祉系団体など**

3 持続可能な社会を築こう
11 自ら取り組むべき学びの場

概要
九州地域における「地域福祉」の現実的な問題について、理論と実践の両面から研究課題として取り組みます。事前の調査・研究を行った上で、実際に現地調査や見学、それぞれの問題に取り組む社会人などとの交流・協働を実践する機会を通じて、学びを深めます。その後、事前学習や実地調査などをもとに課題の考察を行い、研究発表会などで成果を示します。

- 期待できる学生のスキルアップ**
- 関係領域にかかわる知識の修得
 - 論理的思考能力の向上
 - 問題発見・解決能力の向上
 - コミュニケーション能力の向上
 - プレゼンテーション能力の向上

No. 88

研究

[担当] 澤田英司／内田泰三

経済学・生態学・芸術学による 生物多様性価値の多面的評価

学外・学部間
連携プロジェクト

経済・ビジネス研究科 × 都市建築工学部 ×
荒尾干潟水鳥・湿地センター



概要

私たちは、経済学・生態学・芸術学それぞれの展示を同時に準備しながら、生物多様性を持つ「価値」について改めて問い直します。これまでに、熊本県荒尾市、鹿児島県始良市、鹿児島県出水市でそれぞれの地域の生態系サービスに注目した企画展示を開催してきました。来場者へのアンケート調査や参加型イベントを重ねることで、自然環境に配慮した行動を促すためのヒントが蓄積されていきます。

期待できる学生のスキルアップ

- 学際的思考
- 問題解決力
- データ分析力
- コミュニケーション力

No. 89

教育

[担当] ピーター・カーター／三浦香織

高校生のための 英語 Presentation Bootcamp

学外
連携プロジェクト

国際文化学部 × 嘉穂東高校 × 香椎高校



概要

国際文化学部の英語教育の柱である「実践的なプレゼン力」を経験的に学べる3日間の集中講座です。「質の高い教育をみんなに」というSDGs No4を実践し、福岡県の国際化に貢献することを目指しています。英語ネイティブスピーカーの教員によるプレゼン作成の講義、360度カメラを駆使したフィードバック、教員志望の学生との交流など、楽しくするための3日間をお約束します。

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション力
- オーディエンスを意識したプレゼン力
- 協調性
- リーダーシップ
- 対話力・説明力

No. 90

教育

[担当] 天野聡一

古典“再生”プロジェクト

学外・学部間
連携プロジェクト

国際文化学部 × 九州産業大学図書館 ×
丸善 × 香椎宮 × 福岡市立図書館 など



概要

地域に眠る古典文学の魅力を掘り起こし、目に見えるかたちで現代に“再生”したい——この願いが本プロジェクトの原点です。2022年度は、香椎をはじめとする福岡の歌枕を詠み込んだ和歌を光沢のある和紙に印刷し、「香椎和歌葉」として香椎宮をはじめとする学内外の各所において配布しました。デザイン策定や協力機関との交渉などは、すべて学生たちで行いました。1000部作成した葉は、すべて地域の人々や学内の学生たちの手もとに届けられました。

期待できる学生のスキルアップ

- 和歌についての研究能力
- 地域の歴史についての理解
- プレゼンテーション能力
- コミュニケーション能力
- リーダーシップ、フォローシップ

芸術系

理工系

文系

基礎教育センター

No. 91 教育 [担当] 下田真也

実践企画演習

学外・学部間
連携プロジェクト

経済学部 × 入試部 × 金融知力普及協会 × やまのみ保育園



概要

学内外の様々な組織と連携して行う複数のプロジェクトを、企画立案から実行まで学生が主体になって行う科目です。2022年度は、「経済学部をPRするパンフレット作製」や「オープンキャンパスでの経済学体験イベント実施」、「ゼミナール紹介パネル作製」、「近隣保育園でのクリスマスイベント」、「JR鹿児島線沿線のおすすめスポット紹介パンフレット作製」などに取り組んできました。打合せなどで社会人の方と関わる機会も多く、一般的な講義では得られない体験をすることができます。

期待できる学生のスキルアップ

- グループ活動に必要な組織をまとめる力
- 普段交流がない部外の方と交渉する力
- 予想外の事態が発生した際に臨機応変に対応する力

No. 92 教育 [担当] 三浦香織

太宰府天満宮外国語観光コンシェルジュ

学外
連携プロジェクト

国際文化学部 × 太宰府天満宮



概要

九州屈指の観光地である「太宰府天満宮」で複数の言語(英語・中国語・韓国語・ベトナム語など)を用いて境内や周辺の観光案内をする活動です。ホテルのコンシェルジュのように「天満宮のことなら、何でもお任せ!」がモットーです。事前授業で、天神信仰や菅原道真公の生涯、天満宮と地域社会などについてグループで調査し、クラスでのディスカッションを通して理解を深めます。現地実習では、事前授業で得た知識を活かし、天満宮での観光案内に従事します。

期待できる学生のスキルアップ

- コミュニケーション力
- 調査力・企画力・実行力
- 協調性
- 社会人マナー
- 天満宮の歴史や社会との関係

No. 93 教育 [担当] 山下永子

千早地区商業施設・公園における地域貢献型社会調査実習

学外
連携プロジェクト

地域共創学部 × 高橋株



概要

福岡市東区千早にて複合商業施設「ガーデンズ千早」と「ちはや公園」を運営する高橋株式会社との協働のもと、地域交流が生まれる空間づくり・イベントの提案を目的とした地域社会調査実習を行いました。文献データ調査、現地観察調査、運営者聞き取り調査、来場者アンケート調査など、様々な社会調査を行いデータを収集し分析しました。その結果、地域の問題を解決し、利用者のニーズを満たすことができるようなアイデアやプログラムを提案・報告することができました。

期待できる学生のスキルアップ

- データ収集力
- データ分析力
- 課題解決力
- コミュニケーション力
- プレゼンテーション力

No. 94

教育

[担当] 秦小紅

デジタル時代における店舗小売業のマーケティングを再考するプロジェクト



学 外
連携プロジェクト

商学部 × (株)NANATO ×

機エフ・ジェイ エンターテインメントワークス



概要

インターネット通販が私たちの生活に浸透するにつれて、リアル店舗を訪れる人は減少しています。リアル店舗への来店促進に関心を持つ流通マーケティング学系の3年生16名はキャナルシティ博多の支配人との座談会やキャナルシティ博多の実地調査および来店客アンケート調査を行い、リアル店舗ならではの魅力を味わえるイベントを企画し実施しました。本プロジェクトを通じて、学生たちはリアル店舗のマーケティングを実践的に学ぶことができました。

期待できる学生のスキルアップ

- 思考力
- 行動力
- コミュニケーション力
- チームワーク力

No. 95

教育

[担当] 黒木宏一／濱川和洋

TRICK ART PROJECT

学外・学部間
連携プロジェクト

経済学部 × 芸術学部 ×

伝統みらい研究センター × 福岡市立こども病院



概要

コロナ禍であっても入院中の子どもたちやそのご家族、医療関係者の方々が笑顔になれるようなイベントをしたいと企画し、2020年度から開始した「福岡サントウオークプロジェクト」の姉妹プロジェクト。経済学部の学生が企画し、芸術学部の学生がデザインを担当するという、学部の強みを合わせることで実現したプロジェクトです。2022年度は、「サンタと友達になれるトリックアート」をテーマに、4つの作品で表現しました。

期待できる学生のスキルアップ

- デザイン力
- チームで働く力(状況把握力、規律性、ストレスコントロール力など)
- 前に踏み出す力(主体性、働きかける力、実行力)
- 考え抜く力(課題発見力、計画力など)

No. 96

教育

[担当] 間間理／浦野倫平

ビジネスマインド育成プロジェクト

学 部 間
連携プロジェクト

商学部 × 産学連携支援室 ×

総務部



概要

新時代のビジネスコンセプト創出をめざす、商学部の経営実践演習という授業から生まれたプロジェクトです。テーマはジェンダー・レス(社会的性差の解消)を意識した男性向けスキンケアならびにメイクの促進・提案です。メンバーは2年生4名ですが、大学入学直後からプロジェクトを立ち上げ、ここまでアイデアを深め、プロトタイプ(試作レベル)となるビジネスコンセプトを確立することができました。

期待できる学生のスキルアップ

- プレゼン力が格段に向上した。
- チーム内のコミュニケーション能力が向上した。
- 社会問題・課題に対する気付きが増えた。
- 将来に向けた前向きなモチベーションが高まった。

No. 97

教育 [担当] 宮崎裕子

ひやくにんいっしゆ いろ いろ
百人一首 16色



学部間
連携プロジェクト

国際文化学部 × 九州産業大学図書館



概要

九州産業大学図書館蔵「百人一首かるた」(江戸中期作)に関する企画展示を実施しました。江戸時代から現代に至るまで広く親しまれている百人一首カルタをより多くの方にお楽しみいただくため、ゼミ生の発案で同カルタの中でも特に有名な16首を選び、各歌の内容から連想されるイメージカラーとともに紹介しています。和歌の内容にふさわしい色について検討することは、言葉によって表現された世界を視覚的に捉えることに繋がり、和歌に対する理解が深まりました。

期待できる学生のスキルアップ

- 専門知識をわかりやすく伝える技術を身につける
- 企画力を伸ばす
- 表現力を磨く
- 貴重資料の扱い方を学ぶ

No. 98

教育 [担当] 山下永子

福岡県男女共同参画センター
「あすばるフォーラム」学生企画運営の
社会調査報告会・ワークショップ開催



学外
連携プロジェクト

地域共創学部 ×
福岡県男女共同参画センター



概要

福岡県男女共同参画センター主催「あすばるフォーラム」の公募助成企画に採択されワークショップを開催しました。「大学生が考えるリプロダクティブ・ヘルス&ライツ」をテーマに、アンケート調査を行い、同センターで公開報告会・トークライブを主催し、多くの方にご参加いただきました。ゲストの弁護士や新聞社の方々とともに、性と生殖に関する健康と権利について、一人ひとりが当事者として理解し、行動していくことの重要性について議論することができました。

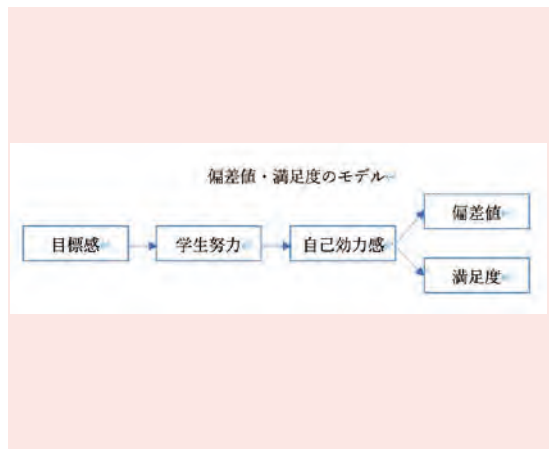
期待できる学生のスキルアップ

- 問題発見力
- リサーチ力
- データ分析力
- プレゼンテーション力
- ファシリテーション力

No. 99

教育 [担当] 金川一夫

簿記授業に対する成績と
授業満足度に関する研究



学外
連携プロジェクト

商学部 × 環太平洋大学経営学部



概要

簿記に対して成績と授業満足度に影響を与える要因の因果関係を調べています。九州産業大学(KSU)(100分、全14回)と環太平洋大学(IPU)(100分、全12回+課題2回)の履修者を対象とし、アンケートで得られたデータよりKSU42名(男性35、女性7)とIPU 54名(男性43、女性11)を抽出しました。結果として、KSUは提出意識が高いこと、IPUは資格取得に関する意識が高く、オンライン授業に肯定的な意識をもっていることが判明しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 簿記の理解度が高くなる
- 簿記の理解を妨げる要因が明らかになる
- 簿記の教育方法を改善できる

No. 100

教育

[担当] 平川幹和子

まじめな投資を始めよう！高校生と保護者へ向けた取り組み提案

学 外
連携プロジェクト

商学部 × 福岡銀行



概要

3年次のゼミナール活動として、高校での金融教育に「資産形成」が必修化されたことを背景に、学生が商学部で学んだ金融知識を活かし、「高校生に投資について興味を持ってもらう」ことをコンセプトとした企画を実施しました。オープンキャンパスに来場する高校生に、歳の近い大学生が投資を説明することで親近感を持ってもらうよう取り組みました。高校生40名が参加し、投資に関するアンケートをして得たことを基に、福岡銀行へ大学と連携して高校で資産形成に関する授業実施することなどを提案しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 正確な情報収集の能力
- 商学部での学びを活かす力
- 生きていく上で必要な幅広い知識と投資力

No. 101

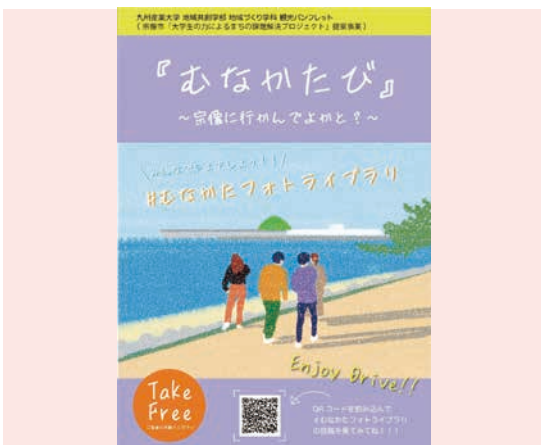
教育

[担当] 高山和幸

宗像市外の若者を対象としたドライブ観光の促進

学 外
連携プロジェクト

地域共創学部 × 宗像市



概要

地域共創学部の3年生が、若者観光促進を目的として、冊子「おなれたび」を制作しました。学生たちは宗像市に企画を提案し、制作のための助成金を獲得し、完成まで何度も宗像市と調整を重ねました。現地取材、撮影・被写体、デザイン・編集には、メンバーが声をかけた友人たちが参加しています。冊子は、運転免許を取得した若者を対象に、「免許を取ったら宗像市へ」というコンセプトで制作し、初心者でも運転しやすいドライブスポットをまとめています。

期待できる学生のスキルアップ

- 地域・行政との調整力
- 課題発見力
- 企画提案力
- 地域との協力関係構築

No. 102

教育

[担当] 千相哲

柳川サテライト大学

学 外
連携プロジェクト

地域共創学部 × 柳川市



概要

本学と柳川市の連携事業である「柳川サテライト大学」では、学生が柳川をフィールドに毎年のテーマに対し現状と課題を分析し、柳川市に課題解決策の提案を行っています。2009年度からの事業ですが、2022年度は、SNSで観光情報を発信する活動を行いました。市外の人にあまり知られていない隠れコンテンツを発掘し、関係者の方にインタビューした内容を記事にし、撮影した写真と一緒にSNSで発信しました。柳川市の関係者に活動結果を報告する機会を設けています。

期待できる学生のスキルアップ

- 課題発見力
- 課題解決を考える力
- 共通の目標を達成するためのコミュニケーション力
- インタビュースキル
- SNS活用力

No. 教育 **103 REAL JAPAN PROJECT**
—世界に日本語・日本文化を伝えよう—

[担当] 酒井順一郎

学 外 国際文化学部 ×
連携プロジェクト ベトナム・ホーチミン市外国語情報技術大学



概要

海外の対日観はステレオタイプ的でありREALな日本が伝わっていません。また日本人も日本語・日本文化をよく理解していません。そこで酒井順一郎ゼミナールではREALな日本(日本語・日本文化など)とその魅力を伝え、相手の言語・文化を学び、さらに、議論を通し友情を深めました。今回のお相手はベトナムのホーチミン市外国語情報大学の皆さんです。コロナ禍のためオンラインで実施しましたが、次回は皆さんと一緒にいきたいものです。皆さんの入学をお待ちしています!

期待できる学生のスキルアップ

- ステレオタイプではないREALな日本を調査し基礎知識を蓄えることができました。
- 日本の概念、魅力を伝えるコミュニケーション能力を養うことができました。
- 異文化の言語・文化を学び理解できました。
- ディスカッションを通して日本と諸外国の友好関係を築く術を学び理解できました。

No. 社会貢献 **104 リーパスカレッジ**
楽しい野球あそび

[担当] 奥村浩正

学 外 人間科学部 × 古賀市教育委員会
連携プロジェクト



概要

このプロジェクトは、本学と古賀市との連携協定をもとに、子どもの多様な遊びの機会を提供し、運動が好きな子どもが増えることを目的としています。以前は年に一回の開催でしたが、本年度からは好評につき年に二回開催となりました。このプロジェクトは、「野球遊び」とおとして身体を動かす楽しさや、野球の普及活動の一環として取り組んでいます。参加した子どもたちが、ここでの体験がきっかけとなり、長きにわたり野球に携われるようになることを望みます。

期待できる学生のスキルアップ

- 物事の伝え方を考え身につけることができた(学生談)
- 企画・実施は準備と臨機応変の対応が重要(学生談)
- 野球の楽しさを改めて再確認できた(学生談)
- 指導には目線を合わせる事が重要(学生談)
- 教える難しさを学んだ(学生談)

No. 教育 **105 若者の金融リテラシー**
向上プロジェクト

[担当] 岩永洋平/侯利娟/西村香織/平川幹和子/侯聡聡

学 外 商学部 × 福岡銀行
連携プロジェクト



概要

福岡銀行に対して、金融リテラシーや関心度の向上を目指した様々な提案をしました。具体的には、若者の「金融」に対する意識や行動の調査、若者の関心を高めるコミュニケーション案(SNS動画広告やポスター)、若者との関係構築などについて研究を行い、同社担当者に向けて発表しました。また、リアルな損益情報に触れてもらう「大学生向けの資産運用シミュレーションの実施」などの提案をしました。最終的に福岡銀行と共同で若者向けのSNSの広告動画やポスターの作成を実施しました。

期待できる学生のスキルアップ

- 提案力
- 調査力
- 金融知識
- 実行力
- コミュニケーション力

基礎教育 センター

2022年度 KSUプロジェクト型教育 学部間・学外との取り組み事例

No.	タイトル	ページ
106	6次産業化実践プロジェクト	50

106 6次産業化 実践プロジェクト

学外・学部間
連携プロジェクト

基礎教育センター × 経済学部 × 商学部 × 地域共創学部 × 国際文化学部 × 理工学部 ×

糸島ジャムとバカサスコーヒー × ノゾマフィン × 愛菜市場 × 福岡県立宇美商業高等学校 ×

柳川市 × 城アガバファーム × まゆの会 × 小鹿田焼



概要

「地と知の融合ー生産者に良し 地域住民に良し 学びに良しー」というコンセプトのもと、「地産地消」「6次産業化」「地域活性化」を目的に学園祭(大学内)にて開催する「九産大マルシェ」の成功を目指しています。学生たちは学部の枠を超えて検討を重ねるだけでなく、学外の連携先とも積極的に協働しながら取り組みました。結果、マルシェが成功裏に終わっただけでなく、出店者・購買者アンケートなどの振り返りから、次年度以降のマルシェの姿も提案していきました。

期待できる学生のスキルアップ

- 論理的に思考し判断・行動する能力
- 主体的に他者と協力する能力、多様性を認めて変化し続ける能力
- 修得した知識・技能を活かし、他者と協働し創造力を発揮する能力
- 情報技術を活用する能力
- 多様な人々とコミュニケーションする能力





文理芸融合のグローバル総合大学へ

A university leading in unique fusion education in the Humanities,
Science and Art to inspire the globally active next generation.



発行：学校法人 中村産業学園 教務部
〒813-8503 福岡市東区松香台2丁目3番1号
TEL:092-673-5455



ホームページはこちら
[KSUプロジェクト型教育]

九産大はこの10年でこんなに変わりました!

1960(昭和35)年開学 創設者 中村 治四郎

〈建学の理想〉

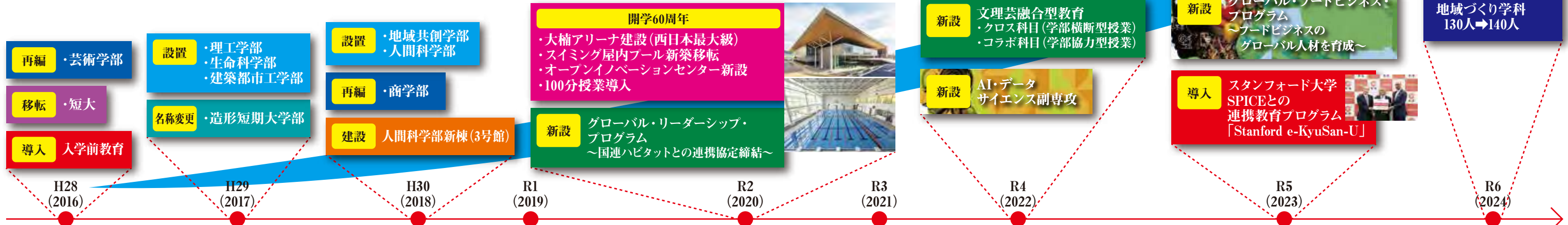
産学一如

さんがくいちによ

産業と大学は車の両輪のように
一体となって時代の社会のニーズを
満たすべきである。

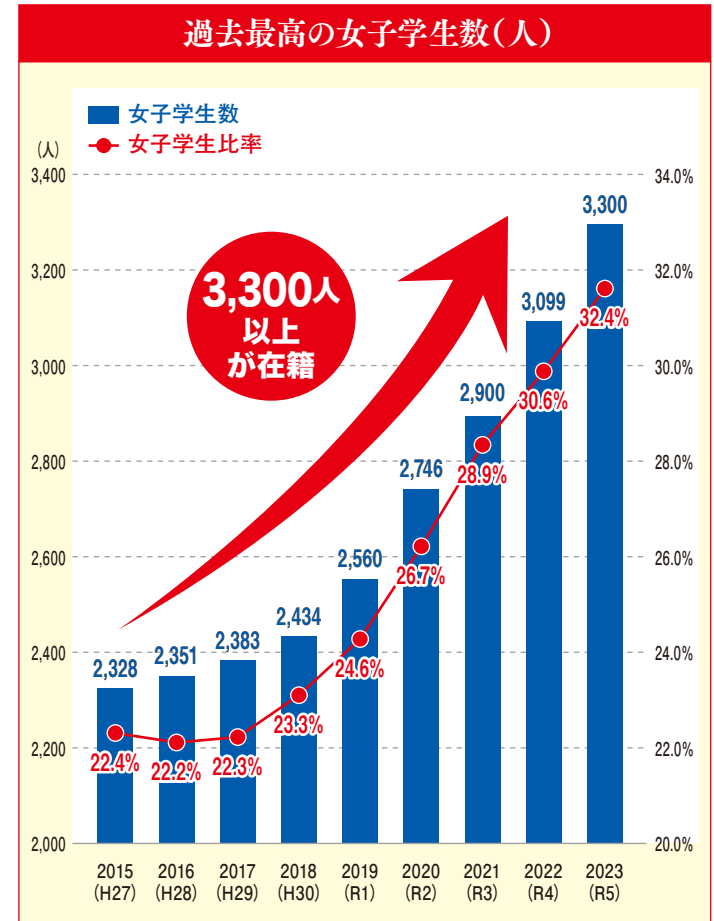
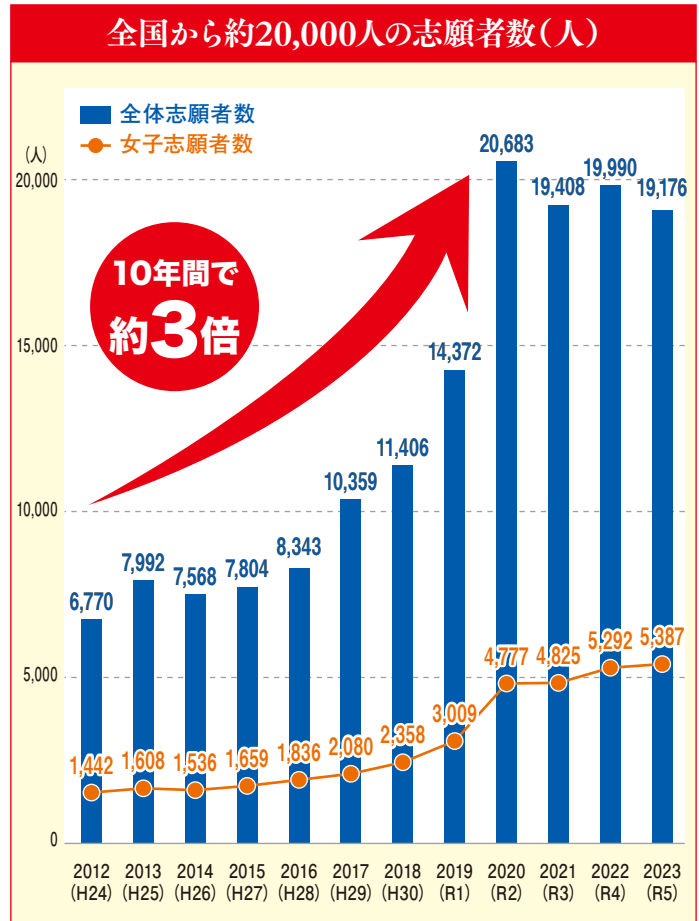
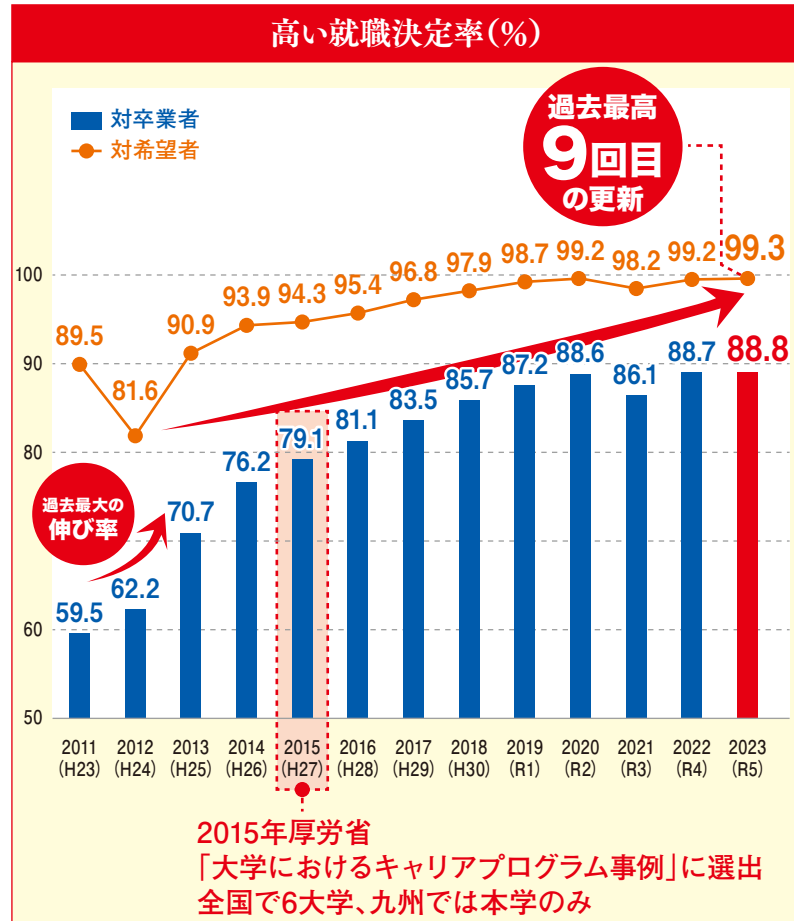
国の根幹は産業であり、大学がその成長のためのシンクタンク(頭脳集団)としての役割を果たさなければならない。
九産大がその先駆け(フロントランナー)となり、産業と学問が一体となって、具体的な問題を実学的手法で解決をしていきたい。
学問を産業に活かし、「学問の究極は芸術である」という創設者の思いから、九産大は芸術学部を有するユニークな総合大学である。

国際文化学部	人間科学部	経済学部	商学部	地域共創学部	理工学部	生命科学部	建築都市工学部	芸術学部	造形短期大学部	大学院
国際文化学科 日本文化学科	臨床心理学科 子ども教育学科 スポーツ健康科学科	経済学科	経営・流通学科	観光学科 地域づくり学科	情報科学科 機械工学科 電気工学科	生命科学科	建築学科 住居・インテリア学科 都市デザイン工学科	芸術表現学科 写真・映像メディア学科 ビジュアルデザイン学科 生活環境デザイン学科 ソーシャルデザイン学科	造形芸術学科	国際文化研究科 経済・ビジネス研究科 情報科学研究科 工学研究科 芸術研究科



文系・理工系・芸術系の10学部22学科 大学院5研究科を有し約

11,000人の学生が1つのキャンパスで学ぶ西日本最大級の総合大学



高い外部評価

改革力が高い大学ランキング

九州で **第1位**

私立大学 **620**校中

「大学通信ONLINE 改革力が高い大学 全国編」より

創造力がある大学

数ある大学の中でも堂々の **第1位**

55校中

「大学ブランドイメージ調査2020-2021 九州・沖縄・山口編」より

就職支援力

全国有力企業からの評価! **第1位**

「企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査 (九州・沖縄・山口地区の私立大学順位)」
調査対象: 2018年2月の全上場企業と一部有力未上場企業4750社 回答者数: 929社
調査期間: 2018年2月19日~3月23日 日本経済新聞社と日経HRの共同調査

全国初!

キャリア教育の **全員受講体制** 導入!

(在学生2,000人以上の大学を対象) [1~3年次のキャリア教育科目導入]

VII 参 考 资 料

外部評価委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、九州産業大学（以下「大学」という。）及び九州産業大学造形短期大学部（以下「短大」という。）における自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育の質の向上を図ることを目的として設置する外部評価委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 理事長
- (2) 外部有識者 4名以上
- (3) その他理事長が必要と認めた者

2 前項第2号及び同項第3号の委員は、理事長が指名する。

3 第1項第2号及び同項第3号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、理事長をもって充てる。

(運営)

第4条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の3分の2以上の出席によって成立する。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決定し、可否同数のときは、議長が決定する。

4 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(審議事項)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 大学及び短大の自己点検・評価活動の評価に関する事項
- (2) 大学及び短大の内部質保証の評価に関する事項
- (3) その他委員長が必要と認めた事項

(事務)

第6条 委員会の事務は、大学評価室が行う。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、理事小委員会の議決によるものとする。

附 則

1 この規程は、令和2年7月21日から施行する。

2 この規程の施行後、最初に理事長が指名する委員の任期は、第2条第3項の規定にかかわらず、令和4年3月31日までとする。

九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部 内部質保証システム

